Working Travel

「旅をしながら働く」実証実験

Working Travel とは

「旅をしながら働く」実証実験

働きながら旅をする

× 海外視察
× 製品検査（＋観光）
× 休暇旅行中にやむを得ず仕事
× 異国を旅していたはずなのに
　気づいたら現地で就労してた

旅をしながら働く

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

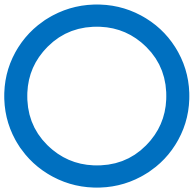
Working Travel

「旅をしながら働く」実証実験

「働きながら旅をする」から「旅をしながら働く」へ

ノマドワーカーとして

独立＆起業して各国の
コワーキングで働く



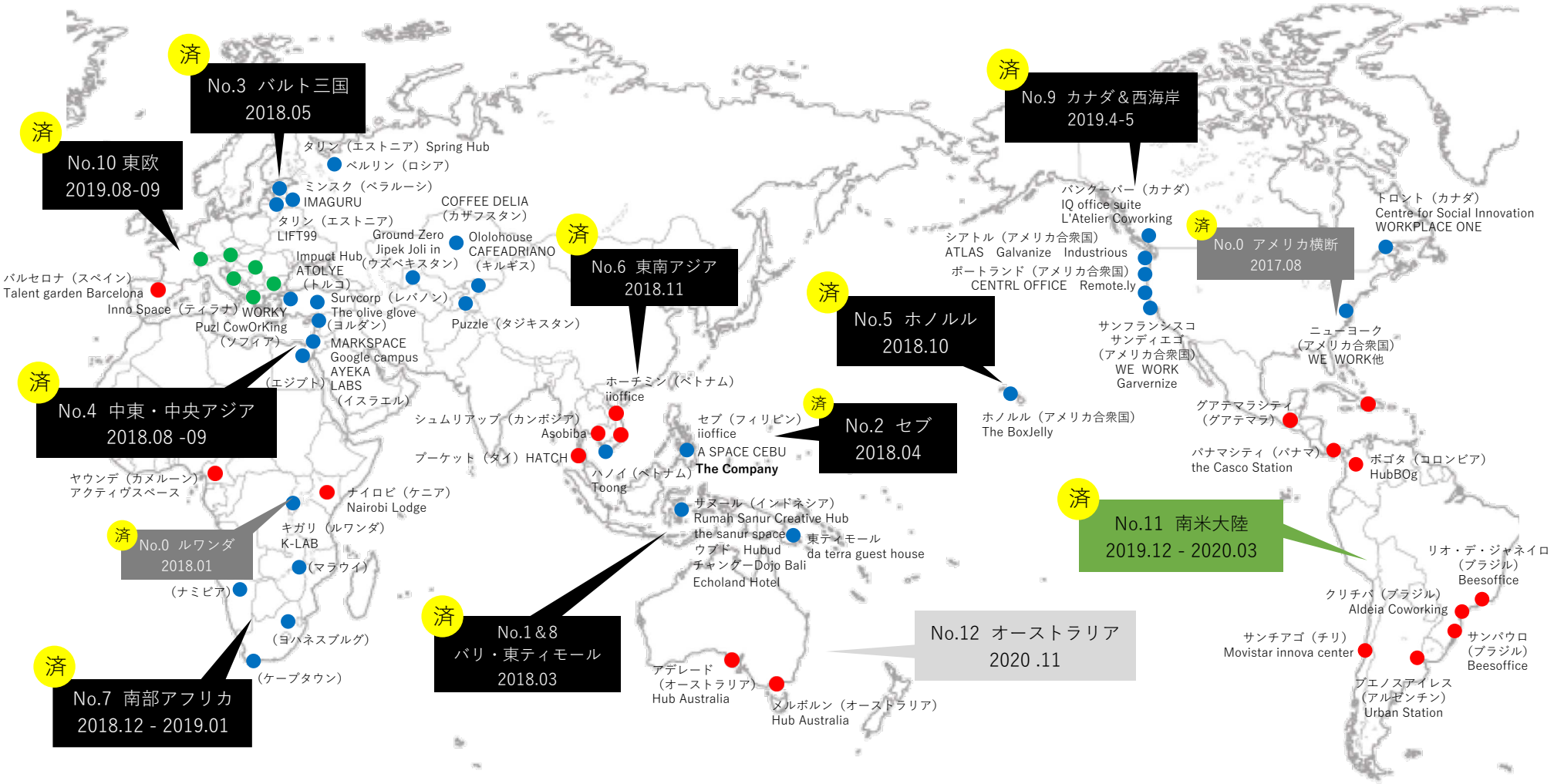
サラリーマンとして

決められた制度の中で
旅をしながら働く

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Working Travel

「旅をしながら働く」実証実験



© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Working Travel

「旅をしながら働く」実証実験

Travel 年間比率

2017

94days

365days

(25.8%)

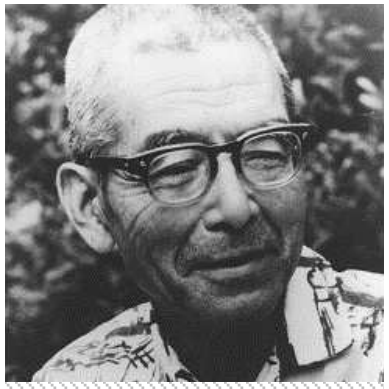
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Working Travel とは

「旅をしながら働く」実証実験

ベースとなる教養

考現学



今 和次郎

1888年*7月10日*－1973年10月27日は、民俗学研究者。
民家・服装研究などで業績があり「考現学」を提唱し、建築学、住居生活や意匠研究などでも活躍した。東京美術学校出身の画家でもあった。早稲田大学理工学部建築学科で長く教壇に立ち、日本生活学会会長、日本建築士会会長も務める。

エスノグラフィー

佐藤 郁哉

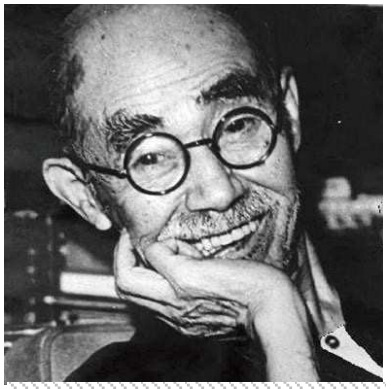
一橋大学教授。
2000年前後より学術出版および学術コミュニケーションに関する社会学的研究を開始。2013年には英国において約6ヶ月間にわたって同国の研究評価制度（RAE/REF）に関する現地調査を実施した。2015年度からは、研究評価制度と選択的資源配分に関する共同研究に従事している。

文化人類学

南方 熊楠

1867年5月18日ー1941年12月29日
和歌山生まれ。
博物学者、生物学者、民俗学者。
大学予備門(現東京大学)を経て米英に留学、動植物学・人類学などを学ぶ。帰国後は和歌山県の田辺に住み粘菌・民俗学研究に没頭。分野の枠を超えた学者として知られる。

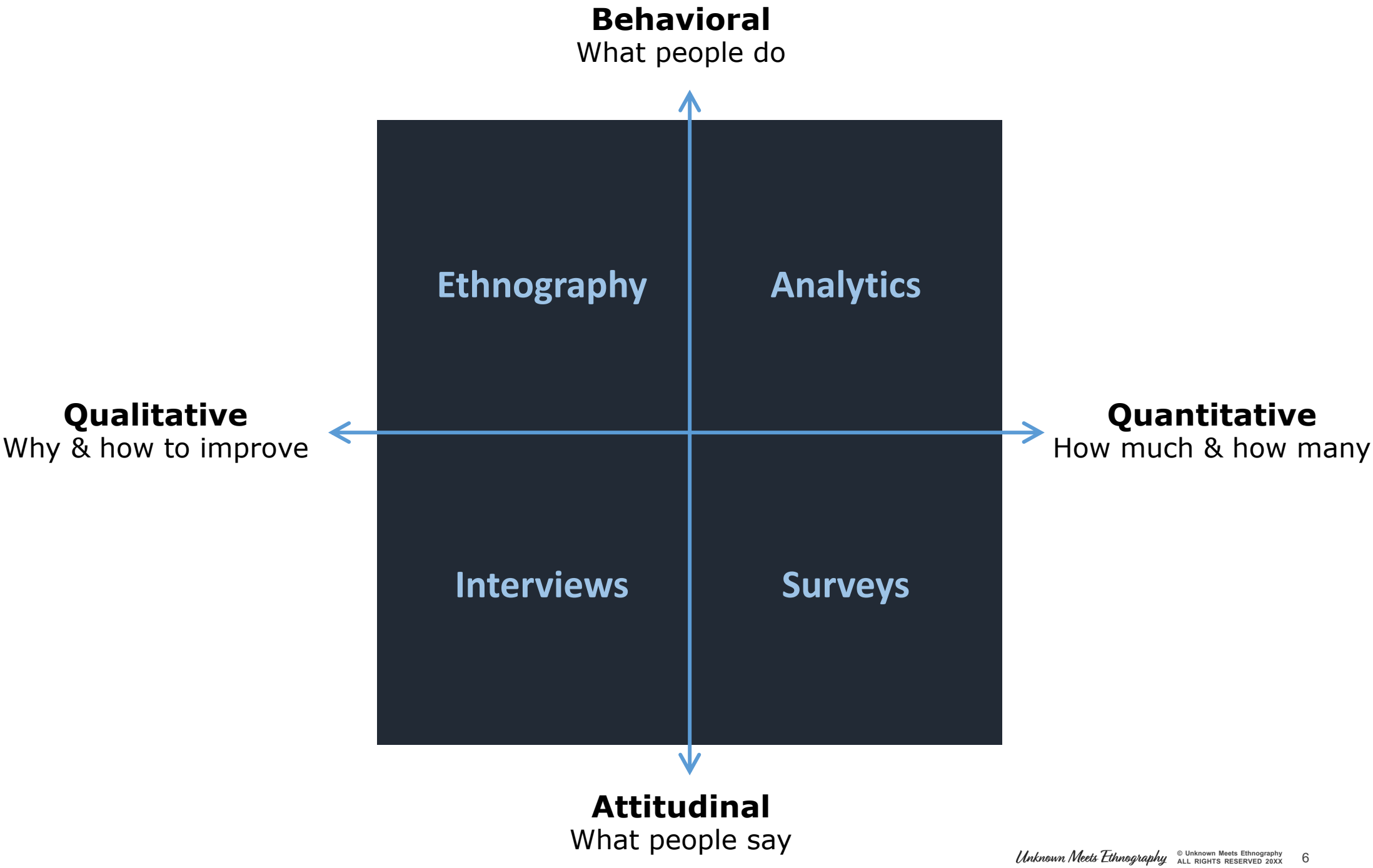
文化人類学



柳田 國男

1875年－1962年兵庫県生れ。
東京帝大法科卒。
農商務省に入り、法制局参事官、貴族院書記官長を歴任後、朝日新聞社に入り国際連盟委任統治委員も務める。1909年に『後狩詞記』刊行、1913年に雑誌「郷土研究」創刊、1935年に民間伝承の会を創始して、日本民俗学の確立と研究の普及に努めた。1951年文化勲章受章。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



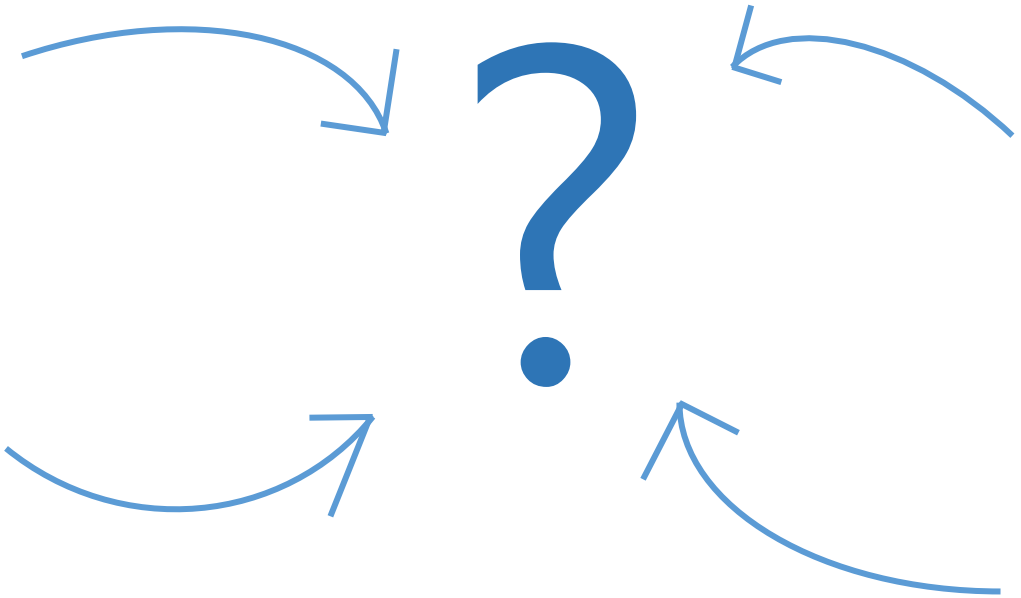
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

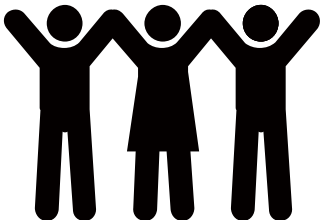
BRIDGING BIG AND THICK DATA

CITY

BIG

Traffic
Temperature
Humidity
Waste
….





CITIZENS

THICK

Experiences
Emotions
Opinions
Motivations
….

BIG

Behavioral Data
(e.g. location tracker)
….

Unknown Meets Ethnography © Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

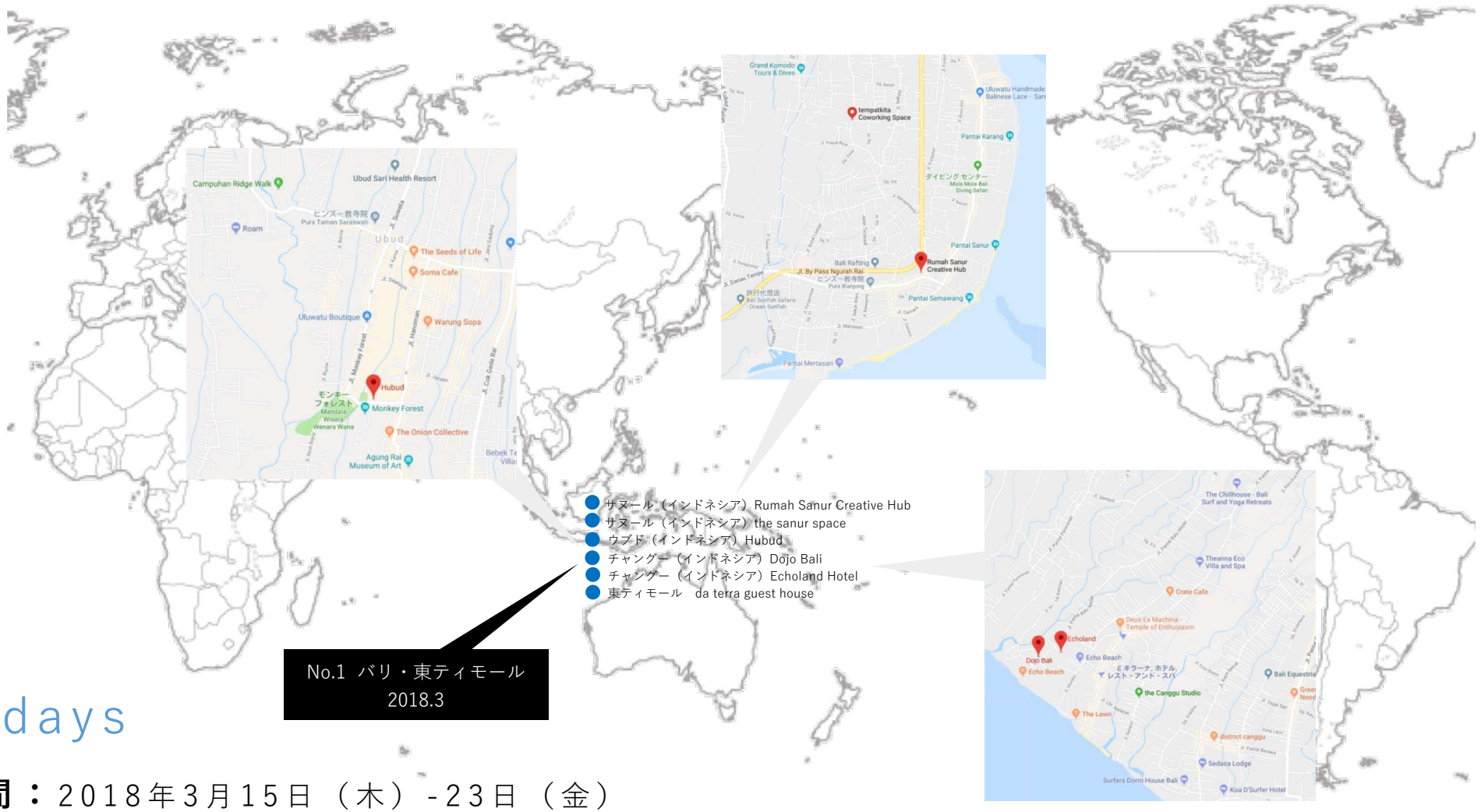
第1回：バリ・東ティモール編

2018年3月15日～23日

Working Travel 実証実験

第１回ーバリ・東ティモール編ー

MAP



9 days

期間：2018年3月15日（木）-23日（金）

第1回　バリ・東ティモール編

Dojo bali

チャングー地区／バリ、インドネシア

2018年3月15日

- チャングー地区にある２F建てコワーキングスペース。ほとんどが半屋外空間になっており、中庭を囲むような配置。
- 一部ACルームあり、Skypeルームも複数配置あり。
- プライベートオフィスは存在せず、ロッカーに個人の荷物が置いている。
- **数か月単位でバカンス中の欧米人などが借りている。ほとんどがこの地区に長期滞在**している外国人。
- ビーチに徒歩で行けるため、みなビーチサンダルで通勤しているため、**靴を一人だけ履いていると恥ずかしい。**
- 毎日ミートアップイベントが行われていて、30名程が入れるカンファレンスは外まで立ち見が出る盛況ぶり。
- 平日は１day 利用を受け付けていないため、ツアーガイドのみだった。休日は可能。
- エントランス奥にカフェカウンターがあるため、１日滞在していられる。（周辺にレストランはあまりない。）

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	？？？？？
環境設備	★★★★☆

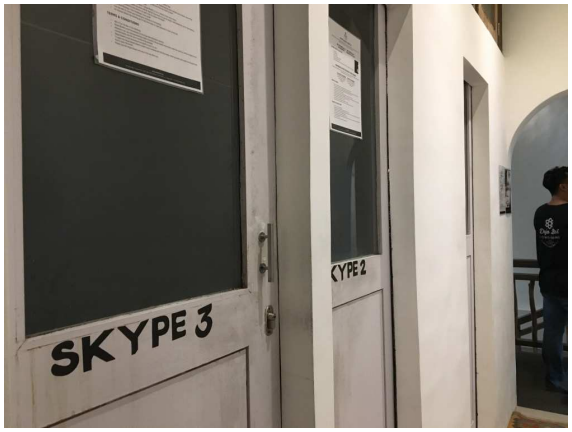
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第1回　バリ・東ティモール編

Dojo bali

チャングー地区／バリ、インドネシア

2018年3月15日



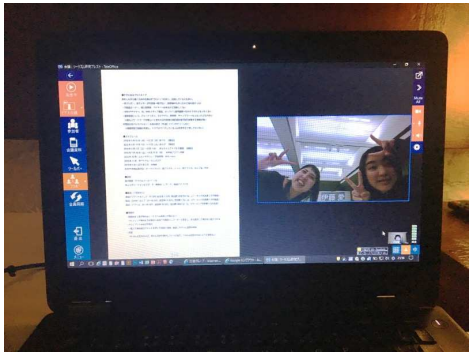
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

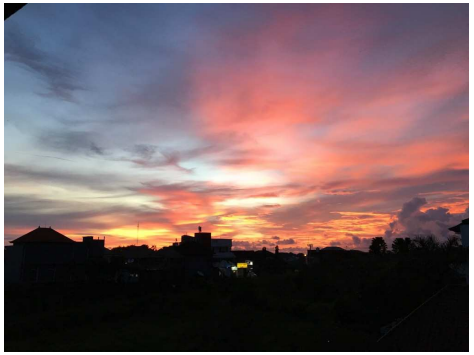
第1回　バリ・東ティモール編

Echoland Hotel

チャングー地区／バリ、インドネシア

2018年3月15日





- チャングー地区にあるゲストハウスの屋上。Dojoが1day利用不可だったために急遽ホテルの屋上テラスを利用。
- 朝食を食べる共用のテラスなので電源はないが、Wi-Fiは届いていたので東京のNADとTV会議を実行。
- 本件、Working TravelにおけるTV会議となった。（相手は伊藤愛・高橋舞、NAD研究ブレスト）2時間程度。
- １対２のTV会議であれば音に指向性があるので、ストレスなく聞き取りが可能。
- **夕暮れ時で周辺が畑や森になっているので虫の音が響いていたが、暗騒音としての音色は心地よく、快適に仕事が出来た。**

空間	★★★★★
スタッフ	？？？？？
Wi-Fi	★★★☆☆
環境設備	★★★☆☆

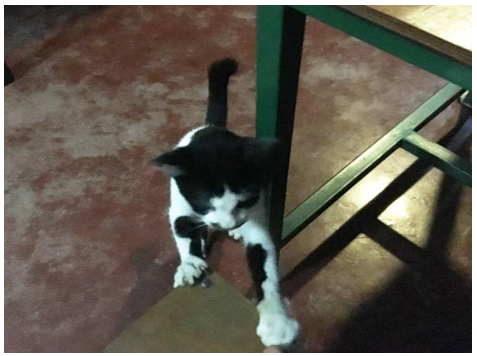
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

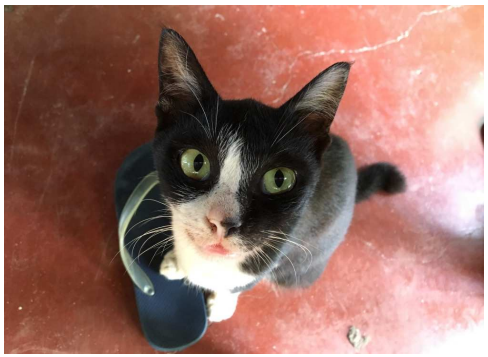
第1回　バリ・東ティモール編

da terra guesthouse

ディリ／東ティモール

2018年3月17日





- 東ティモールの首都・ディリにある安宿。日本人も時々泊まりに来る。
- 普通の民家を改修してゲストハウス利用しており、外観も中身も普通の住宅。ご飯が食べたいと言ったらナシゴレン作ってくれた。
- 庭にアヒルと鶏を飼っていて、猫もいる。子供も２つの球を上下させてカチカチ鳴らすおもちゃで１日中遊んでおり、
  常に何かしらの動物が鳴いているか、カチカチ音が鳴っている。
- エントランス部分にある屋外共用部に机があり、１日仕事をすることが可能。電源、扇風機、ウォーターサーバーあり。
  →この場所で１日仕事をしていたら、宿泊しに来た日本人に宿のレセプションと間違えられる。
- Wi-Fiは東ティモール全域で使えず、SIMカードを無償提供されたが、会社のスマホのために利用できず。
- やむなく**丸2日間、完璧なアンプラグ状態となる。**
- **空間も設備も最低限だがアウトプットが捗り、出発直前に依頼があったコンペのコンセプトはほとんどここで閃いた。**
- **アウトプットに熱中していたら、猫にビーサンを取られていた。**

空間	★★☆☆☆
スタッフ	★★★☆☆
Wi-Fi	☆☆☆☆☆
環境設備	★☆☆☆☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第1回　バリ・東ティモール編

da terra guesthouse

ディリ／東ティモール

2018年3月17日

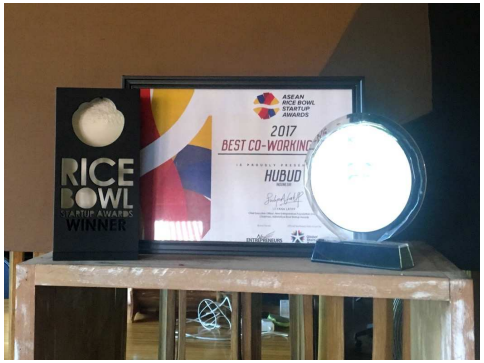
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第1回　バリ・東ティモール編

Hubud

ウブド地区／バリ、インドネシア

2018年3月19日



- ウブド地区の中心から徒歩２分程度にある２階建てのコワーキングスペース。
- 屋内にオープンスペース（一部ACルームあり、自由に着席できる）Skypeルーム、ミーティングルーム、屋外にカフェ＋オープン席
- 屋外での作業が大変心地よく午前中は良いが午後から夕方にかけて非常に暑い。西日がひどい。午後12～15時にかけてが一番人数が多く混み合う。在籍率80％程度。
- 机の大きさは1m角程度に2席程度。ペットも連れてきているが、子どもを連れてきている人もいる。
- 2名で作業している人が2～3割程度、その他はソロワーカー。
- **朝に手入れをしていた中庭では、午後に瞑想を始める人がいる。夕方からは寝始める人がいる。**
- 働いた後にすぐに観光に出かけられる。1分歩けばバリご飯。ご飯のにおいがとても良く美味しそう。
- **ウブド地区は徒歩圏内に安宿もあり、無料観光巡回バスも通っているため、ランチの１時間が観光＝インプットになる。**
- みなイヤホンまたはヘッドホンをして働いている。やはり欧米人が多い。
- 電源の数が限られている場合があるため、たこ足または延長コード持参が望ましい。
- 入室登録の際に、仕事の内容など詳細に聞かれて登録された。マッチングのためらしい。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

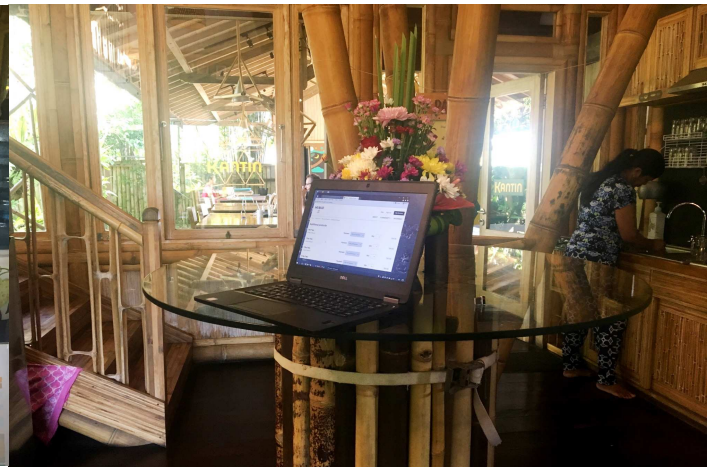
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

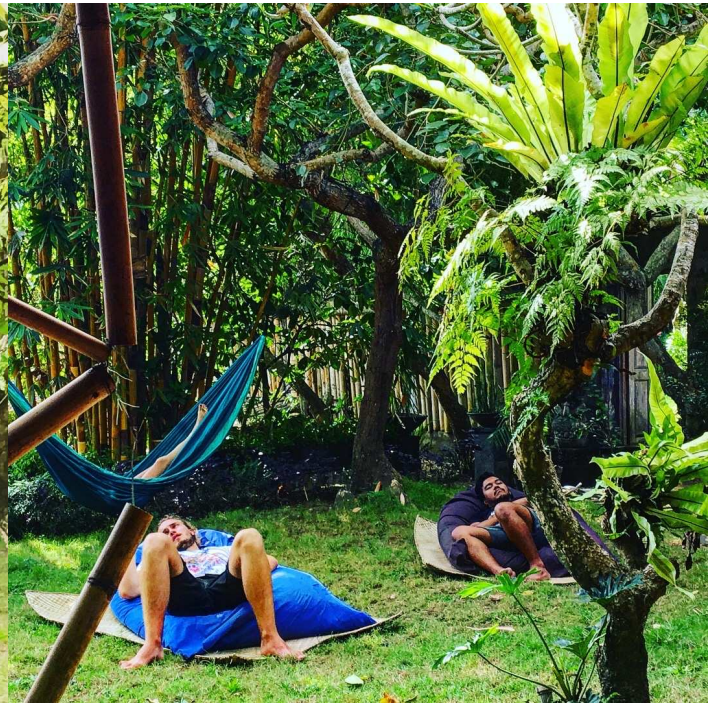
第1回　バリ・東ティモール編

Hubud

ウブド地区／バリ、インドネシア

2018年3月19日





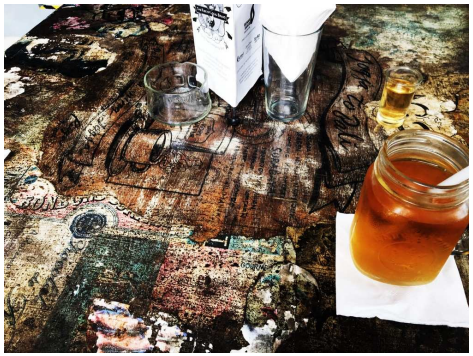
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第1回　バリ・東ティモール編

the sanur space

サヌール地区／バリ、インドネシア

2018年3月22日



- バリの南東側にあるビーチリゾート地区のサヌールにあるコワーキングスペース。
- コワーキングというよりWi-Fiと電源のあるカフェで、**100人規模のミートアップイベントも行えるイベントスペースがある。**
- **倉庫のような、半屋外空間を改修したつくりで、床や壁に施されたアートがアイデアを掻き立てる。**
- 空港のようなサインが空間のトンマナをまとめている。
- サヌール周辺は観光地化されていて、Wi-Fiが通じるカフェがいくつかあるが、現地通貨の現金のみの店などもまだ残っている。
- その中ではカード利用化で潤沢なスペースがあり、長時間滞在に適したコワーキングと言える。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★☆☆
Wi-Fi	★★★☆☆
環境設備	★★★★☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第1回　バリ・東ティモール編

Rumah Sanur Creative Hub

サヌール地区／バリ、インドネシア

2018年3月22日

- サヌール地区の住宅街にある小さなコワーキングスペース、10㎡程度のスペース４棟が中庭を囲む配置。
- １棟がプライベートオフィス、２棟がフレキシブルスペース、１棟が小さなキッチン＋共用スペース＋エントランス＋スタッフオフィス
- メンバーは現在10名程、それぞれの棟には簡単なデスクと机のみが配置されている。
- １day利用は受け付けておらず、空きスペースもない模様。
- **閑静な住宅街にあるため、集中作業には向いているが、街から離れていて様々な人が来るわけではない。**
- **ミートアップには向かないが、コワーキングの多様性としてはあり。**

空間	★★☆☆☆
スタッフ	★★★☆☆
Wi-Fi	？？？？？
環境設備	★★☆☆☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第１回ーバリ・東ティモール編ー

GOOD

気づき

・インプットの質が高い（おそらく国内にいては得られない最高レベル）
一歩部屋から出ればインプットがそこら中に転がっている
ex.アヒルの鳴き声、喧噪、子どものおもちゃのカチカチ、祈りの音楽

→**結果アウトプットやブレストの質が高い**

・**ネットワーク環境下時間を意識するため、ルーティーンワークが激減**

・生活のリズムが整う

・家事を一切しなくても良い

・常に英語でコミュニケーションを取れる
（英語力が上達しているかは不明）

・すぐに遊びに行ける（食事も散歩も通勤時間もすべて遊びになる）

・湿度が低く気候が最高なので屋外で仕事が出来て、気持ちよい

・時差がほとんどない（バリ１時間、東ティモール０時間）

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第１回ーバリ・東ティモール編ー

気づき

NOT GOOD

- **常に仕事のことを考えているので、休日なのに働いてしまう。**
- アンプラグ状態の時にかなりのストレスがある（申し訳ない）
- 出発前後に大量の家事に迫られる
- 蚊に刺される
  （残響時間測定のため手を叩いていると、蚊除けスプレーを渡される）
- 宿の屋外エントランスロビーで働いていると、受付と間違えられる
- **ワーカーホリック**と欧米人に言われる
- 何かを食べながら働いていると、野良猫が大量に寄ってくる
- 日が暮れた瞬間に異常に暗いので目が悪くなる（日本は明るすぎる？）
- スキャンがなくて画像で資料を送ることになる
- **荷物が増えた！**（ＰＣ、筆記用具など）ＬＣＣに危うく乗れなかった
  （普段４～５ｋｇ程度の荷物が９.３ｋｇに！←大抵が７ｋｇまで）

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第１回ーバリ・東ティモール編ー

OTHER

気づき

■TV会議について

・長時間の会議は集中してかつ想像しながら聞き取るので大変疲れる

・**１対１～２の指向性のある会議の音は明瞭**

・**１対大人数で空間に響かせた音は聞き取り難い**（ほぼ聞き取れない）
→マイク利用でスピーカー近くに置いてもらえると問題なく聞こえる

■バリについて

・ニュピという24時間電気が通らず観光客もホテルから外出を禁じられる年１度のイベントにあたった。前夜祭と後夜祭は盛り上がるらしいが、Wi-Fi利用できず充電も出来ないのは困るため東ティモールへ移動。ニュピの前後は飛行機も飛ばなくなるので要注意。

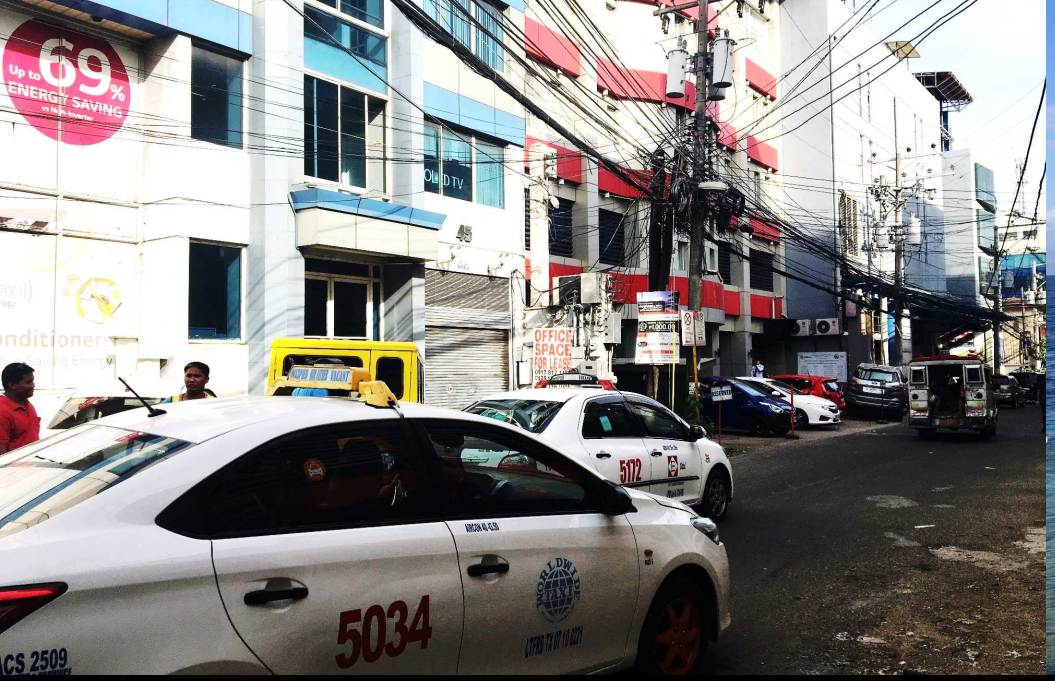
■東ティモールについて

・とにかくネットワークが弱い。Wi-Fiあり宿を取ったがSIMカード対応であり、会社のiphoneはSIMカードが使えなかった。

・中心部で唯一Wi-Fiが利用できるのがバーガーキングだった。
（購入者のみレシートにPassword、30分限定）

・国自体が発展途上だがコンパクトで海や山などの自然も多い。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



第２回：セブ編

２０１８年４月１４日～１７日

Working Travel 実証実験

第２回ーセブ編ー

MAP

4 days

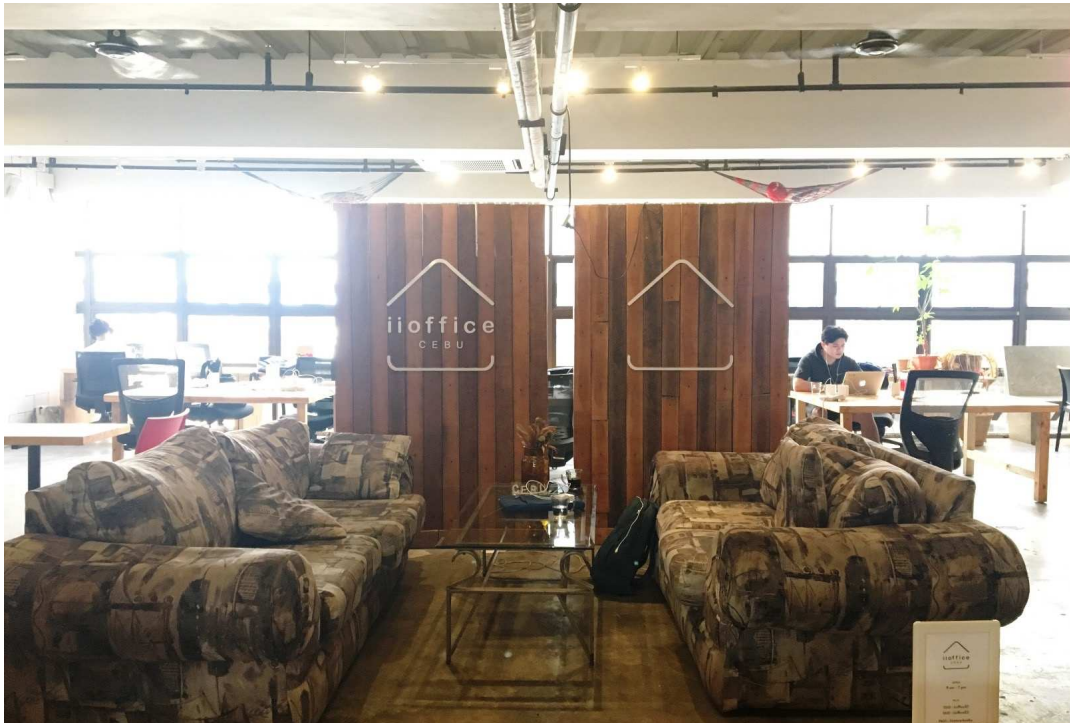
期間：2018年4月14日（土）-17日（火）

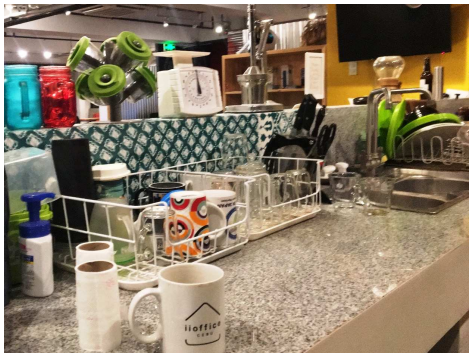
第２回　セブ編

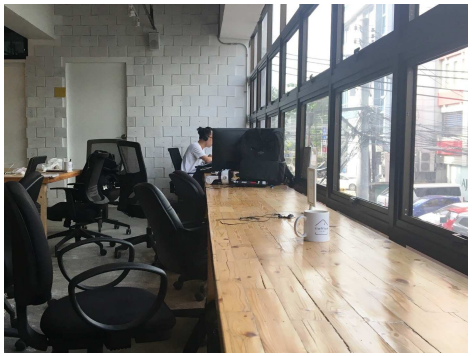
iioffice

セブシティ／セブ、フィリピン

2018年4月16日







- 家具が黒いひじ掛け付き椅子で統一しているが、ほとんどが半分壊れていて長時間座っていることが困難。
- **日本人が多くみられて日本語でオープンスペースにて電話しているので集中環境ではない。**
- バリに多く見られたskypeルームがなく、オープンスペースで会話しているので（それが日本語のことが大半）気になって集中できない。
- 半個室ブースが３席あるがその他ほとんどがオープン席。個室も２室あるが鍵がかかっていて利用している様子はなかった。
- 車通りの多い道に面していて入口もピロティ状の駐車場を経由して薄暗い階段を上がる。
- ガードマンがいるのでセキュリティは安全。
- １日300ペソ（現金のみ）でドロップインでも利用が可能。
- **バリと違い、道路に面していて車通りも激しく、気温も暑いために窓を閉じたエアコン環境下になり、クリエイティビティは上がらない。**
- 家型のサインでマグカップなども統一されていて、愛着が沸きやすい。

空間	★☆☆☆☆
スタッフ	★★★☆☆
Wi-Fi	★★★☆☆
環境設備	★★★☆☆

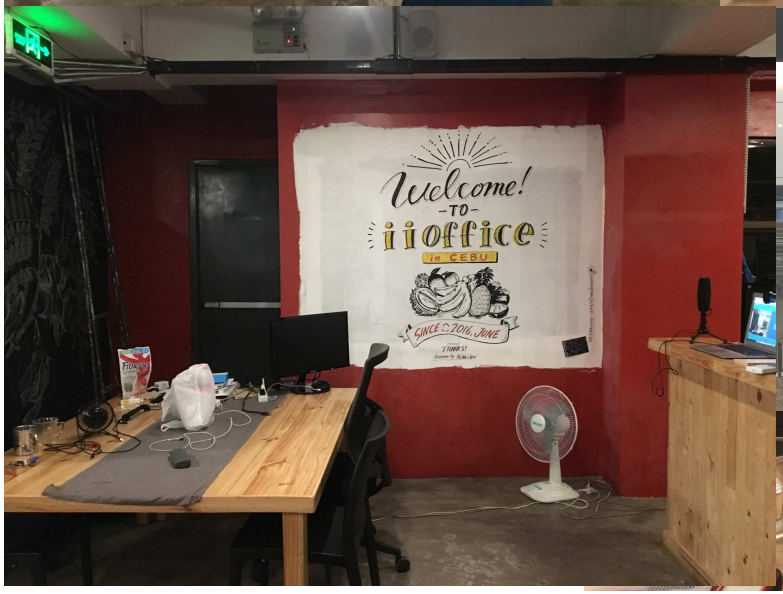
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

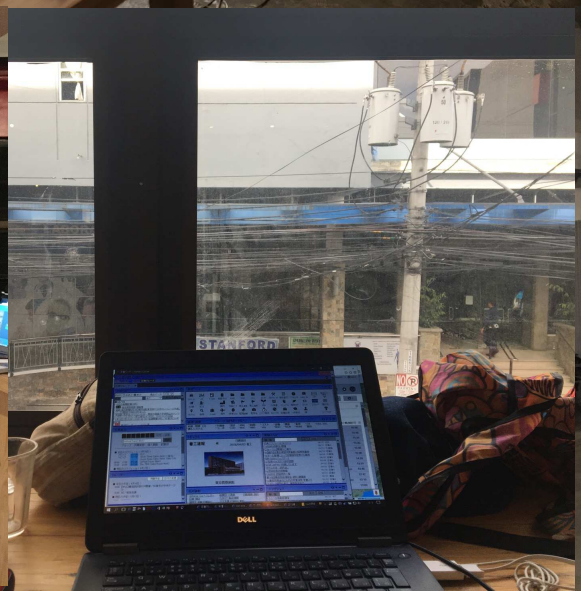
第２回　セブ編

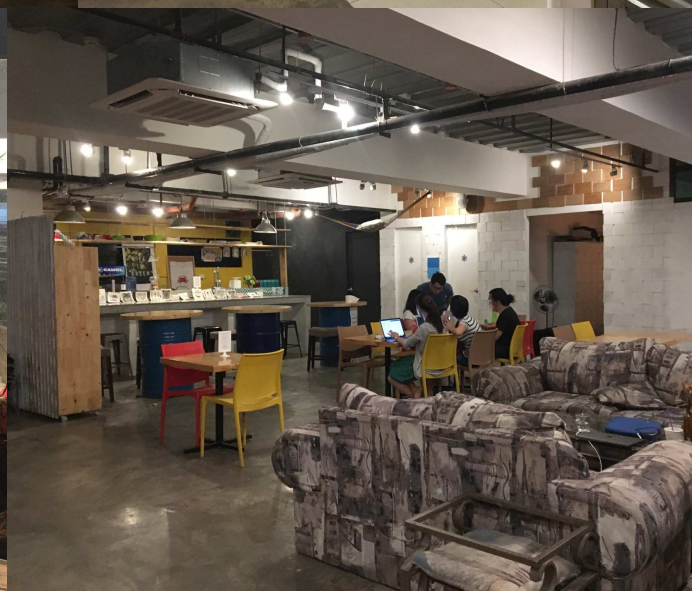
iioffice

セブシティ／セブ、フィリピン

2018年4月16日







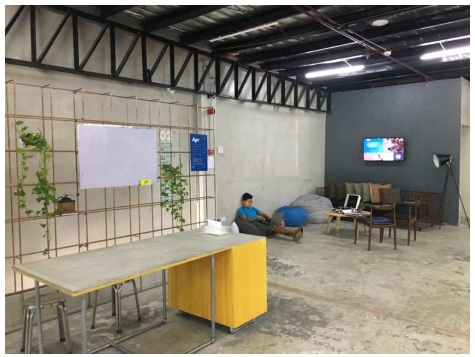
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第２回　セブ編

A SPACE CEBU

セブシティ／セブ、フィリピン

2018年4月17日



- イベントは月に8回程度開催、昼も夜も。コーヒーテイスティングやミニコンサートなど多数。イベントには誰でも参加可能。外からの参加者もフリーで入れる。
- １Fはフリースペース、50人ほどのソロワーカーがリモートワークしている。日本人も２名程所属。１日の利用人数は10〜15名程度。
- ２Fは６か月以上の契約で企業などが固定席で利用。椅子も良いもの。50席ほどがほとんど埋まっている、ラウンジと小さなミーティングスペースが付属。
- 会議室が１Fと２Fにそれぞれ１室ずつあり、20分まではタダで利用可能。それ以上は要予約。それぞれモニターとコーヒーセットがあり、２Fの会議室はソファ付。
- **３名のメンター（１名は日本人が常駐して利用者と同じく働いている）。**ドロップインにも丁寧に対応してくれて、ツアーも開催してくれた。
- 利用者は半分以上がセブに住んでいる人、バカンス中に利用する人も多くみられる。世界中からの利用者がおり、デンマーク人もいた。
- 利用者はお互いの出身や仕事を理解していて、緩やかにつながっている様子。
- 1日フリーパスがネットから申請できる（10AM〜4PMらしいが10時前に入れてくれた）。
- マニラに本店があり、マニラには３店舗構えている。オーナーはイギリス人、マニラ在住。
- ２年前にオープンしたが順調に会員を増やしている。
- 会議室があっても仕上げが床：モルタル素地、天井：モルタル塗装、壁ガラス張り、家具もガラス、モルタル、プラスチックのため全面反射でほぼ会議にならない。扉の仕舞も出来ていないので隣のオープンスペースに声が漏れる。

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★☆☆

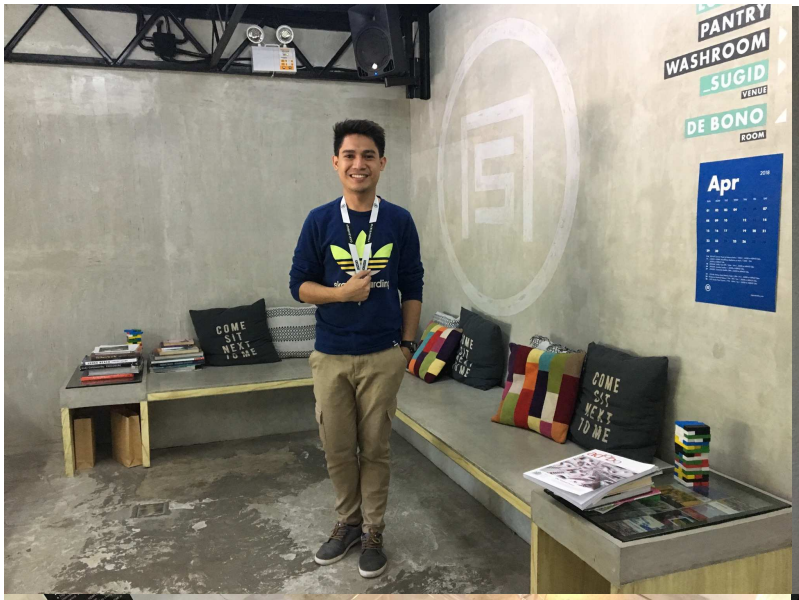
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第２回　セブ編

A SPACE CEBU

セブシティ／セブ、フィリピン

2018年4月17日



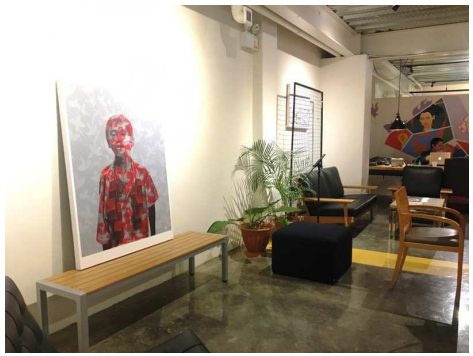
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

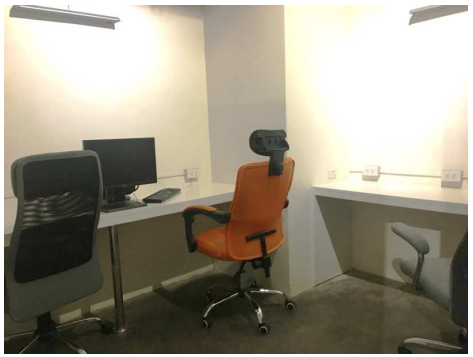
第２回　セブ編

the Company

セブシティ／セブ、フィリピン

2018年4月17日





- 空港に近いエリアに位置するセブの中でも大きいコワーキングスペース
- エントランス付近に大きな150㎡程度のオープンスペースがあり、その右奥が固定席（10名程度が利用していた）
- その奥に1〜2人用の個室が並んでおり、3名以上の個室は見当たらなかった。個人利用が多い。
- コーヒーや簡易なクッキーなどは受付デスクの近くにあり、誰でもフリーでもらえる。
- **日本語学校が併設しているため、大学生または社会人が留学しながら働く場として使用している。**
- 大きな複合施設の地下１階にあるために外気に面しておらず、自然光が入らないのが非常に残念。
- 各所にセブのアーティストの作品が見られ、壁一面にアートが描かれていて、**全体的にアート思考が強い。**
- 様々な色が使われているが、床と天井は躯体表し、家具の木目調もテイストをそろえているために空間がまとまっている印象。
- 学校併設しているので若い人が多い印象で、今後卒業した人が増えていったときにより活気づくと予想される。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★★☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第２回　セブ編

the Company

セブシティ／セブ、フィリピン

2018年4月17日

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第2回ーセブ編ー

気づき

GOOD

・ショートトリップなので荷物が軽くなった。前回9.3kg→7.9kgに
（それでもまだカウンターで戦わなければLCCにスムーズに乗れない）

・LCC3万円台の航空券あり。航路4時間半程度なので**繰り返し行ける。**

NOT GOOD

・クレジットカードやドル払いの文化がなく現金がないと生活できない。

→キャッシュワークが非常にストレス。ビール1本100円も買えない。
（最終的に20ペソ＝40円だけでウロウロしていた…）

・渋滞がひどく2時間弱で行ける所へ5時間かかり、**移動がストレスに。**

・Uberも禁止されている（Grab Taxiはスムーズに使える）

・渋滞がひどくリゾートや遊び場所が近いとは言えない
（ただの発展途上国の首都で散歩もそれほど楽しくない）

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

OTHER

気づき

■バリのコワーキングとセブのコワーキング比較

・バリは屋外空間でプールや庭を重視していたが、セブはエアコンが効いた屋内空間がほとんど。道路の喧噪や埃がすごいので**エアコン環境下にあることこそが価値の最上位。**

→そのため気持ちの良い屋外空間で働くような体験はなかった。

・**語学留学をしている日本人も多い**ため、**旅をしながら働いている感はほぼ感じられなかった。**

・バリは古い民家を再利用している１棟建てのコワーキングが多く見られたが、セブはビルの１フロアを利用しているものがほとんど。

・天井をはがしてラフな素材で空間を埋めて、机やいすも自由に動かすタイプの家具が多い。

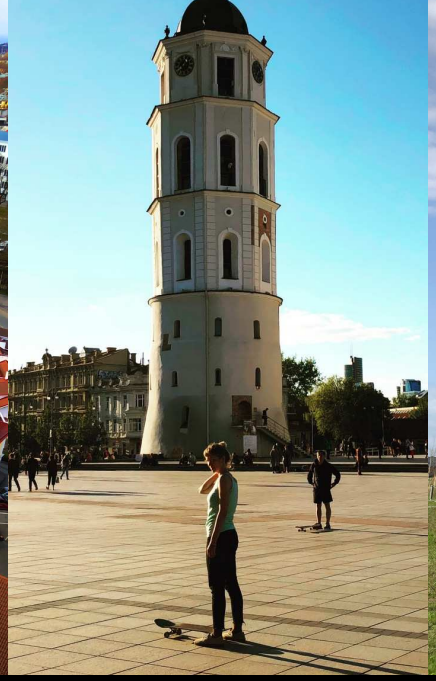
・フレキシブル性に特化していて、**セキュリティや集中度はあまり追及していない**模様。

・コミュニティイベントは見受けられないが、会員同士でコミュニケーションを取っている様子が多く見られた。

→会員のみが我が物顔でオープンスペースを自分の固定席のように利用しており、新しい人が入りにくい雰囲気を醸し出してる。（コワーキングとして由々しき問題）

・食事を提供しているところはない。コンビニなどで購入してきて各々の席で食べている。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



第３回：バルト三国編

２０１８年５月１日～８日

Working Travel 実証実験

第３回ーバルト三国編ー

MAP

8 days

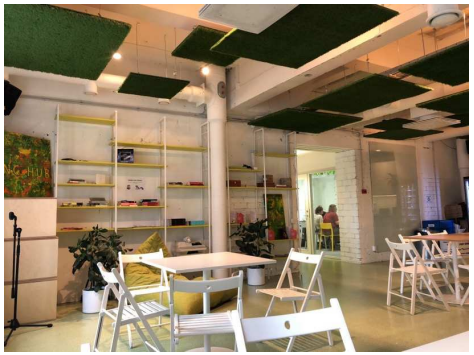
期間：2018年5月1日（火）-8日（火）

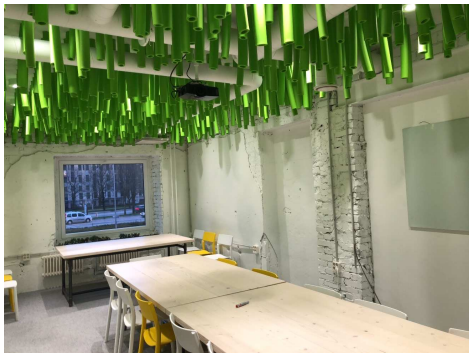
第３回　バルト三国編

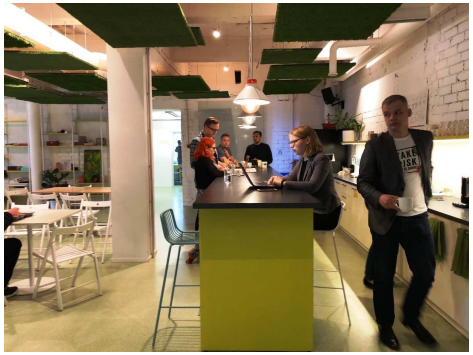
Spring Hub

タリン／エストニア

２０１８年５月２日







- エストニアの首都・タリン市街の南部に位置する会員制コワーキングスペース。トラムから徒歩１分でアクセス良好。
- ６階建てビルの２階を１フロア、すべて合わせて500㎡程度の広いシェアオフィスとなっている。
- **騒がしいラウンジ（共用キッチンスペースあり、コミュニティマネージャー在籍）と静かなスペースが完全に分かれており、**どちらもフリーで選択して利用可能。
- 電話ブース（4つ）を含めて場所の選択による追加料金なし会議室のみ事前予約制で追加料金が必要になる。（結構高い）
- 共用ラウンジでは様々なイベントが行われており、AV設備（音響機器が充実）も整っている。
- コミュニティはFacebookを活用している。
- 全員ハンズフリーイヤホンで電話しているので、話しかけられているかとドキドキする。
- エントランス部にワードローブがあり、全員上着をそこに収納しているのでワークスペースの風景が美しい。
- メンバーは70名程度で毎日40名程度が働いていると言っているがもっと人がいるので、来客が多いのかもしれない。
- **入口が分かりにくく鍵が必要なため誰かが開けてくれるまで外で物欲しげに待つしかない。**
- 事前にOne day Free Passを予約しておいたので、ドロップインでも自由に使えた。

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

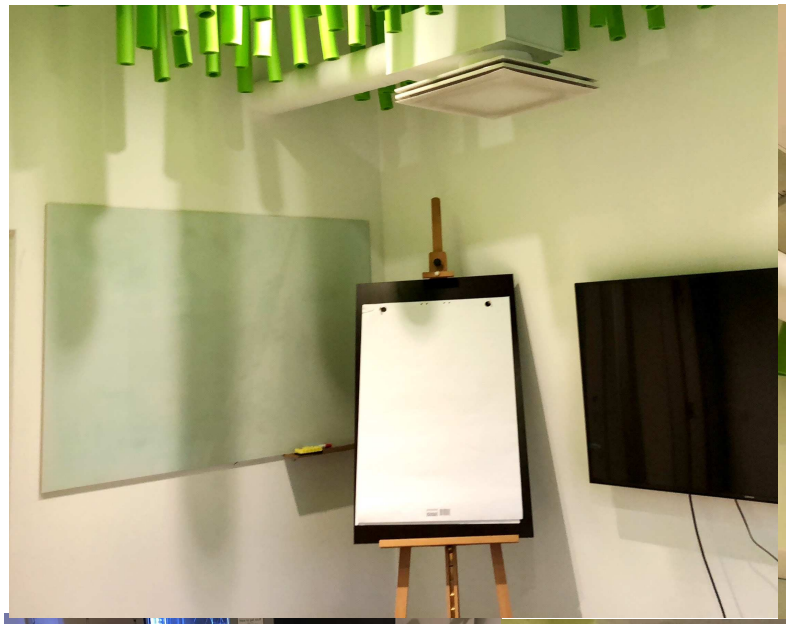
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

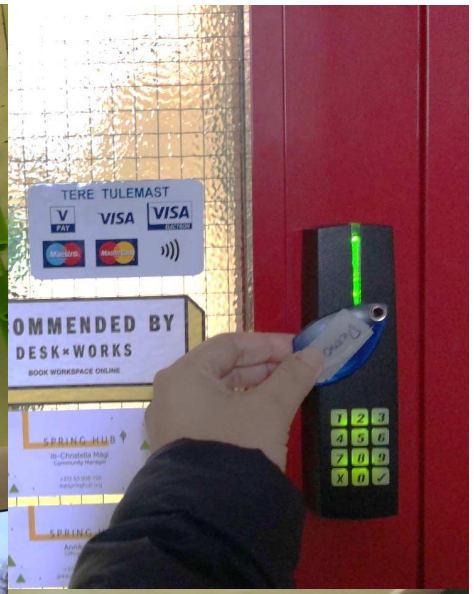
第３回　バルト三国編

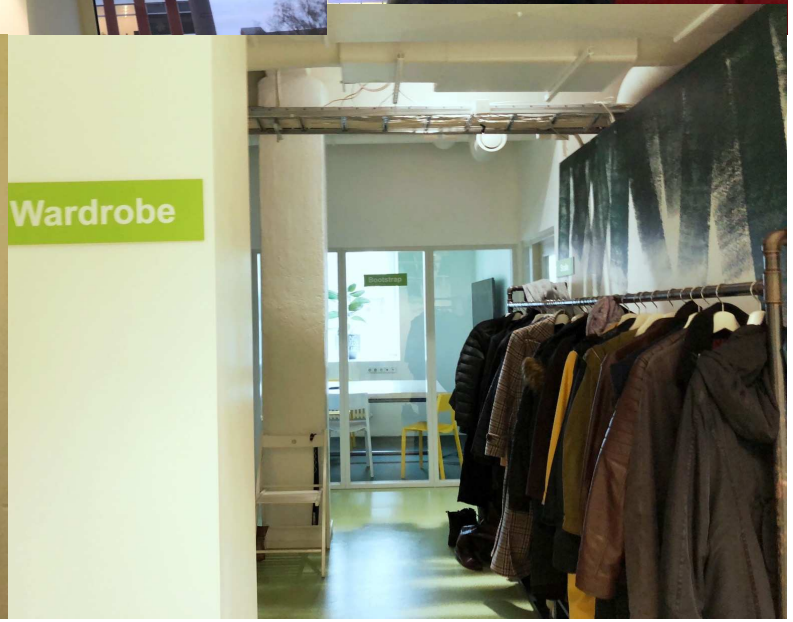
Spring Hub

タリン／エストニア

２０１８年５月２日







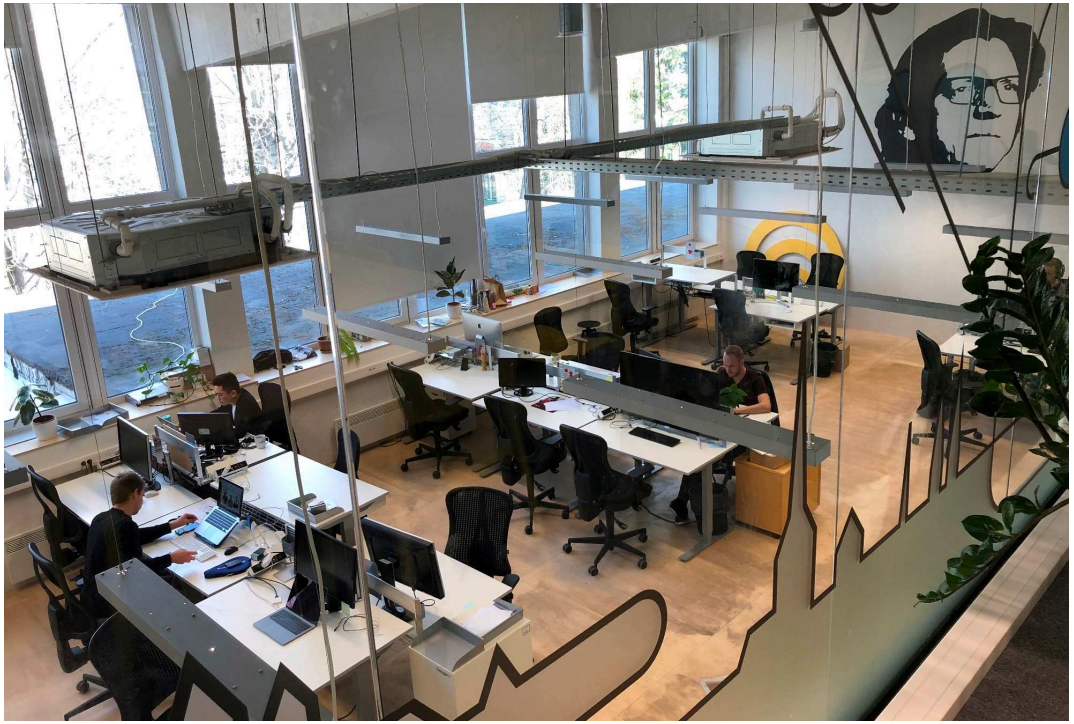
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

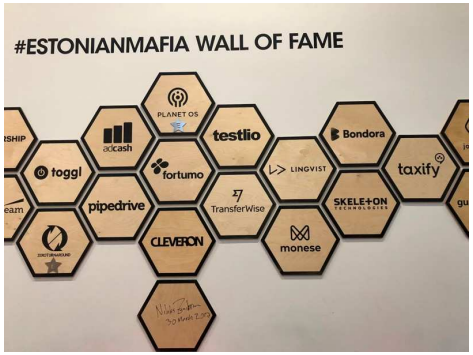
第３回　バルト三国編

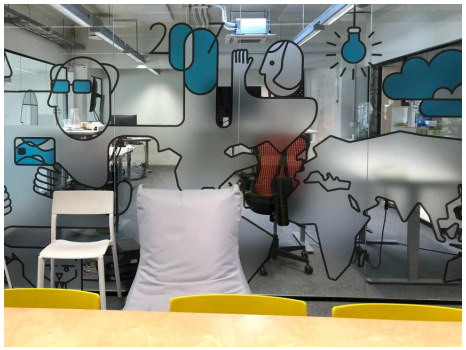
LIFT99

タリン／エストニア

2018年5月3日







- エストニアの首都・タリンの駅北部にある鉄道車庫のリノベーション（推測）した建物３階分、500㎡程度のコワーキングスペース。
- タリンの中心街である中央駅の北側に位置するOld townからも徒歩圏内でアクセスが容易。周囲にモールやオフィスビルが立ち並ぶ新市街地。
- 犬が5匹存在し、共用部だけでなくプライベート空間にも入り込んで可愛がられている。時にはミーティングルームをノックし、招き入れる姿も。
- 2層吹抜けのイベントスペースを中心に会議室や仕事場がお互い見えるような空間構成。**空間デザインはエストニアのデザイン専門学校の学生によるもの。**
- プライベートルームが4部屋、プライベートデスクが広がる空間が1部屋。ミーティングルームは予約なしで利用可能で月6時間はタダ。
- 寒い地域なのでやはりエントランス空間にクローゼットがあり、服と共に靴も脱ぐ。オリジナルデザインのスリッパに履き替える。
- 1day利用は現在受付けていないが**エントランス左側空間を拡張していて、6月よりドロップインスペースとして利用**できる。
- 2年前に立ち上がったコワーキングで、急成長を遂げている。99人のベンチャーをリフトアップするという信念のもと名付けた。
- エストニア大統領・首相も複数回の訪問歴があり、数か月単位で継続的に訪れている。
  エストニア大統領とはスタートアップ環境の現状や国家運営の最新テック活用などについて情報交換。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

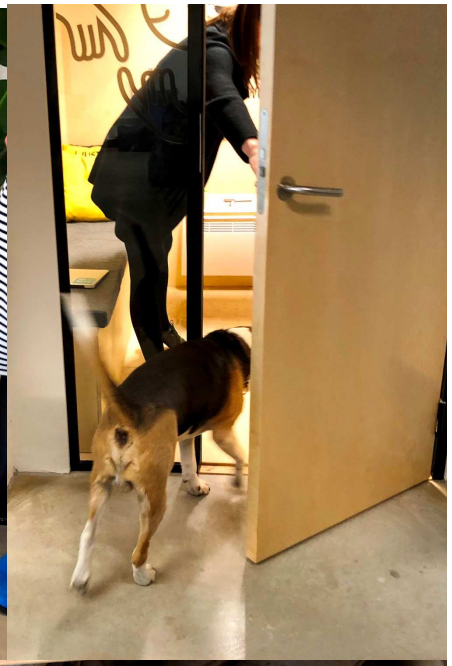
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第３回　バルト三国編

LIFT99

タリン／エストニア

2018年5月3日



© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第３回　バルト三国編

LIFT99

タリン／エストニア

2018年5月3日

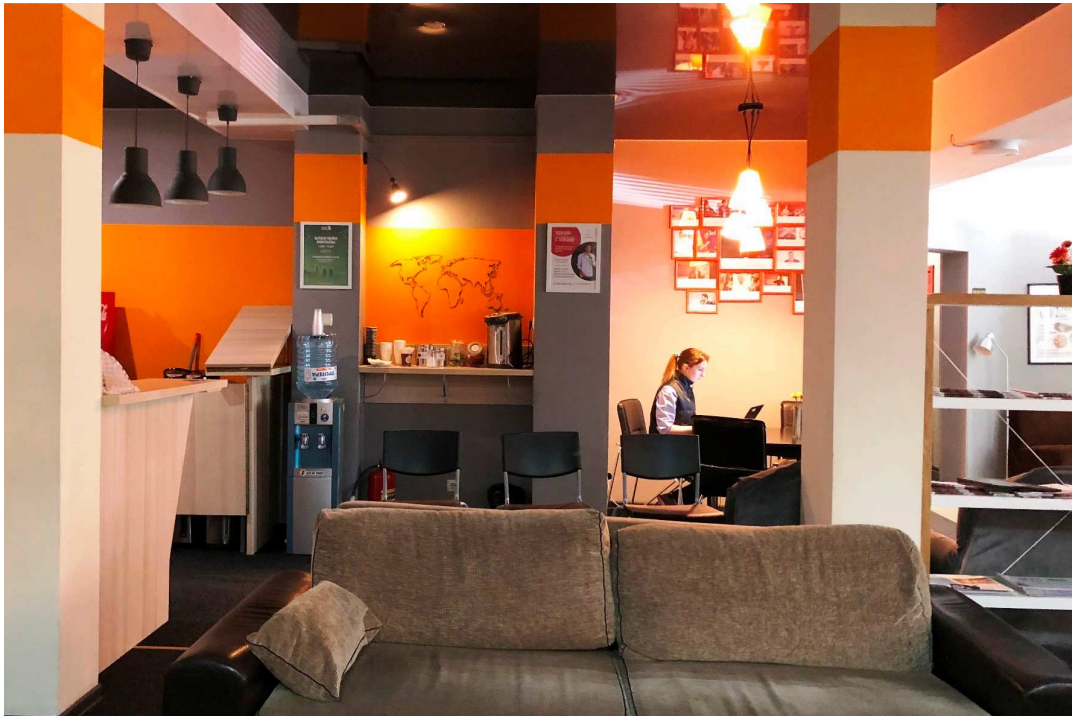
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第３回　バルト三国編

IMAGURU

ミンスク／ベラルーシ

2018年5月7日



- ベラルーシの首都・ミンスクの中央駅から西側のエリアに位置し、2階建て丸ごとがコワーキングスペースとなっている。
- **3つの大きいイベントスペースを擁し、各スペース30〜100名程度収容可能で、特にミートアップに力を入れている。**
- 100名程度のスタートアップが在籍していて、ほとんどプライベートオフィス。
- 共用のデスクはエントランス横の空間に１つだけあり、おおよそ8席ほど。
- 空間が余っているのか、机や椅子がまばらで、もう少し詰め込んでも問題なさそう。
- 豊かなキッチンスペースがあるがフロアの中心にあり光は入らない。
- 小さな会議室も3室ほどあり、自由に利用できる。部屋の名前はNEW YORKなど都市や地域の名前がついている。
- 廊下部分に卓球やゲーム台、トレーニングマシンなどが無造作に置かれている。
- 立ち上げメンバーであるメンターが快く丁寧に案内してくれた。
- 5月16日に大きなスタートアップイベントを予定→Wi-fiパスワードもventuredayminskmay16。

空間	★★☆☆☆
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★★☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

GOOD

気づき

・**IT立国で完全現金レス。**バスやトラムも観光客向けに整備されている。

・トラムのチケットもペーパーレスで、事前にWEBでカード決算したQRコードをかざすのみ。公共交通システムが分かりやすく、**移動に対する心理的ハードルが低く、すぐに街に入り込める。**

・他のEU諸国よりも**物価が安い。**

・東南アジアと比較し人口密度が低く、渋滞や人混みに巻き込まれない。

・これまでよりもフライト時間が長くなったが、LCCではなくなり（とはいえコスト削減のためにアエロフロートを選択）機内快適性が上がったので、移動時間のアウトプットの質・量ともに良好になった。

・**日が長いので仕事をしてから観光を1日で十分こなせる**
→逆に睡眠時間が削られるため常時睡眠不足だった。

・バルト三国の隣国間の移動もLux Expressが全都市を網羅しており、事前にネット予約が簡単に出来るため、快適に国境を越えられる。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第３回ーバルト三国編ー

NOT GOOD

気づき

・**想像以上に寒い。**ほとんど日本の冬レベルでコートが必要。

・屋外オープンスペースで働くことによる、**解放感に伴う創造性の拡大が感じられない。**

・トランジットのモスクワの花粉により、思考停止させられてしまった。
（まさか日本以外に花粉症があるとは思わなかった。）

・ユーロ圏（バルト三国）はどこでも高速Wi-Fiが飛んでいるが、
旧ソ連（ロシア・ベラルーシ）あたりはWi-Fi環境が悪く電話番号の
入力が毎回必要なため、接続しにくい。

・コワーキングよりも宿の方がWi-Fi環境が良好。

・さらに、ホテルよりもairbnbで作業した方が一人でネットワークを
独占できるために時間帯でつながりにくいという事態になりにくく、
圧倒的に心地が良い。

・しかし、airbnbの運営に不慣れなホストが多く、探し当てるのが困難
だったり、家の前で１～２時間以上待たされることも多くあった。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

気づき

OTHER

■エストニアにおけるイノベーションの加速

・タリンはHorizon2020competitionにおいて**ヨーロッパで最もイノベイティブな首都としてパリに次いで2位に選ばれた。**

・**エストニア大統領・首相もコワーキングに数か月単位で継続的に訪れて**おり、スタートアップ環境の現状や国家運営の最新テック活用などについて情報交換していて、**エストニア政府の問題解決・行動の早さ**が伺い知れる。

・**Skypeが最初に生まれたのもタリン**（現在はMicrosoftに売却）

・2017年国際税制競争力ランキング1位に選ばれており、税制面でメリットがあるオンラインで最速18分で会社設立手続が可能で、その際押印もペンによるサインも必要のない電子署名のようなビジネススピードがあり、効率性アップに貢献する電子政府の取り組みが見られる。

・格安海外送金サービスのTransfer wiseも日本で広く使われ始めている

・多種多様なエストニア発のスタートアップがイノベイティブで便利なサービスを日本を含む世界各国に提供をしている。

・**EU外からスタートアップを立ち上げたい、働きたい人が増加し、スタートアップの拠点をエストニアに移したい人にさらなる良好な環境が整備されつつある。**

・**2018年5月Latitude59＝スタートアップの祭典に国内外数千人以上が参加。**

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

OTHER

気づき

■ベラルーシにおけるテック市場について

・国家の産業を支える大きな存在がテクノロジー産業で、**欧米の大手テック企業のアウトソーシング先として人気が高く**、最大規模はEPAM Systemで1990年代初頭に創業。現在社員1万8000人（6000名がミンスク所属）
⇒「最速で成長中の上場テック企業トップ25」で第6位
Googleなどの大手IT企業からも基幹システム開発といった案件を受注

・旧ソ連時代から**ハイテク研究・開発機関が置かれてきた背景もあり、優秀なエンジニアが多い。**エンジニアの給料は文系職よりもはるかに高く、**小さい時からエンジニアに憧れており、**大学も理工・技術系の学生と多くを輩出している。

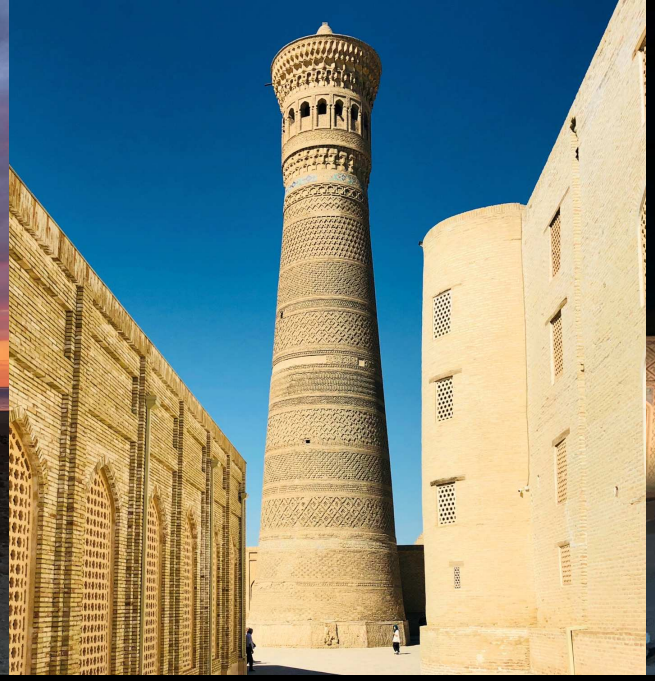
・2010年代はグローバルにスタートアップコミュニティが展開される

・その中心がTechMinskの拠点でもありコワーキングでもあるIMAGURU
TechMinskはグローバルなマーケットで成功できるよう目標を掲げて2013年に
地元のテック系スタートアップが立ち上げられたアクセラレータ

・海外のアクセラレータやコワーキングスペースとのネットワークをベースに、起業やマーケティングなどのノウハウを有する世界各地のメンターに参加してもらい、参加スタートアップが迅速に事業を成長できるよう後押しする。

・**ベラルーシはテックスタートアップが多く技術が高いが、投資家へのピッチやマーケティングが苦手なので、**イベントを通じ**国外の起業家とつながり多くのノウハウを学ぶ場**が必要として、多くのイベントを開催している。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



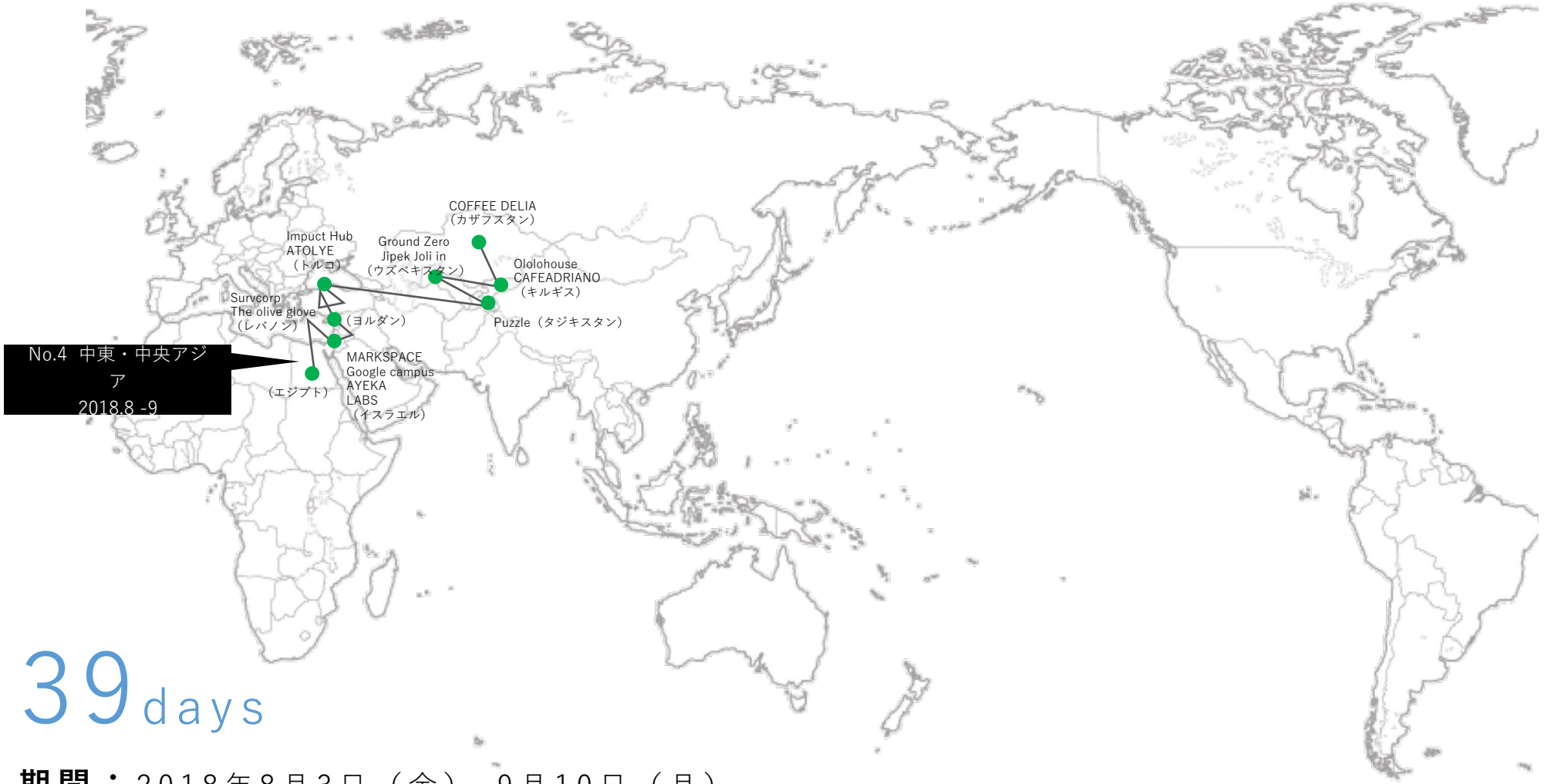
第４回：中央アジア・中東編

2018年8月3日～9月10日

Working Travel とは

第4回ー中央アジア・中東編ー

MAP



39 days

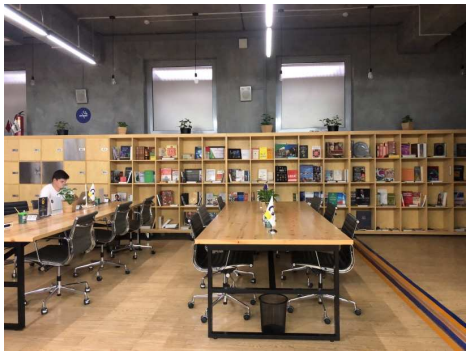
期間：2018年8月3日（金）-9月10日（月）

第４回中央アジア・中東編

Ground Zero

タシケント／ウズベキスタン

2018年8月20日



- タシケント市内に全３拠点を構えるシェアオフィスの本店。300㎡程度。
- エントランス奥にカフェスペース、中央部にオープンのカンファレンス空間（50名程度）、一番奥にフリースペース（50席程度）
- 会議室は白と黒の２室（各10名用）あり、追加料金で誰でも利用可能。
- メンバーは現在50名程度で、**メンバーになれば３拠点どこでもいつでも利用が可能。**他拠点も同様の設備ありとのこと。
- **オープンカンファレンスから個人ワークスペースまで長い壁が１面ホワイトボードが続いていて延々と描き続けられる。**
- カフェに多数の本が置いてあり、ブックカフェのようになっている。
- エントランスにもセレクトされたビジネス書が置いてあり、自由に読むことが出来る。
- 常時在籍していたのはカフェ利用者も含めて10名程度だが、夕方以降にカンファレンスが始まると一気に人が増え、満席に。
- 最小限の紅茶・コーヒー・ウォーターサーバの横に、マッサージチェアとソファスペースが設置されている。
- プライベートオフィスは現在のところ設置なし。

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

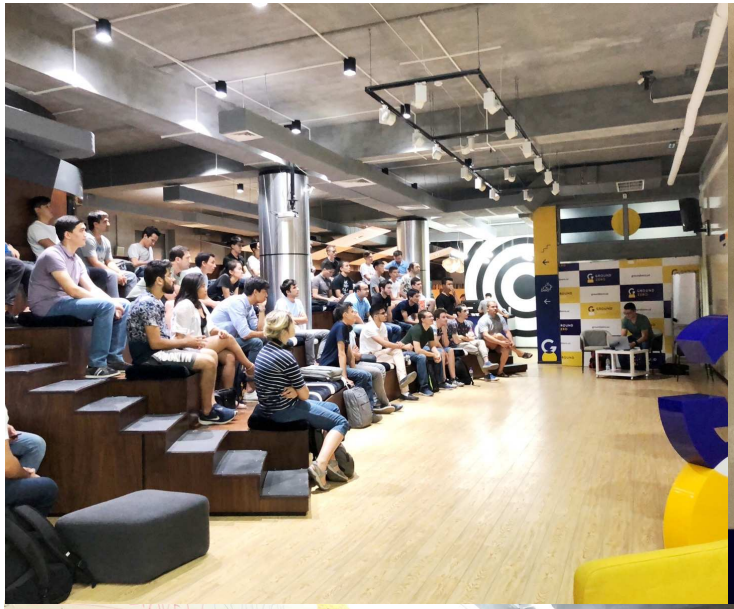
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

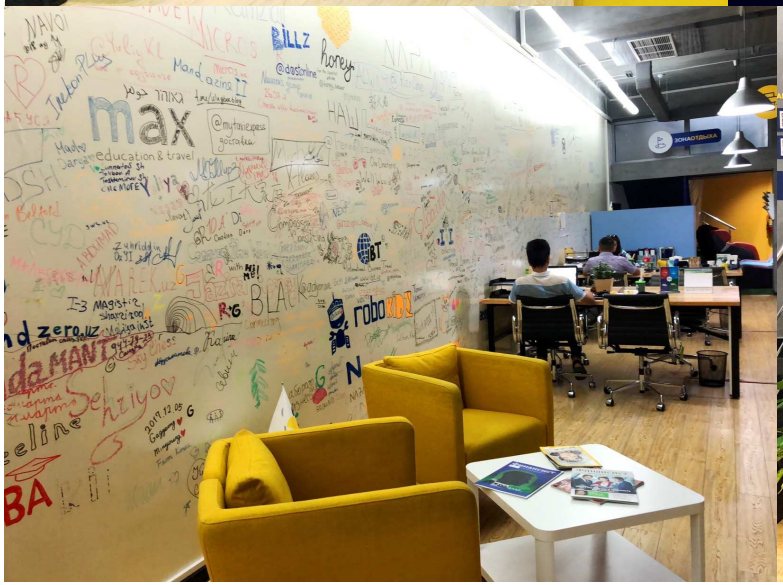
第４回中央アジア・中東編

Ground Zero

タシケント／ウズベキスタン

2018年8月20日





© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第４回中央アジア・中東編

Puzzle

ドゥシャンベ／タジキスタン

2018年8月22日

- 中心部と空港の間にあるヒルトンホテルの隣に構えたオフィスビルの２階、200㎡程（隣接区画は高級レストラン）
- フリーデスク60席程度、プライベートオフィス（12席程度）１室、会議室（12名）１室、カンファレンスルーム（30名）１室。
- エントランスに配置された受付カウンターにコンシェルジュ１名常駐、隣接するリラックススペースにメンター１名常駐。
- メンバーは全部で50名程度、街の中では伝統衣装に身を包んだ女性がほとんどだったが、本施設内では洋服を着ており英語も話せる。
- 個人というより３名程度のグループ利用が多く見られた。
- フリースペースにデスクトップを２台設置し、インテリアパースを１日中作成していた。
- エントランスに掲げられた標語は「We will change your imagination.」
- １日のうちに15〜20名程度が出入りし、常時いたのは10名程度。
- 会員数に対してスペースが十分に余裕があるので、TV会議や電話をオープンスペースでしていても気にならない。（Skypeルームがない）
- **カンファレンスルームでは日中からスタディイベントが行われ、受講者の半数以上が女性だった。**

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★★☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第４回中央アジア・中東編

Puzzle

ドゥシャンベ／タジキスタン

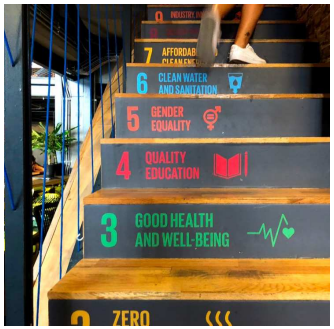
2018年8月22日

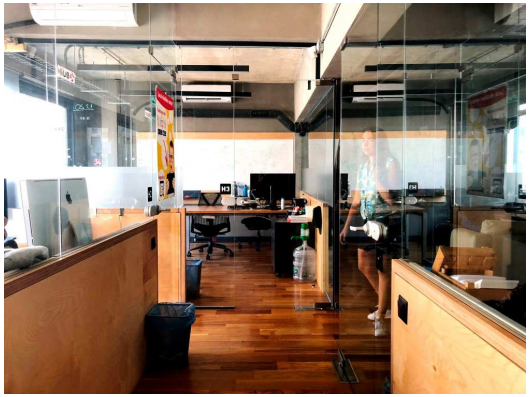
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Impact HUB

イスタンブール／トルコ

2018年8月27日





- １Fに内部と外部両サイドに開いたカフェが設置されており、屋外にも人がたまっている。
- ４フロアあり、１Fと2Fは吹抜けでつながっている、フレキシブルスペース。全50席程度。
- 吹き抜けている部分はイベントにも利用可能。オープンで自由に使えるコーヒーカウンターがある。
- ３F及び4Fはプライベートオフィスと、オープンのフィックスデスクが共存していて、全室埋まっている。
- 2Fからは外部テラスにも接続していて、外で休憩したり仕事をしている人も見られた。
- 会員は120名程度、東京にも目黒に拠点があり、ベンチャーが集まるスペースとなっている。
- 夜は18時以降人が減り、ほとんどいなくなった。トルコはあまり遅くまで働かない。（ムスリムの休みとの関係か？）
- 中心部の旧市街地や観光拠点からは電車で30分ほど北に行った郊外にあるため、車通りも多いビジネス街のイメージ。
- **4F奥にオフィスを構えているデザイナーが空間設計をしているため、デザイン関連利用者も多く、**丁寧に使われていた。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

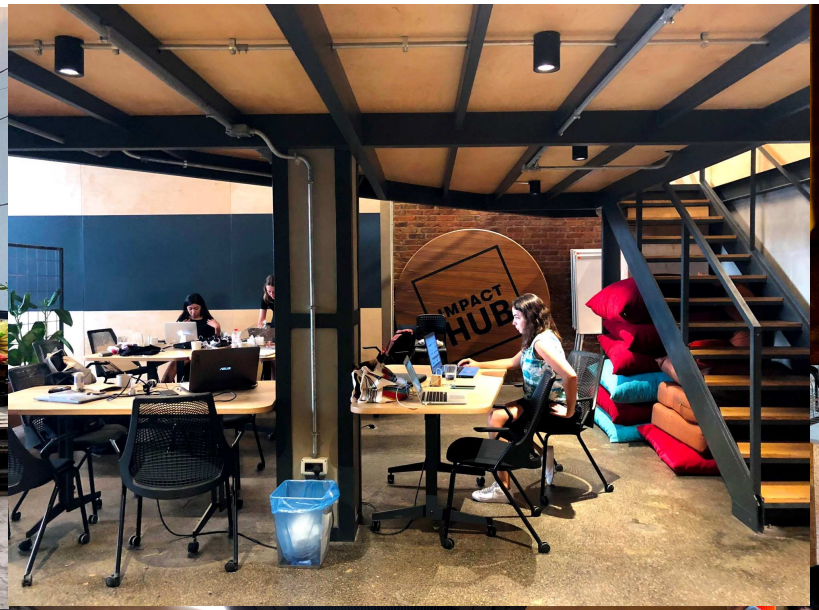
© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

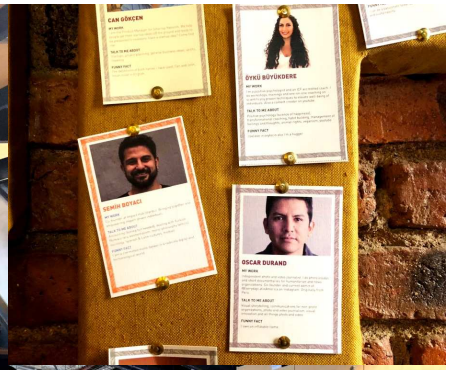
第４回中央アジア・中東編

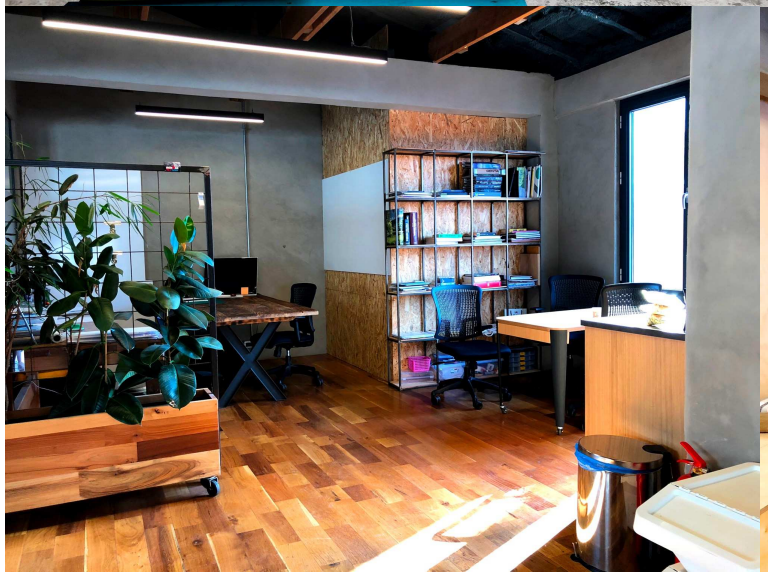
Impact HUB

イスタンブール／トルコ

2018年8月27日





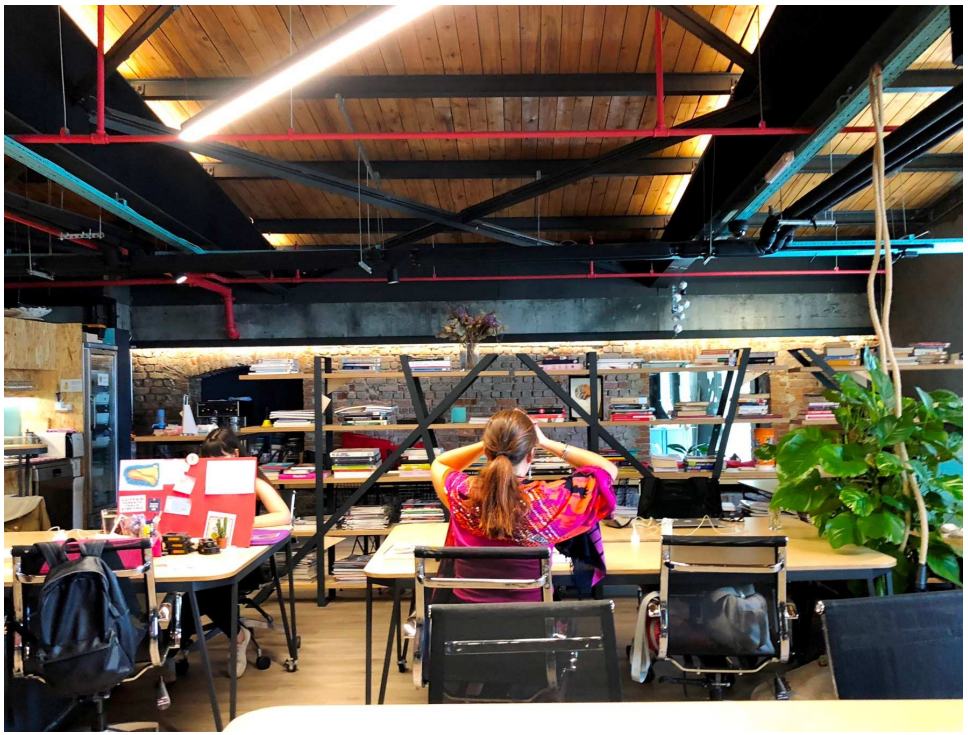


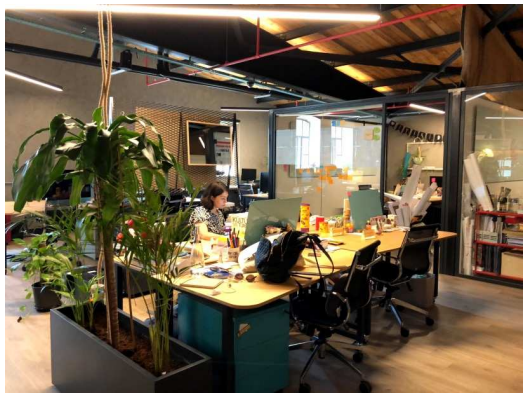
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

ATOLYE

イスタンブール／トルコ

2018年8月28日





- イスタンブールの中心部北側に位置する、オフィス街の複合施設内に位置するコワーキング施設。
- ４店舗ほどの飲食店の中庭を抜けて奥の階段を上ると中２階の１フロア空間にイベントスペース、ホットデスク、会議室がある。
- プライベートルームはなく、オープンスペースに専用デスクとホットデスクが並列していて、キッチンカウンターも付属している。
- **３Dプリンターなどの最新機器が置かれたテックルームがあり、自由に使うことが可能。**
- Impuct Hubと同様、Cowerker.comで予め予約を入れて、丁寧なメールが返信されたのはイスタンブールがはじめて。
- どのような目的で訪れるのか、何時に来るのか、何時までいたいか、どんな仕事をしているのかなどを聞かれた。
- 手前のイベントスペースも同様にホットデスクとして利用可能だが、コンセントやデスクライトが整っていない。
- そのため人が密集している方のスペースに多く人が集まっていた。
- **描けるデスク、取り外し可能な目線を遮るパネル、２人が向かい合っても気にならない稼働デスクなど、オリジナルのデザイン家具が空間の雰囲気を作っていて、これまで見たコワーキング随一の洗練された空間。**

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

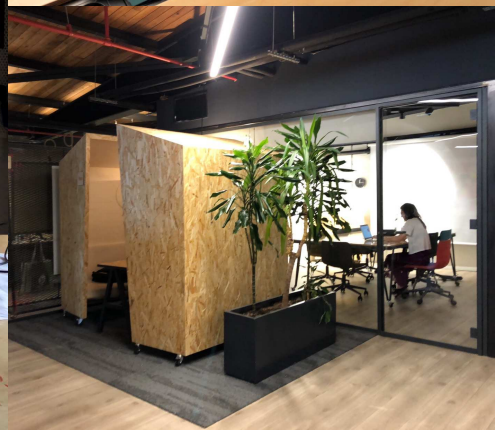
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第４回中央アジア・中東編

ATOLYE

イスタンブール／トルコ

2018年8月28日



© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

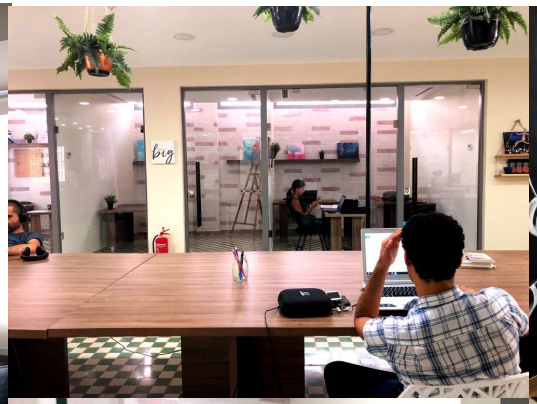
第４回（後半）：中東編

2018年8月24日（8月3日）～ 9月10日

The olive glove

ベイルート／レバノン

2018年8月30日



- ベイルートのオフィス街にある200㎡ほどの小さいコワーキングスペース。
- ビルの２階１フロアに、ホットデスク30席分ほど、個室12室程度、会議室１室がある。
- 部屋の中央にオープンスペースが細長く配置しており、キッチンカウンターや受付などすべてが集約されている
- 空室は２～３席×２室ほどがあるが、プライベートオフィスの在席率が高く、活気ある雰囲気
- ベイルートは停電が１日のうちに頻繁にあるために、空調が効かなくなることがあり、室温が不安定
- コミュニティマネージャーが常駐しているため、ホットデスク、プライベートオフィスに限らずコミュニケーションをしている

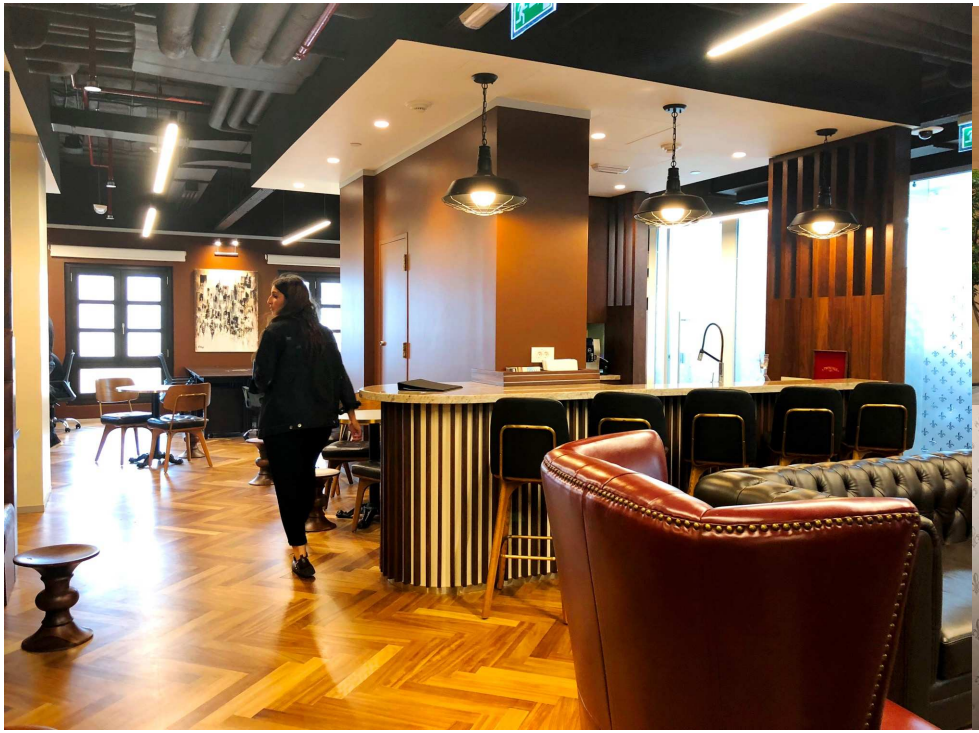
空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★☆☆☆

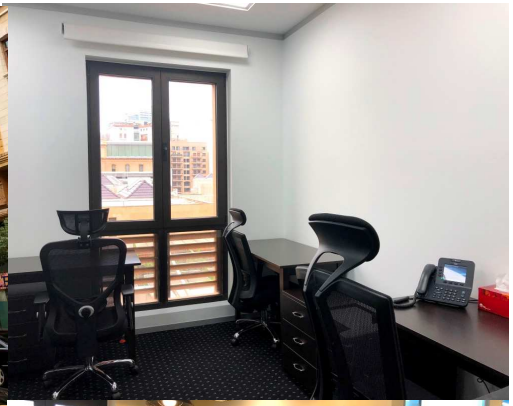
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Survcorp

ベイルート／レバノン

2018年8月31日





- ベイルートの銀座のようなファッション中心街のルイヴィトンのビルに入るSurvcorp
- 3〜4階の２フロア構成で、受付フロアの３階にプライベートオフィス、４階にプライベートオフィス＋共用スペースがある
- そのため空間としてのウェルカム感はない上に、コミュニティマネージャーが不親切
- １day passを出しているにもかかわらず、１時間のみの滞在しか許されず、Wi-FiもPCを預かられて手元が見られないように隠して入力されたためにスマホにはWi-Fi環境をもらえなかった。（それでは仕事にならない）
- GoogleMapのコメントでは最も設備が整ったという高評価だったが、唯一ほめる点はテラスからの眺めのみ
- 共用部で入れられるコーヒーの種類が多く、ラテやエスプレッソなどがあった
- 空間もスタッフも設備も環境も優れてるとは言えず、大手のシェアオフィスには二度と行きたくない。

空間	★★☆☆☆
スタッフ	★☆☆☆☆
Wi-Fi	☆☆☆☆☆
環境設備	★★★☆☆

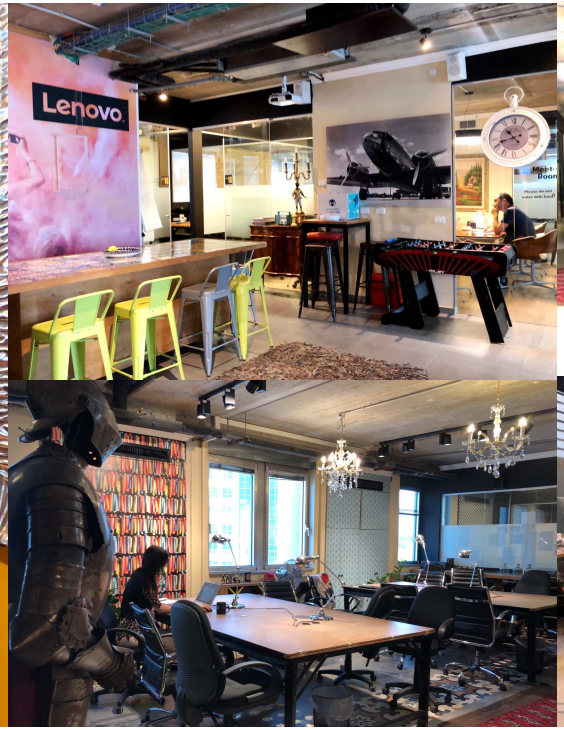
© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

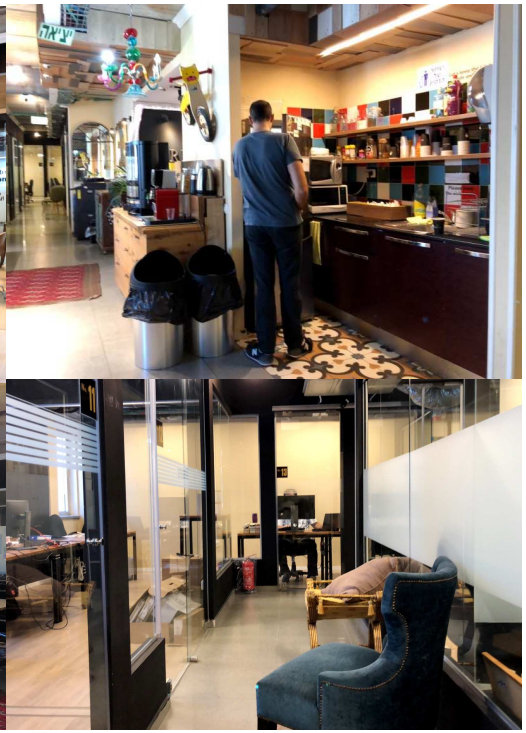
第４回中央アジア・中東編

MARKSPACE

テルアビブ／イスラエル

2018年9月3日





- テルアビブのやや中心から離れた商業ビルに入居する300㎡ほどのコワーキングスペース
- 徒歩5分圏内にもう１件、さらに別に１カ所あり、全部で３拠点存在する。
- ３分の２程度がプライベートオフィスとして利用されており、空室は１～２室程度
- 空室は会議室として利用可能で、２～３時間TV会議をさせてくれた。隣室とはガラスだが、慣れれば音も目線も気にならない。
- 共用部ではTV会議や電話は小声以外はNGだがSkypeルームがないため、電話する際はみなキッチン周りやEVホールに移動している。
- もしかしたらイスラエルはほとんどテック系ベンチャーのため電話をほとんどしないで仕事しているかもしれない
- ビンテージの家具や甲冑の置物などでテイストが整えられていて、天井の意匠にも工夫がみられる
- ２箇所行ってみたが、片方のコミュニティマネージャーがあまりに冷たくてすぐに退室
- もう一方のコミュマネは親切にコストなども説明してくれていて、あまりサービス方針が共有されていない模様

空間	★★★☆☆
スタッフ	★☆☆☆☆
Wi-Fi	★★★☆☆
環境設備	★★☆☆☆

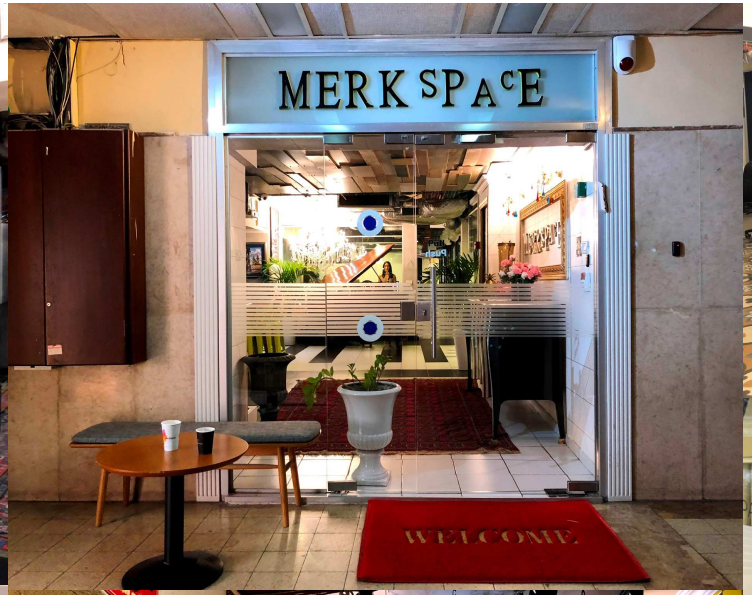
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

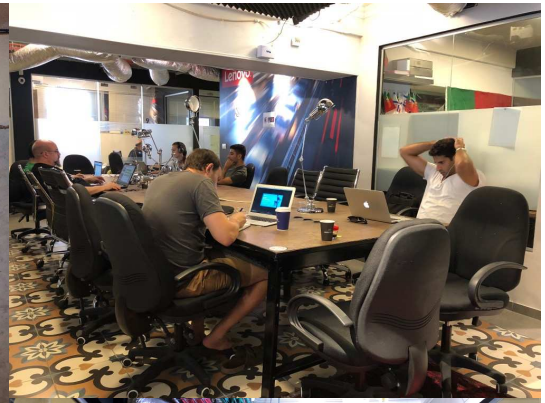
第４回中央アジア・中東編

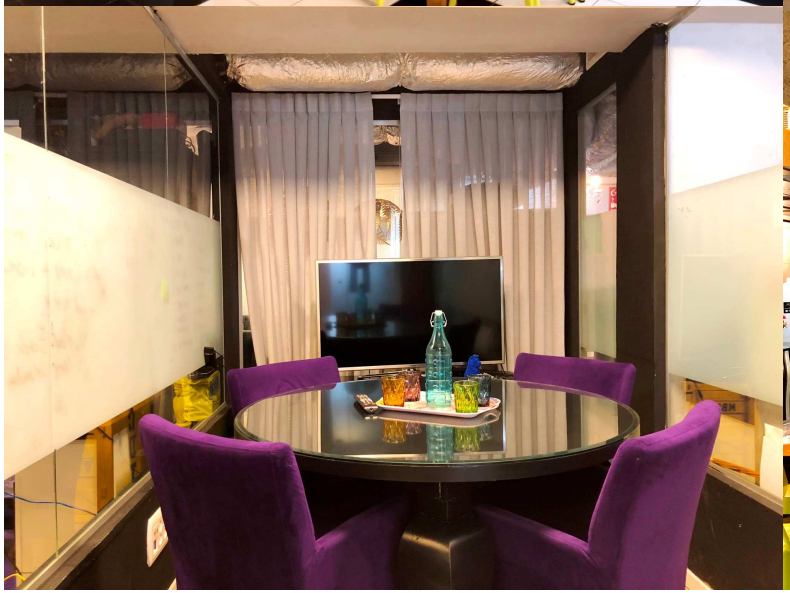
MARKSPACE

テルアビブ／イスラエル

2018年9月3日







© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第４回中央アジア・中東編

Google Campus

テルアビブ／イスラエル

2018年9月4日

- テルアビブ中央駅の周辺にあるオフィス街の高層ビルの上層部をGoogleが入居しており、その１フロアの半分を占める。
- 共用のホットデスクはなく、キッチンカウンターと受付デスクが２席ある程度で、あとはセミナールーム２室
- カーテンで間仕切ることが出来るセミナースペースが１室ある
- 18時以降ホットデスクを利用できるとのことで２度伺ったが、使えなかった。
- １日中、様々な種類のミートアップイベントを行っているようで、常に人が出入りをしていた

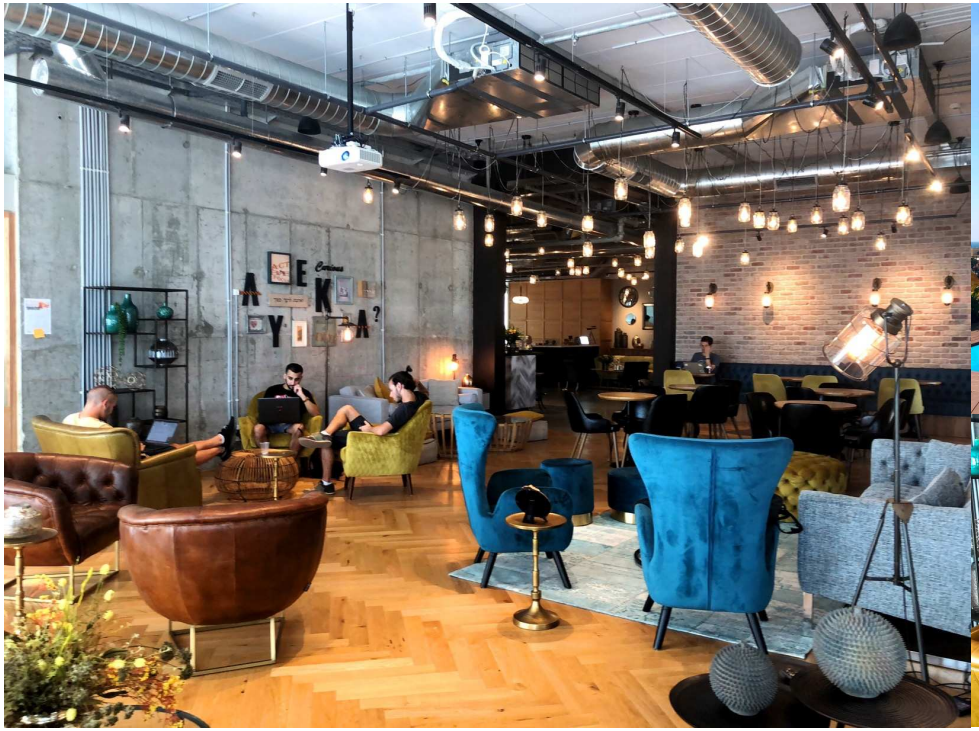
空間	★★☆☆☆
スタッフ	★★☆☆☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★☆☆☆

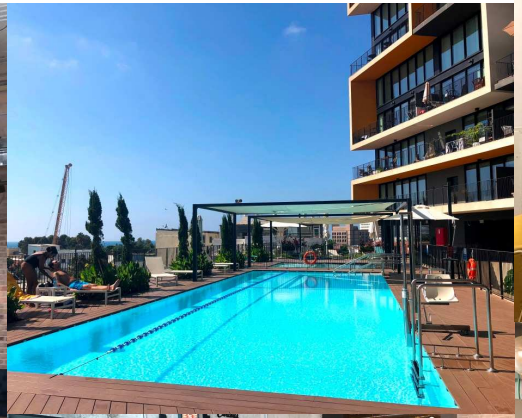
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

AYEKA

テルアビブ／イスラエル

2018年9月5日





- テルアビブの南部の住宅街に位置する、ホテルを改修したコワーキングスペース。
- 住宅との複合ビルの２～３フロアが専用スペースとなっており、1000㎡以上のスペースに中庭・プールもある。
- 24時間利用可能なジムやシャワールームもあり、日中でもプール利用者が見受けられた。
- 専用のEVがあり、受付横に大きな共用部とキッチンカウンターがあり、１周年パーティーが行われていた。
- 半分程度がプライベートオフィスで、空室はほとんどない。
- 中庭を囲んでおり、オフィスの間仕切りもガラスが多いためにどこでも自然光が感じられる空間になっていた。

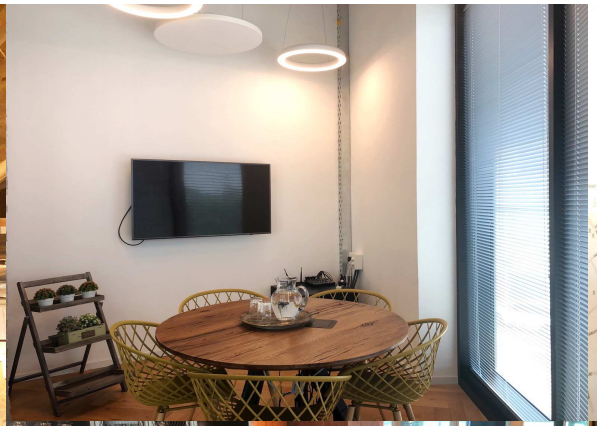
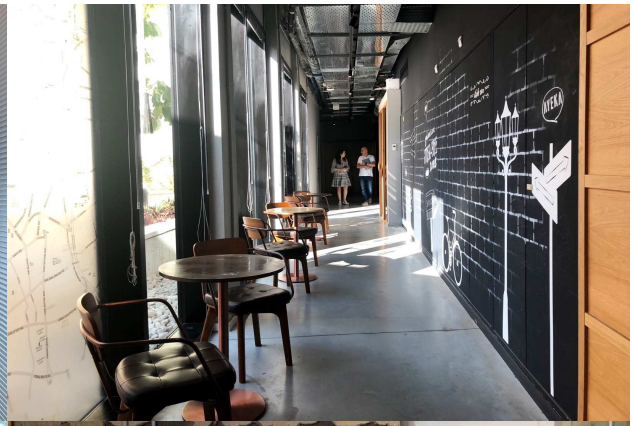
空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

AYEKA

テルアビブ／イスラエル

2018年9月5日

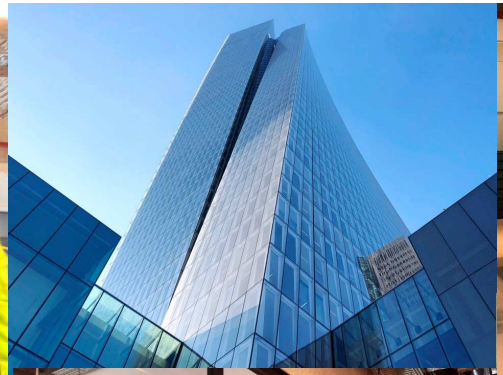



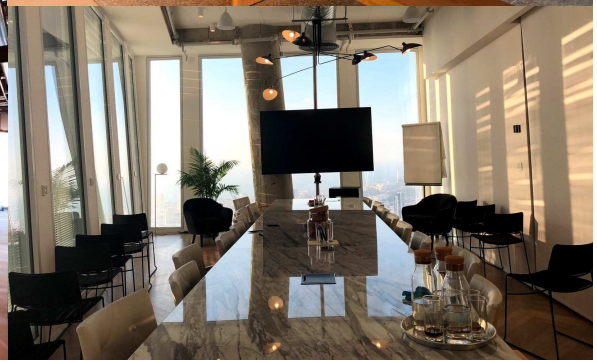
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LABS

テルアビブ／イスラエル

2018年9月5日





- テルアビブ中央駅に隣接する、テルアビブで一番高いビルの上層階に6フロア分にまたがる超高級シェアオフィス。
- １フロア800㎡程度と思われるため、テルアビブ最大のシェアオフィスで、2017年末に出来たが4〜5拠点程ブランチをさらに増やしている。
- このビルよりも高い建物はないため、一番高い所で働けているということを前面に押している。
- 24歳女性、Yaana Goonerというロンドンのデザイナーが空間をデザインしている。とても優秀なデザイナーとして崇拝されている。
- ホットデスクはオープンスペースどこでも利用可能で25,000円／月、プライベートオフィスは11万円／月。
- 基本的に２ヶ月ごとの契約をしていて、空室も見受けられるがどんどん増えていて100社ほどが契約している。
- ジム、シティビューのシャワールーム、子どもも使えるプレイルーム、シアタールームなど各種部屋を完備している。
- コミュニティマネージャーが２フロア毎に１名ずついる。
- すべてはコミュニティマネージャーの裁量次第と認識しており、期待通りの働きをしない人は採用してもすぐに解雇してきた。
- コミュニティマネージャーはいまテルアビブで最も人気の高い職種で、みながなりたい憧れのポジション。とても誇りに思っている。
- 最上階にORBSが半フロア占領していて、キッチンカウンターを増設中。これからも拡張していくことが予想される。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

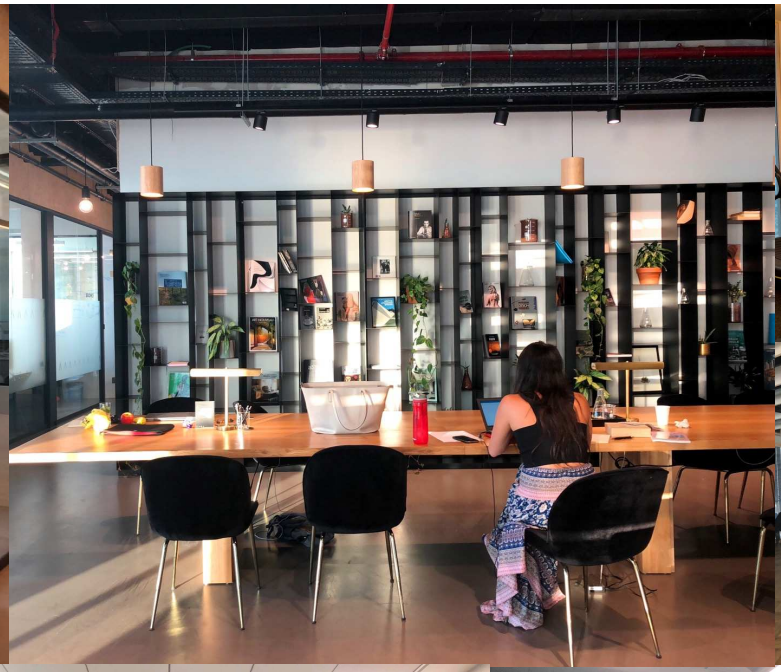
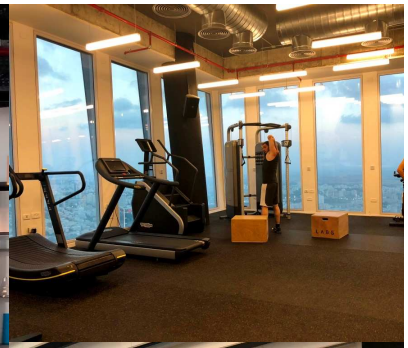
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第４回中央アジア・中東編

LABS

テルアビブ／イスラエル

2018年9月5日

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

気づき

GOOD

- 基本的にTVまたは電話会議なので、同時にメール処理しても失礼じゃない。→効率が上がった
- 「自分にできることは即レスのみ」と即レスしまくってたら、やたら感謝されるようになった。
- 常に１ヶ月くらい先の作業を想定して仕事するようになった。（旅の基本）
- チームや部下とのコミュニケーションが増えた
- 新規プロジェクトを個人指名で受託した
- コンペに勝てた
- 研究支援業務の受託が出来た
- 共同研究者が現れた
- 旅への緊張感（≒トキメキ）を取り戻した

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

気づき

NOT GOOD

- 非常時・災害を共有できない。同じ場所にいないと「台風だから仕方ない」のように許容されない。

  ex.停電、ムスリムの貧困を救う祭、親日トルコ人に引き止められて地下鉄乗りそびれる

- コアデーを作らないといつまで経っても安定したWi-Fiから離れられず移動が出来ない。
- いつでもどこでも繋がれると思われているため、トイレも我慢する。
- いつでも繋げて下さいと言っていたら、ダブルブッキングが起こった。
- 想定外の事態にすこぶる弱い。
- お気に入りのペン１本紛失しただけでクリエイティビティが下がる。二度と手に入れられない。
- 一度電話が行き違いになると１～２日行き違いになり続ける。
- 次の国へ行くと面倒でご飯を食べずに済まそうとするため、糖質が足りずに効率が下がる。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

気づき

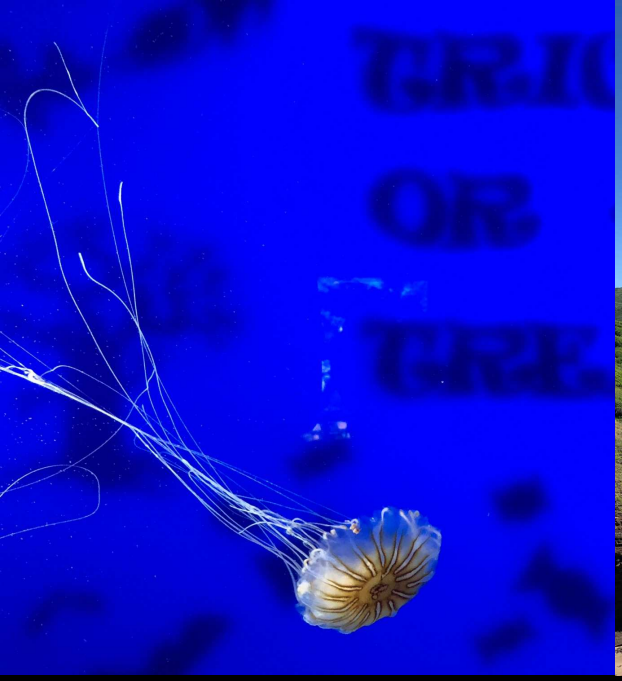
OTHER

■時差について

・4時間の時差だと最高でも朝5時起きすれば良いので、朝方に変更すれば問題ない。

・夜のうち（日本時間の早朝）にメールを入れて就寝し、起きた時にチェックして返信すると効率的

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



第５回：ハワイ編

２０１８年１０月１０日～　１０月１６日

第５回ハワイ編

EPIC2018

エスノグラフィー学会

2018年10月10〜13日

- EPIC＝エスノグラフィー学会。「工業における民族誌的実践会議」Ethnographic Praxis in Industry
- 2006年から始まった。2010年に東京で行われたことにより日本で認知がされた。インフィールドデザインの井原さんは東京に続き２回目の参加となる。
- 創始者はインテルの研究者であるケン・アンダーソン。AI業界にはUXデザインに投資されていたため、Google、Microsoft、AdobeなどのAI業界からはじまった。
- その中でもインテルはエスノグラファーたちからの憧れの職場である。
- エスノロジー（民族）＋グラフ（誌）＝エスノグラフィー（民族誌学）ビジネスアンソロポロジーとも呼ばれている。
- アンソロポロジー（文化人類学）＝文化を持つ人間を探求する学問から派生した学問である。
- 600名（例年の２倍の人数）が参加したのは文化人類学のメッカであるハワイで行われたからともいわれている。KEYNOTEは①文化人類学者②社会学者③Steelcaseの役員の３名
- 会場は３室＋ギャラリー１室で合計50件の発表があった。Paper・Pechakucha・Casestudy・Panel・Salon（要予約）に分かれていて参加者はほとんどがアメリカ人。
- アカデミア３割、プラクティショナー7割ほど。日本人は井原さん・日立の原さん・JTの女性（導入したいと検討中）＋梅中しかいなかった。
- 開催場所はアメリカとアメリカ以外を乞うご開催している。2019年はアメリカ、2020年がメルボルンを予定している。
- サービスデザインは北欧中心で広がっており、アメリカでは流行っていない？

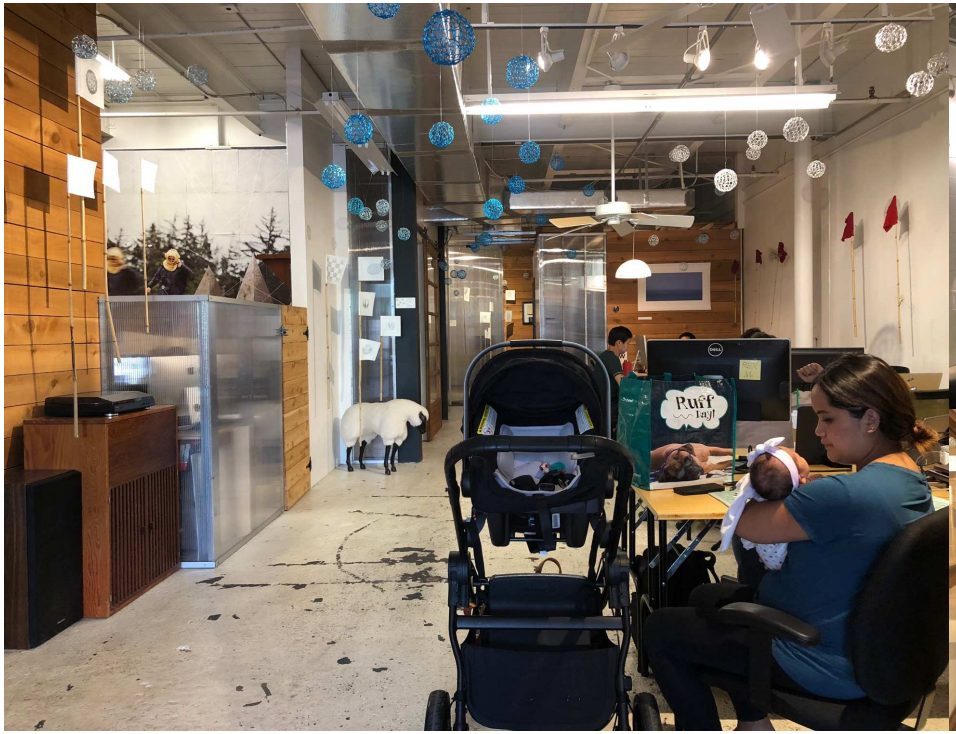
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

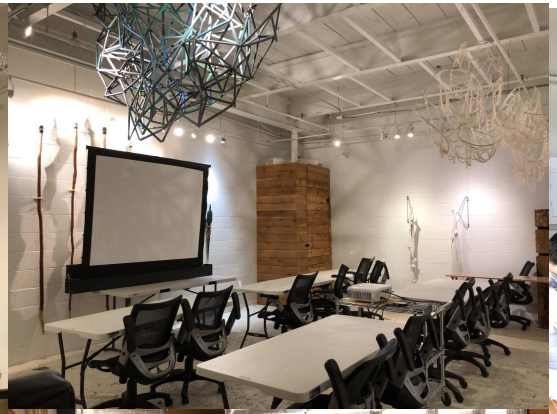
第５回ハワイ編

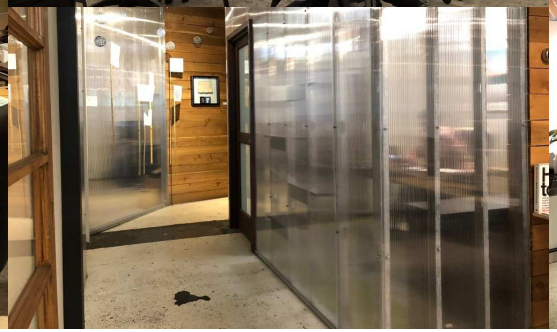
BoxJelly

ワイキキ／ハワイ

2018年10月15日







- **ハワイ初のコワーキングスペースとして**2011年に開業。
- **福岡発コワーキング「The Company」とのコラボレーション店舗となり、**BoxJelly×The Companyはメンバーシップ登録で利用ができる。
- 会議室やイベントスペースの予約は、メンバーに限らず利用可能メンバーの交流やコミュニティーを通じて、新しいアイディアやイノベーションを生み出すことを目指す。
- 2017年には「The 20 Best Coworking Spaces Across the Globe」にランクインし、世界的に注目されている。
- 年齢や業種に縛られることなく、個人から多国籍企業まで多数のクライアントが共存しており、Fast Retailing（ファーストリテイリング）やCentral Pacific Time(オンラインラジオステーション)などの企業が入居。
- 新店舗は、ホノルルのカカアコ地区再開発プロジェクトとして誕生した60エーカーにも及ぶ「ワードビレッジ」の中心地にて開業。
- 市街地でありながら広大な自然とオーシャンフロントの立地を持つ、充実した近隣環境が特徴。
- 「働く」こと以上に価値を見出せる生活空間で、プロフェッショナルたちをサポートする。
- 新店舗にはハワイに根付き世界へと広がるスペースとして、「Central Pacific Time」のラジオ局やアーティスト・イン・レジデンススタジオを設けていて、文化・芸術的な関係強化に奮闘しながら創造と発信の双方の実現を目指している。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第６回：ベトナム・カンボジア編

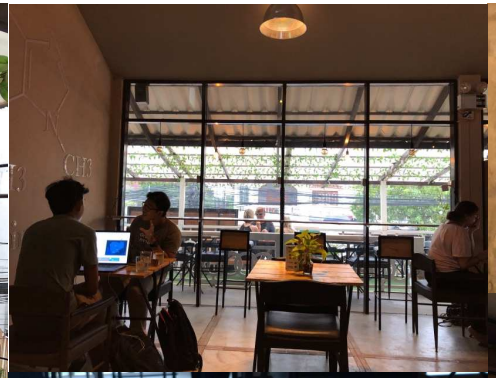
２０１８年１１月２３日～ １１月２７日

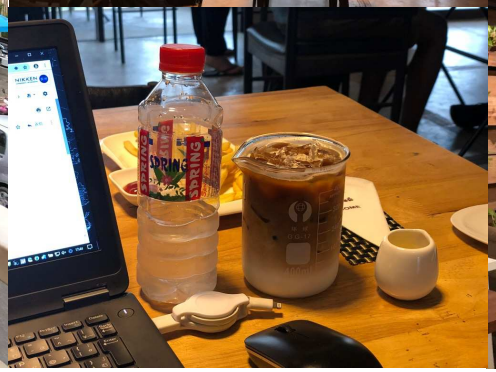
第6回ベトナム・カンボジア編

BIO-LAB

シュムリアップ／カンボジア

2018年11月25日





- コワーキング主体というよりもカフェが主体でコワーキングが付随しているシュムリアップ中心部に位置するコワーキングスペース。
- 「実験室」をテーマとして若いカンボジアの起業家がコンセプト立案・企画設計・ビジネスとカフェ全体の設計を行った。
- １階にカフェカウンター＋ソファ席、２階に４人掛けのテーブル席、ファミレスタイプの商談席、喫煙可能な屋外のワークスペースも十分に完備。
- 試験管やフラスコ、顕微鏡などがインテリアとして飾られ、コーヒーのグラスもフラスコやビーカーになっている。（テイクアウトは２割引き）
- トイレサインもヒトの遺伝子を表したものになっていて、コンセプトが小物やサインまで徹底されている。
- 旅行者だけでなくデジタルノマドワーカーや学生も利用していて常連客が多く見られる。滞在時間も４時間以上と皆長い。
- 基本的な文房具やスキャン機能がついたプリンター、ロッカー、高速Wi-Fiが整っていて快適に仕事できる。
- 個室の会議室「プライベートVIPルーム」があり、インターネットでも予約が可能。
- 月75ドルを支払うとレギュラーサイズドリンクが毎日無料で、会員のように利用することが出来る。
- コーヒー以外にもフラッペや抹茶、スムージーなどメニューが豊富でどれも美味しい。働く場所も多様でリーズナブルな環境。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★☆☆

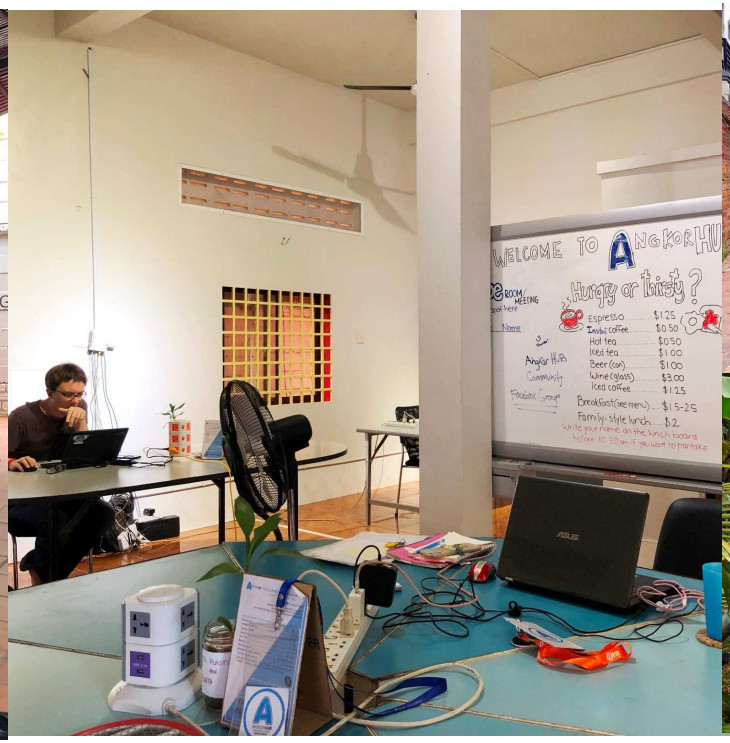
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第6回ベトナム・カンボジア編

ANGKOR HUB

シュムリアップ／カンボジア

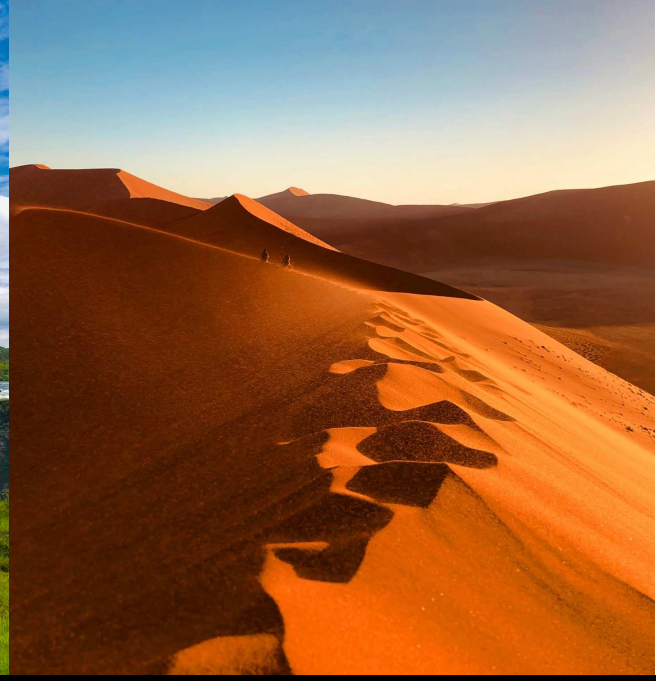
2018年11月26日



- シュムリアップで初めて2013年に誕生した。
- カナダ出身の起業家・ジェフ氏が経営するシュムリアップのオールドマーケットから外れた場所に位置するコワーキング。
- １階がコワーキングスペース、２階がゲストハウスになっている。猫が多い。
- 屋外に15名程が座れるビックテーブル、屋内に10名程が使用できるデスクとキッチンがある。
- １日単位での利用は受け付けておらず、１週間単位以上のみ受け付けているためドロップイン利用不可。
- 基本的に宿泊者が利用しているため、ランチやディナーなどが提供されて旅行先でも規則正しく仕事が出来る場所になっている。
- カンボジアは停電がよくあるので発電機を完備している。ネット環境を意識して大事にしている。
- 旅行者を意識してマルチタップやSkype会議室も完備。ビリヤードやハンモックなどもあるがあまり使われていない様子。
- １ヶ月89＄と高めだが24時間利用可能。IT関連の利用者が多く、毎週金曜日にミートアップイベントを開催している。
- カンボジアはIT関連のスタートアップ企業が多く進出している。日本のように既得権益のある業界が少ないため、開発スピードが速い。

空間	★☆☆☆☆
スタッフ	★★★☆☆
Wi-Fi	？？？？？
環境設備	★★☆☆☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



第7回：南部アフリカ編

2018年12月23日～ 2019年1月17日

第７回南部アフリカ編

THE WORKS

リロングウェ／マラウイ

2018年12月25日

- マラウイの首都・リロングウェの北東部に位置する高級ホテル・バー・レストランに付属したコワーキングスペース。
- ドロップインを受け付けているか宿泊者のみかは、コンシェルジュも利用者も１人も見当たらなかったので確認が出来なかった。
- 南部アフリカの中でも最貧国と言われるマラウイでもコワーキングスペースが存在していて、働く環境が整っている。
- リロングウェの街は公共交通機関も整っておらず、アフリカの中でも発展が遅れている国と言える。
- その証拠としてJICAの派遣人数が多い。JICAの派遣人数は治安の良さにも比例するので、貧しいが安全な国と言える。
- 空間を支配する家具が全てアンティークでプロペラや車輪などのリサイクルを転用した１品ものである。
- 家具・インテリア・アートを含めてデザイナーが存在していることに間違いはないが、誰かは不明。
- リロングウェの相場からは5倍ほどする高価なレストラン、バーであるが一定数のお客さんがいた。
- ホテルの内装も丁寧にデザインされているが、プロモーション不足なのか宿泊客がほとんど見られなかった。

空間	★★★★★
スタッフ	？？？？？
Wi-Fi	？？？？？
環境設備	★★★☆☆

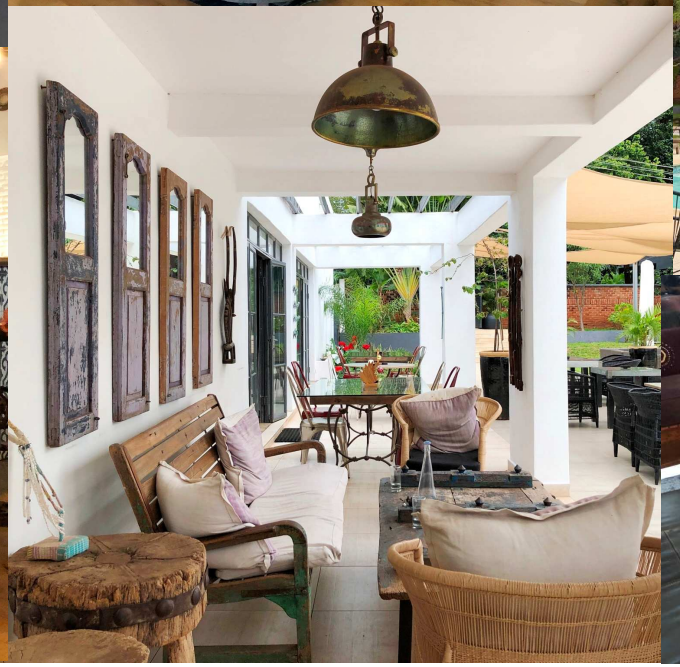
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第７回南部アフリカ編

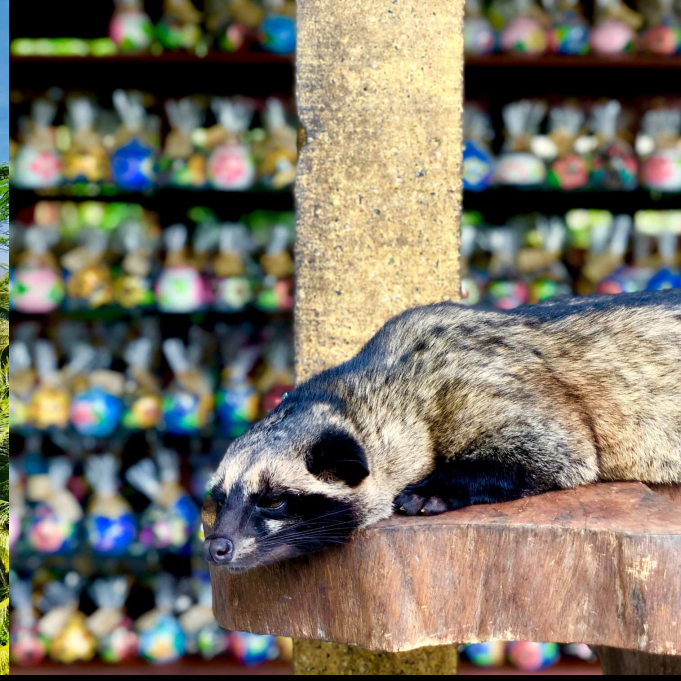
THE WORKS

リロングウェ／マラウイ

2018年12月25日



© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



第８回：２回目のバリ編

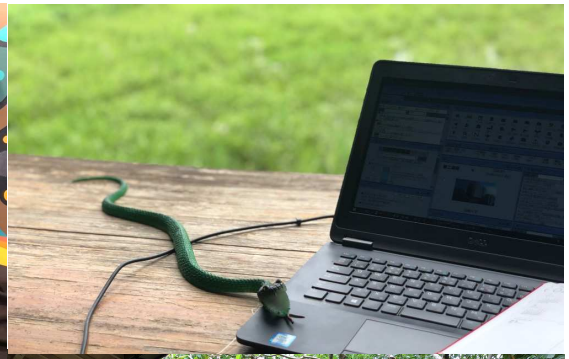
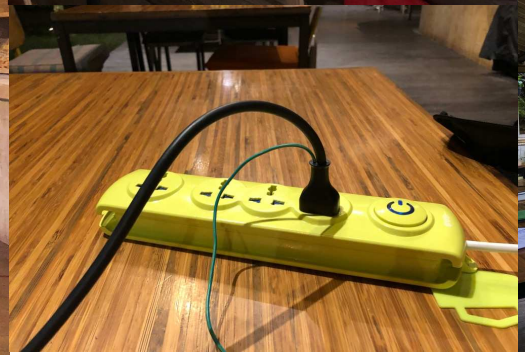
２０１９年３月１９日～３月２６日

第８回２度目のバリ編

Hubud

ウブド（バリ）／インドネシア

2019年3月22日

- バリのウブド地区にあるコワーキングスペースに２回目の訪問。
- 空調の効いた屋内の静かなデスク、Skypeルーム、プライベートルームの他、ホットデスクも屋内外にそれぞれ机や椅子が違うスペースが用意されている。
- 世界のコワーキングスペースの中で最も捗る環境が整っていると言える。
- 昨年はなかった電源プラグが増設されていて、唯一の不便が解消されていた。
- 隣接するモンキーパークの影響なのか、猿が多く出現するようになっており、１日に数回猿を追い払うスタッフの様を見かけた。
- 金曜だったために夜18時20分にスタッフから声掛けがあり、徒歩２分の場所の日本食屋でミートアップイベントが行われるという。
- 同じ日本食屋に２時間後に伺ったが、解散された後だった。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第８回２度目のバリ編

Outpost

ウブド（バリ）／インドネシア

2019年3月23日

- ウブドの南側に位置するコワーキングスペース。２階建てで宿泊施設も完備している。
- 50人以上が働けるスペースを擁していて、２階はプライベートオフィス＋NOエアコンルーム＋屋外テラス、１階はクワイエットルーム（エアコン完備）
- 中庭にキッチンスペースがあり、自由に行き来が可能。
- シャワールーム、ロッカールームも完備していて、道路に面したカフェも併設していて美味しいコーヒーが飲める。
- キッチンスペースの無料のコーヒーよりもカフェでお金を払って美味しい方を飲む人が多く見られた。
- 暑い時期だったからか２階で仕事をしている人は１名だけ、その他は１階の空調が効いた部屋で10名程が仕事していた。

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

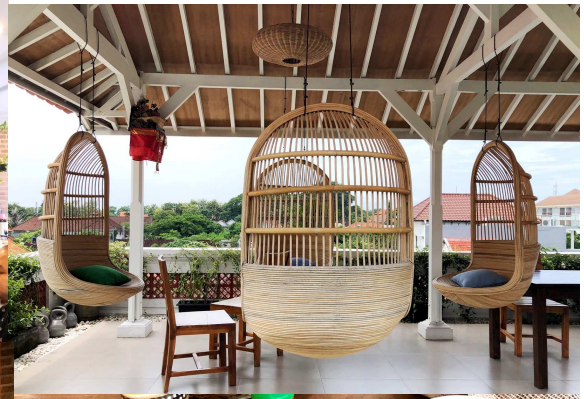
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第８回２度目のバリ編

Livithub

チャングー（バリ）／インドネシア

2019年3月25日



- チャングー地区の北寄りの目抜き通りから１本奥に入った位置にあるコワーキングスペース。
- ４階建ての建物で１階がドロップイン利用込みのホットデスク＋キッチンスペースとなっている。
- ２～３階がプライベートオフィス＋プライベート会員のみが利用できる共用スペース
- ４階がプライベート会員のみが利用できる屋上テラスワークスペースになっている。
- ３段階で契約形態が分かれていて、契約によっては朝昼晩のすべての食事がついてくる内容になっている。
- １番安い契約形態でもランチまたはディナーを選択でき、12時になるとキッチンスペースがビュッフェスタイルのレストランになる。
- バリならではの気候により内部と外部の境界が誘拐した構成が、心地よくテラスで仕事する人も多く見られた。
- テラスからはビューが確保されていて、ハンモックなどもあるが、大半が打合せ用のスペースとして作られてた。
- 平日の午前中ではあったがレクチャーイベントが開催されていて、20名以上が真剣に議論をしていた。

空間	★★★★☆
スタッフ	★★☆☆☆
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第９回：カナダ・ポートランド編

２０１９年４月２４日～５月９日

第9回カナダ・ポートランド編

Centre for innovation

トロント／カナダ

2019年4月26日

- トロントに３拠点を展開しているコワーキングスペース。４階建てて１階がホットデスク＋イベントスペース、２階以上がホットデスクと共用部になっている。
- ITスタートアップ企業を中心に様々な起業が入居して働いている。
- CISメンバーになると多様なイベントに参加することが出来る。1階にあるカフェスペースは誰でも利用することが出来る。
- １ヶ月20時間までで12500円ほど。受付はあるがカードリーダーなどはないので、どのように20時間を測定するかは不明。
- どのフロアも入居者が多くいてとてもにぎわっている様子。食に対してもこだわりがあり、イベントも多数。
- イベントスペースはTHE GARAGEと呼ばれていて、普段は作業スペースとしても利用できる内装になっている。
- トロントは地形に起伏があるためか、建物は１階が半地下になっていることが多いが、バリアフリーのためにリフトがついていた。
- 寒い地域のためエントランスにはまずクローゼットと受付があり、３名以上のコンシェルジュが丁寧に対応してくれる。
- 古い建具や工業製品などをリユースして内装を構成しており、建物全体のトンマナが丁寧に作られていて好感の持てるインテリア。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

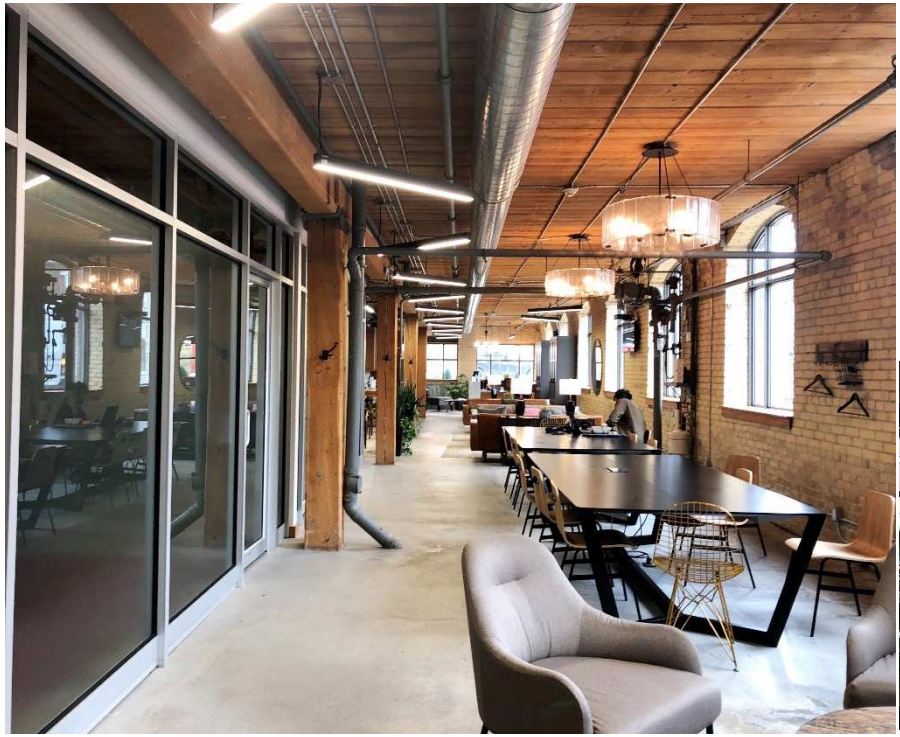
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

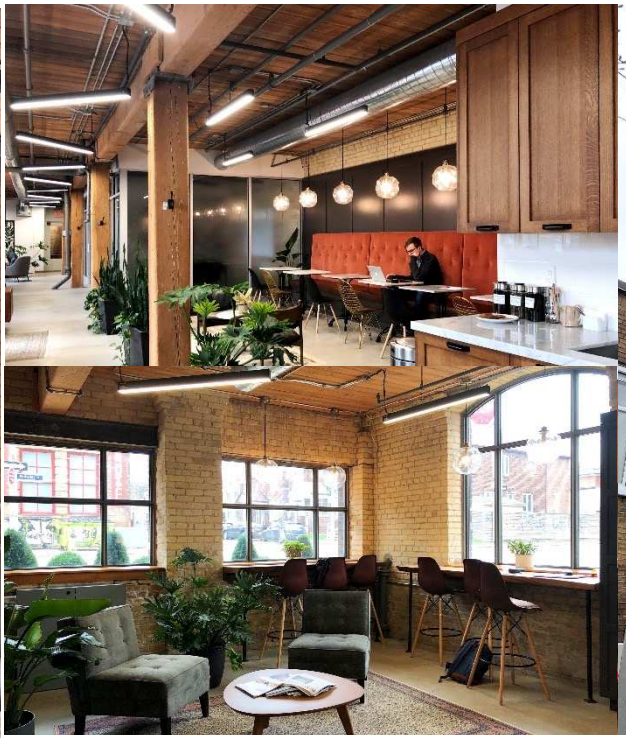
第9回カナダ・ポートランド編

Workplace One

トロント／カナダ

2019年4月27日





- トロント内に３拠点を構えるコワーキングスペースの１拠点。
- 建物全体がコワーキングだが１階がドロップインのホットデスクになっている。
- コンシェルジュと利用者５～６名程度と、１人のリモートワーカーが１階を利用しているのみで、他の利用者はほとんど見かけなかった。
- １階にはシェアスペースのほかに会議室が２室あり、誰でも利用が可能。
- コーヒーの種類が多く選べ、質も高いためお得感がある。
- 半地下になっている窓際のスペースのハイカウンターは外を行きかう人の足元を見ながら働くことになるが、意外と捗る。
- 17時に閉館してしまうために不完全燃焼で仕事を終えることになるが、会員はその後も残り無料のビールを飲んでいた。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★☆☆

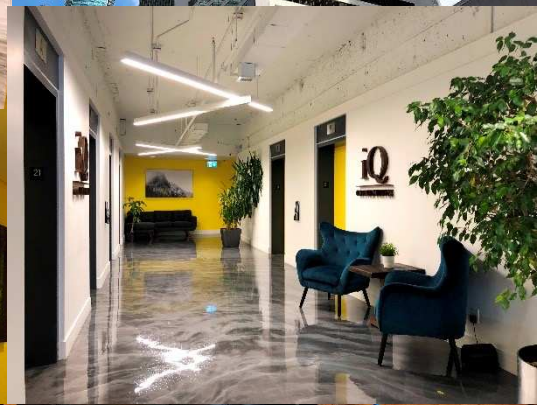
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第9回カナダ・ポートランド編

iQ office suite

バンクーバー／カナダ

2019年5月1日



- バンクーバーの中心街の高層オフィス18階にあるハイエンド層向けのシェアオフィス。
- バンクーバーの高層ビル群を眺めながら仕事が出来るプライベートデスクが入口からすぐの場所に設けられており、キャビネットも与えられている。
- １フロアのみのこじんまりとした構成だが、シェア空間、セミオープンの打合せブース、キッチン、プライベートデスク、ぷらーベーとルームまで一通りのコンテンツはそろっており、必要十分な機能が備わっている。
- 塗床の床材、黄色にまとめられた塗装壁、白く塗った天井、具象アートなど、ディレクションがシンプルながらスタイリッシュ。
- トロントにも拠点があり、カナダ全体で高級オフィス思考を持ったユーザー層の願いをかなえている。
- ビルのスペックと住所、シンプルな機能と洗練された空間構成は他のコワーキングとは一線を画す事例と言える。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第9回カナダ・ポートランド編

L'Atelier Coworking

バンクーバー／カナダ

2019年5月1日

- カナダの中心部にある雑居ビルの４階にあるこじんまりとしたコワーキングスペース。
- １フロアのみでエントランス部分の最もビューの良い部分が固定デスクになっている。ホットデスクわ光の入らないフロアの中心部に20席程度。
- ２室ほどプライベートオフィスがあり、会議室やセミプライベート室がある。
- 小さいながらも家庭的で使いやすいキッチンと、１室のみのレストルームがある。
- カナダは多くの難民を受け入れているだけあり、多様な人種が暮らしており、外国人が暮らしやすい環境が整っている。
- スタートアップビザがあり、ある一定の条件を満たすと起業することが出来るため、ITベンチャー等が多く存在する。
- トランプ政権が発足した時にカナダの移民局のWEBアクセスが集中して一時ダウンするということもあったほど、注目されている。
- ビジネスシーンにおいても文化を軽々と超える多様性を許容する環境があるため、イノベーションが起きやすいと言える。
- スタートアップビザは2013年から5年間継続的に試験がされてきて、100人以上の起業家が移住し、70もの新規事業が誕生した。
- その成功をもって2018年スタートアップビザは高級プログラムとして認定、今後も多くの優良スタートアップが流れるとみられる。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★☆☆☆

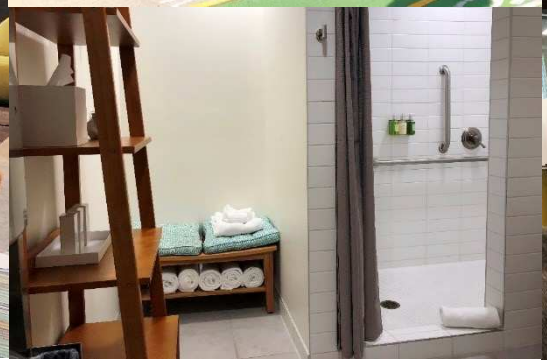
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第9回カナダ・ポートランド編

ATLAS WORKBASE Seattle

シアトル／アメリカ合衆国

2019年5月3日



- シアトルの中心部からやや北に位置する高級志向のシェアオフィス。
- 複合ビルの２階１フロアを占領している。１階にはスーパーマーケットが入っていて半階上がってアプローチする。
- 空間はGenslerによるもので、大企業や成熟した中小企業のエグゼクティブ向けに設計されている。
- 何年間も空港のビジネスラウンジを利用しながら出張を重ねてきた創業者が、空港ラウンジの流動性とホスピタリティにインスパイアをされてこのデザインに至った。
- 協賛企業としてFEDEXがいるため機器が整っていて、清潔なシャワールームも完備されている。
- 家具はSteelcaseがプロデュースしており、空間をデザインしたというより家具を配置した空間デザインと受け取れる。
- 長期契約者狙いというよりはオープンラウンジ、半個室、個室、多様な会議室を用意しその時々に応じて利用者に選択してもらう。
- 会議室には調光・色温度調整が出来るipadや、グラスのコップ＋革のコースターが設置されており、こちらも高級志向。
- 事前予約により１day free passが得られるが、19時に閉まってしまうため長居が出来ず、終始閑散とした雰囲気。
- サンドウィッチなどの軽食も自由に食べてよい。
- 雑誌の撮影が入っていた。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

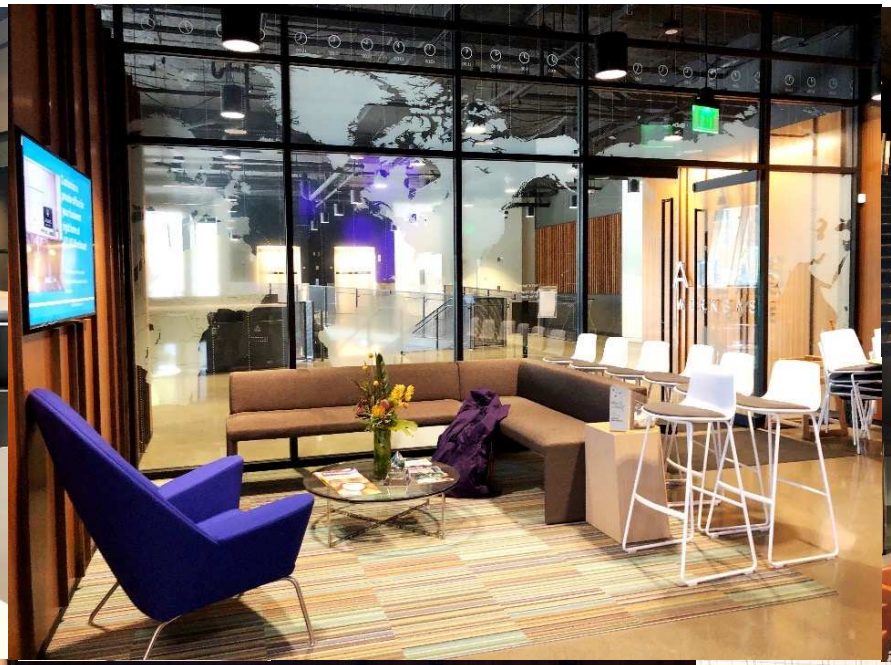
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

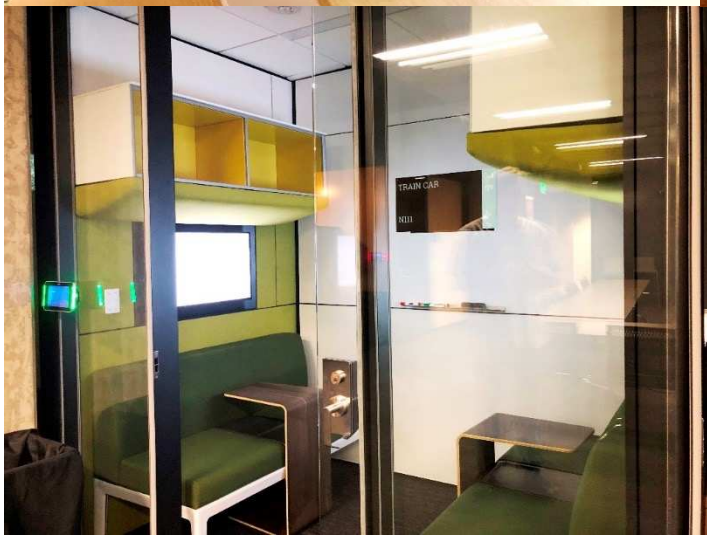
第9回カナダ・ポートランド編

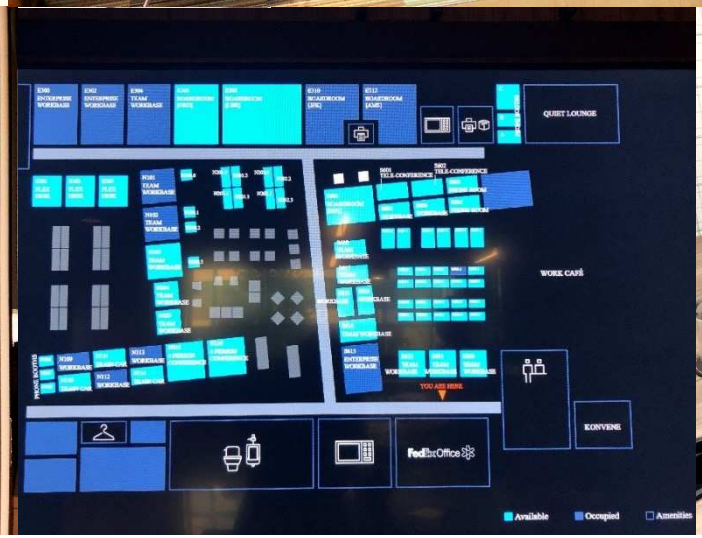
ATLUS Seattle

シアトル／アメリカ合衆国

2019年5月3日







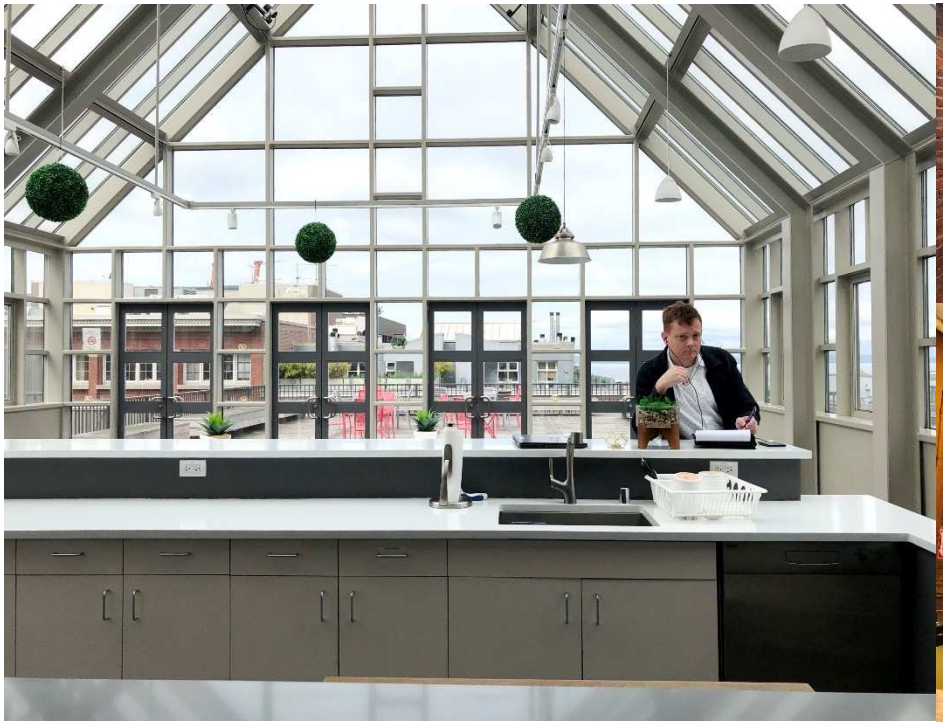
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

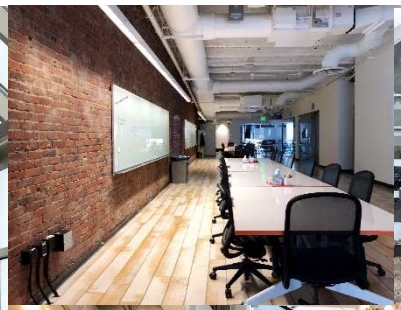
第9回カナダ・ポートランド編

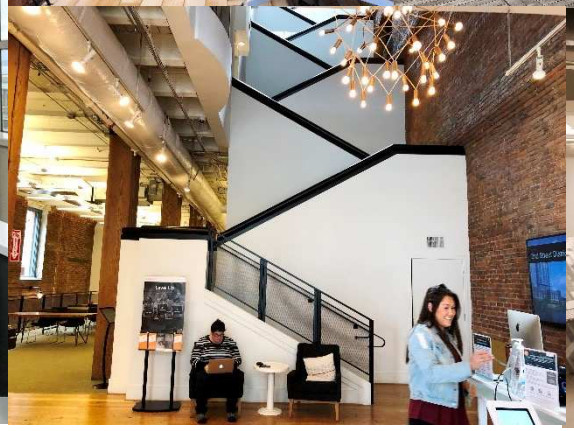
Galvernize

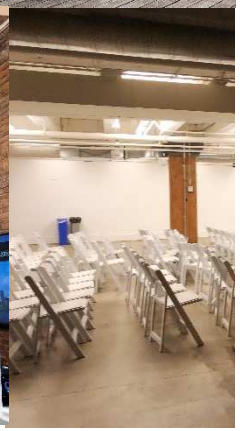
シアトル／アメリカ合衆国

2019年5月3日









- サンフランシスコのSOMA地区にある学習教育機関も兼ねたコワーキングスペースのシアトル拠点。
- SOMAのように教育機能が整っている訳ではないが、講座などは定期的に開催されているようで、地下１階に大きなスタディホールを擁する。
- 5階建てで屋上はガラス張りの屋根がかかったワークスペースになっていて、海が一望できる環境で仕事をすることも出来る。
- お昼時には屋上テラスに多く人が来て、コミュニケーションを取っている。
- 古い建物を改修し、1階のエントランスの受付背後にある吹抜けで最上階まで連続した空間構成になっている。
- １階はフリーデスク、２階以上は半固定席と個室、２つの会議室、それぞれにキッチンがある基本的な構成になっている。
- 会員数はそう多くないが、8拠点あるGalvernizeを利用することが出来るため、各都市を移動して働く人には便利。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★☆☆

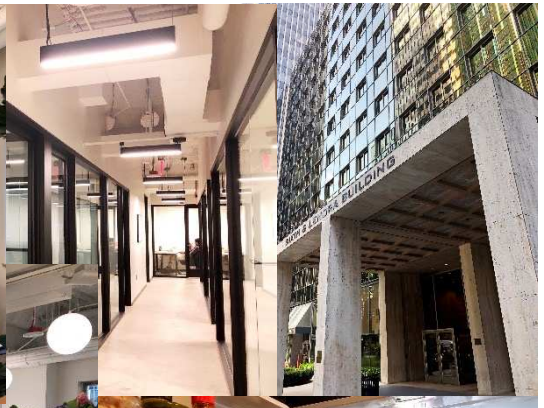
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第9回カナダ・ポートランド編

Industrious

シアトル／アメリカ合衆国

2019年5月3日



空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

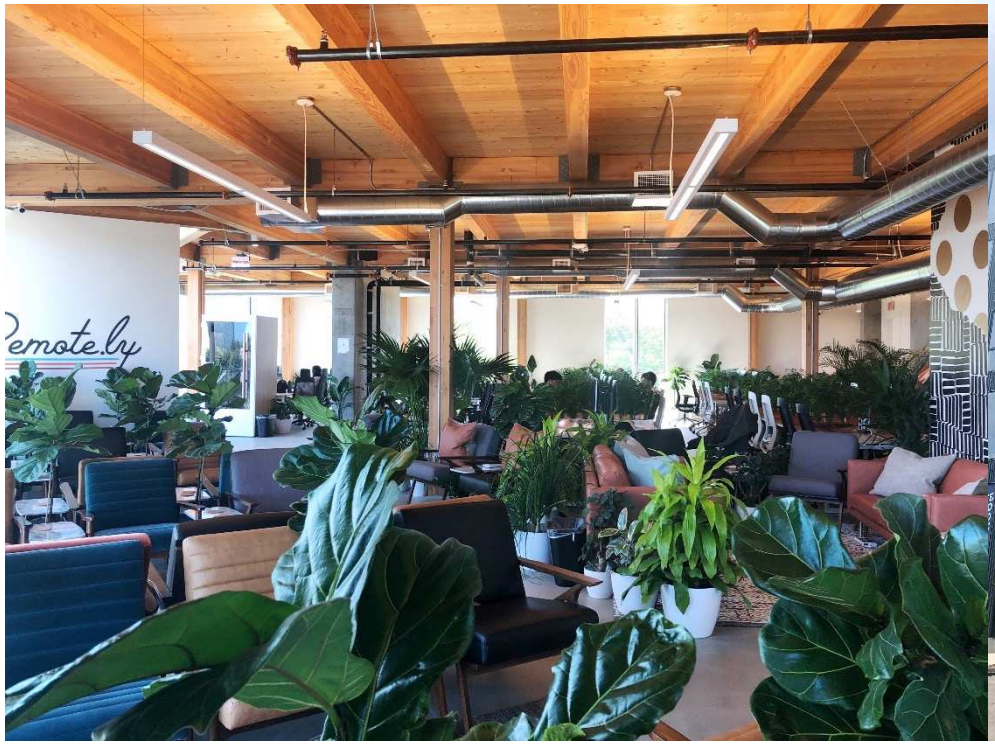
@workinremote.ly

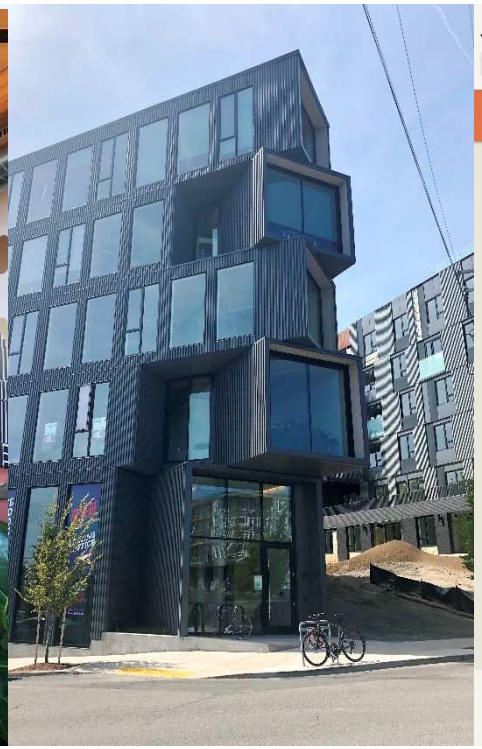
第9回カナダ・ポートランド編

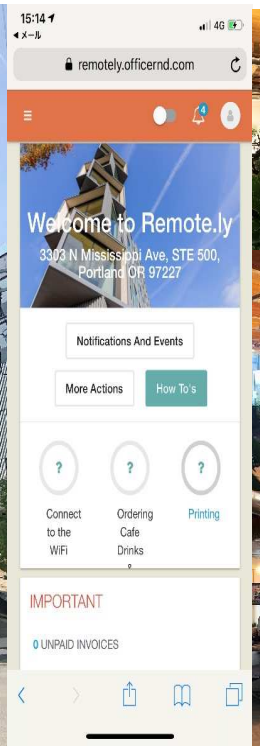
Remote.ly

ポートランド／アメリカ合衆国

2019年5月7日







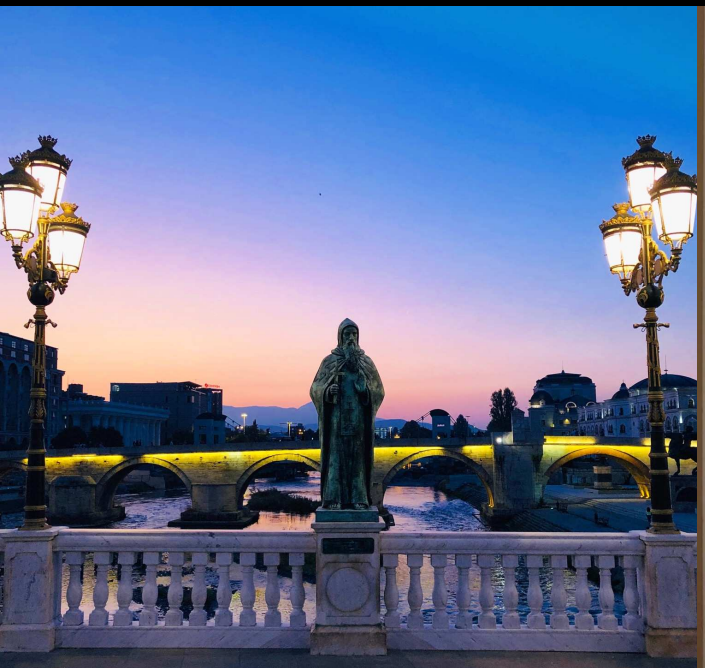
- ポートランド郊外にあるドロップイン可能なコワーキングスペース。
- 建物の4〜5階がコワーキングスペースになっていて、コーヒーや軽食なども入館時に登録したQRコードで購入が可能。
- アプリ上で注文をすると自席まで持ってきてくれるというサービスもあり、落ち着いてワークが出来る施策と環境が整えられている。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回：中東欧編

2019年8月4日～9月3日

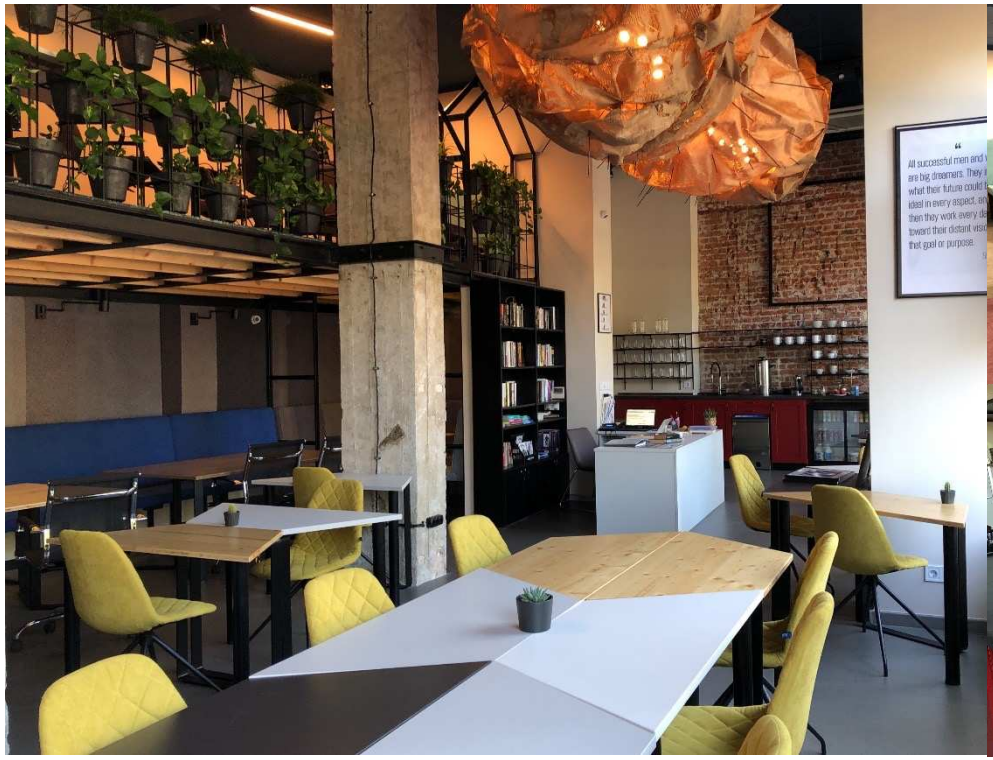
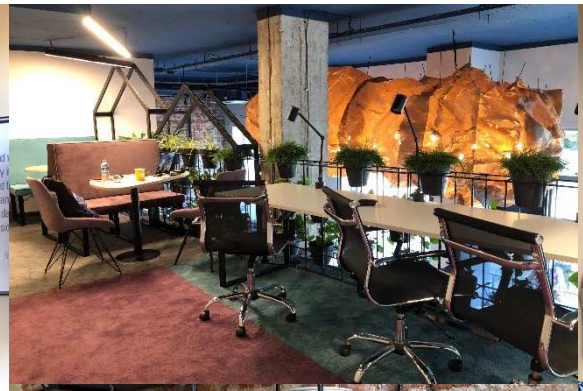
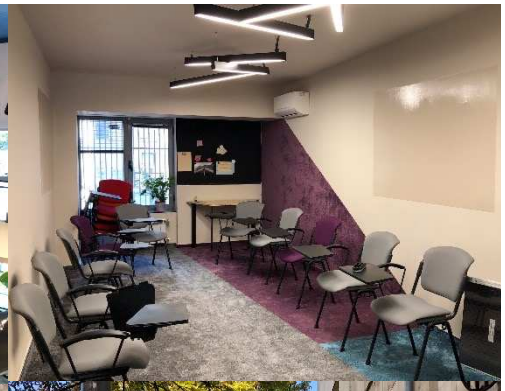


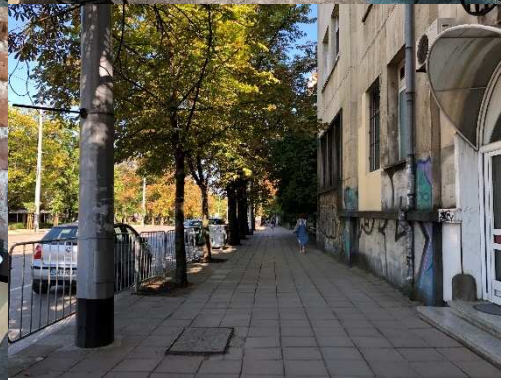
第10回 中東欧編

WORKY

ソフィア／ブルガリア

2019年8月6日



- ブルガリアの中心部から南東のZaimov公園の南に位置するコワーキングスペース。
- 時間貸しが可能で１時間700円ほどで利用が出来る。１日の利用も可能。8〜20時まで。
- 小ぶりながらに6人用会議室、10人以上で利用できるカンファレンススペース、１〜２人用のフォンブースなど一通りの設備が整っている。
- 共用デスクスペースは吹き抜け空間に２層に連続していて、50席ほどが確保されている。テーブル席からソファスペースなどバリエーションも充実している。
- カフェスペースが充実していて、オートミールやヨーグルトや果物まで自由に取ることが出来る。
- 朝食サービスも毎日開催している。
- ロールカーペットを多用した内装となっていて、張り分けや壁材として張り上げるなど随所に工夫が見られる。
- 東欧には珍しく路面店になっていて、目の前がバス停となっていて全面ガラス張り。
- 吹き抜け空間上部に巨大なアート兼照明がつりさげられていてアイキャッチになっているため容易に見つけることが出来、開放的。
- スタッフが２名常駐しており心配りが細部までされているので安心して利用が出来てホスピタリティも高い。

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

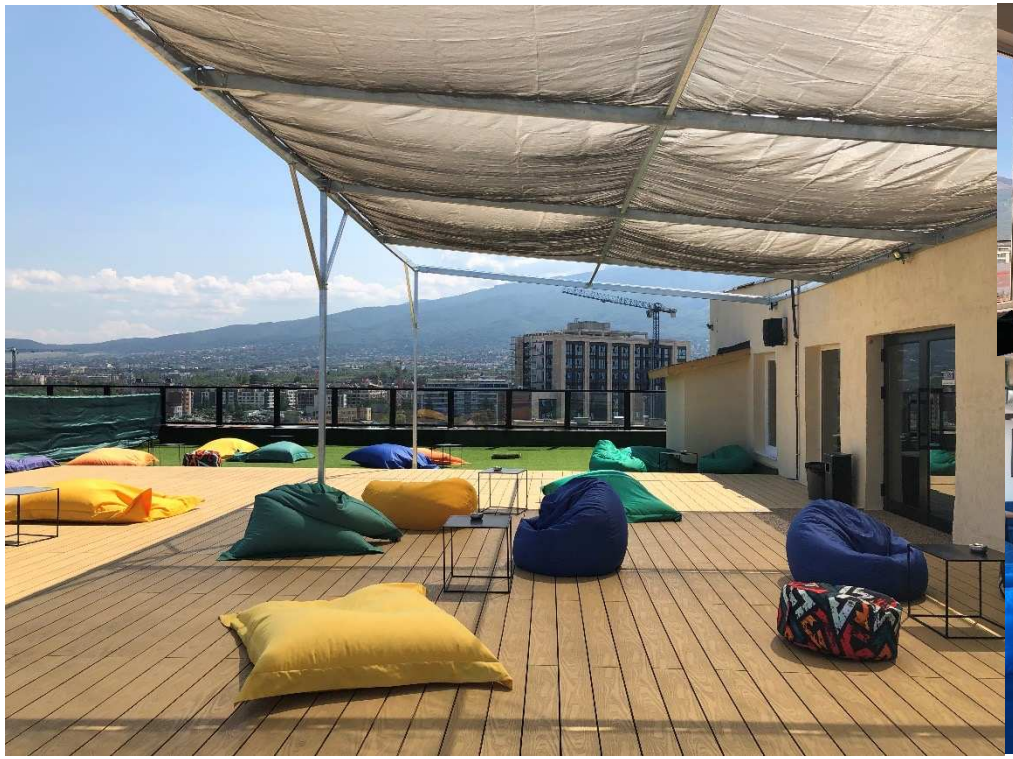
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

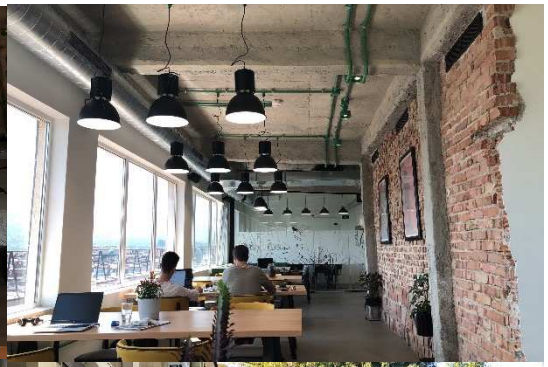
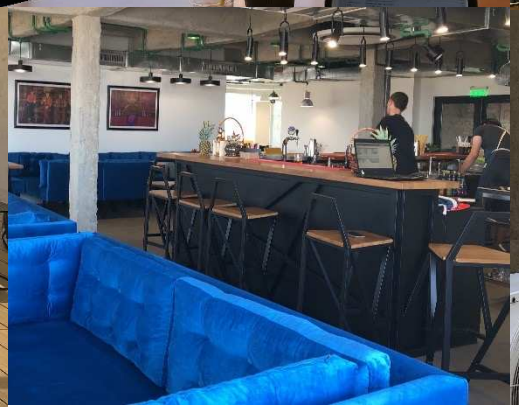
第10回 中東欧編

Puzl CowOrKing

ソフィア／ブルガリア

2019年8月7日



- ソフィア中央駅からメトロで20分ほど南下した地区に位置するコワーキングスペース。
- 別棟にシェアオフィスが併設していて、徒歩５分ほど歩く必要があり、外部からは発見が不可能。スタッフに案内してもらう必要あり。
- 商業ビルの最上階を利用していて、半分は屋外テラスになっており、ソフィアの街並みと山並みが一望することが出来る。
- １日20レフ（1200円）で滞在可能で、食事や飲み物はバーカウンターで別途注文する。前払い制。
- カフェの質が良好で本格的なコーヒーやお酒を楽しむことが出来る。
- クワイエットルームも別室に用意されているため、カフェエリアでは自由に電話をすることが出来る。ほとんどの人がカフェにいた。
- 日中が35度ほどの外気温だったため屋外で働く人は見られなかったが、夕方以降は家族連れやペット連れがテラスで飲食していた。
- 在席率は15%ほどで良い距離間で、２～３人組のワーカーがほとんどだった。
- アプローチが大変困難で見つけ出すことが難しいが、一度知ってしまえば開放的に仕事が出来るためリピーターが多い。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

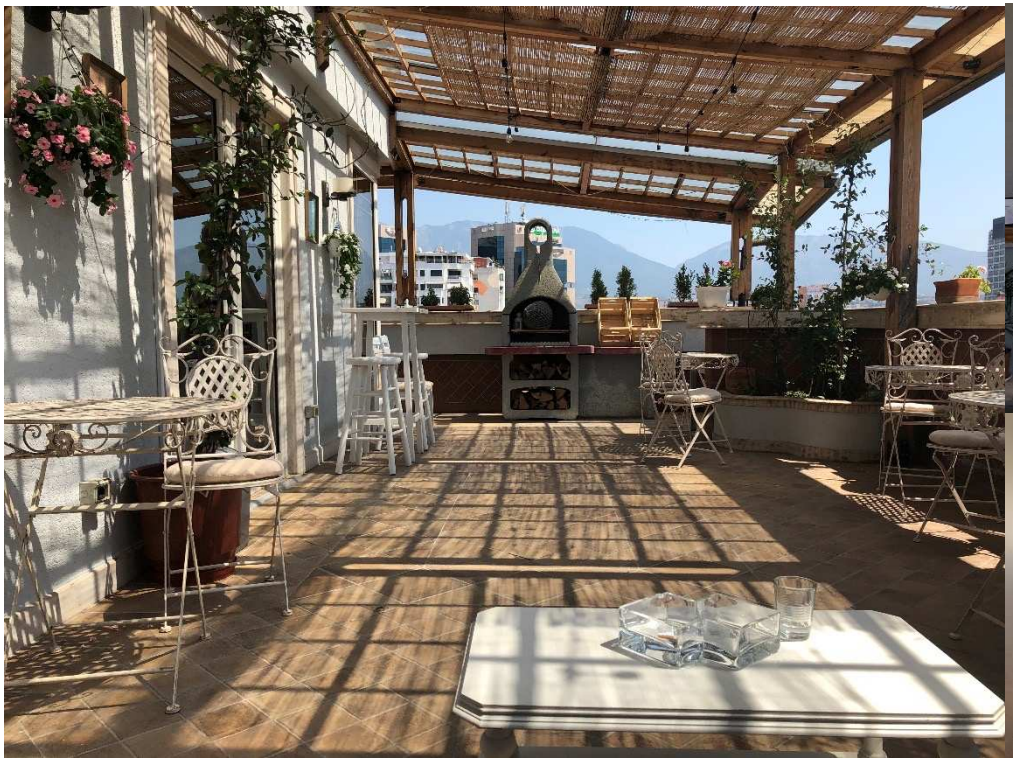
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

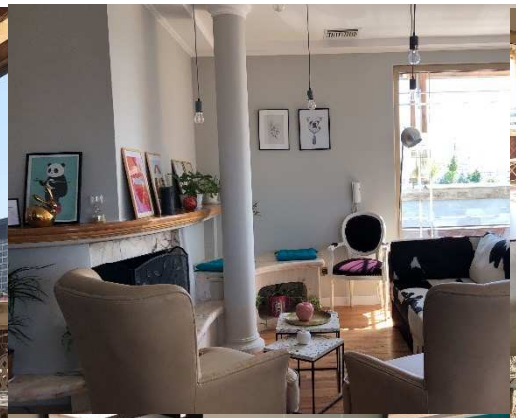
第10回 中東欧編

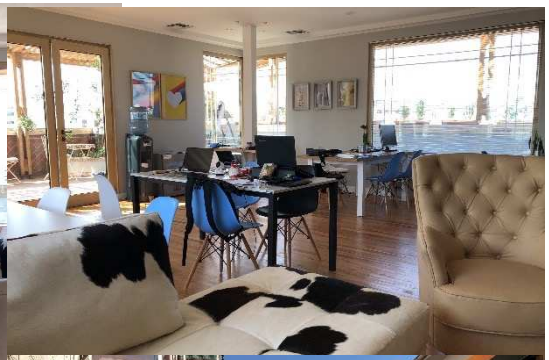
Inno Space

ティラナ／アルバニア

2019年8月12日







- アルバニアの首都・ティラナの中心部から徒歩５分ほどに位置する小さなコワーキングスペース。
- アパートメントの最上階（8階）にあり、小ぶりながらアルバニアの中では唯一スタートアップに開いた場所と言える。（その他の目ぼしい施設はつぶれていた。）
- 最上階のためティラナの街並みが一望でき、テラスで働くことも可能。
- 異常気象のため日中が最高気温40度ほどまで上がっていたため、誰も外に出てこなかった。
- ２４時間オープンしていて、ドロップイン利用が可能だが、この日はアルバニアの祝日で8〜17時までに限定されていた。
- スタッフ１名とその他２名のみ１日のうちに訪れた。犬連れの利用者もいる。オフィスというよりリビング・ダイニング。
- キッチン、シャワー、バスルーム、ロッカー、4〜5名程の会議室があり、共用デスクは20名程が利用可能。
- 常時利用している人がいて、PCや荷物を定位置において利用している模様。
- アパートメントの一角でサインも分かりにくいためアプローチが困難だが、一度見つけたらリピーターになる。
- 食事の提供はないがキッチンスペースが充実していて自炊が可能。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

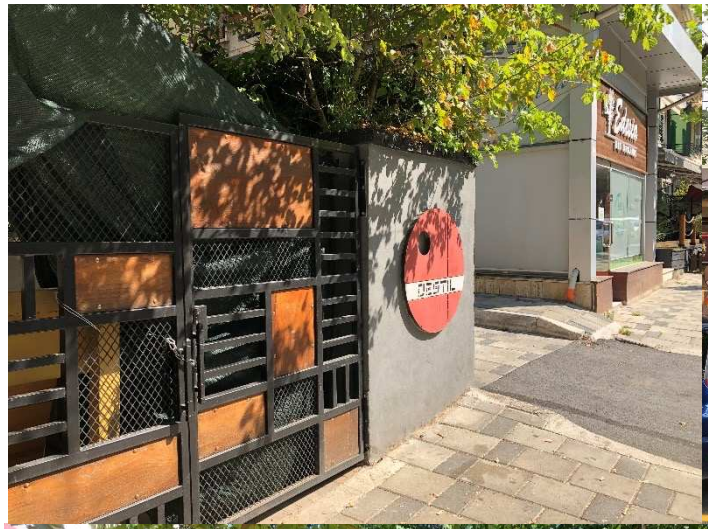
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

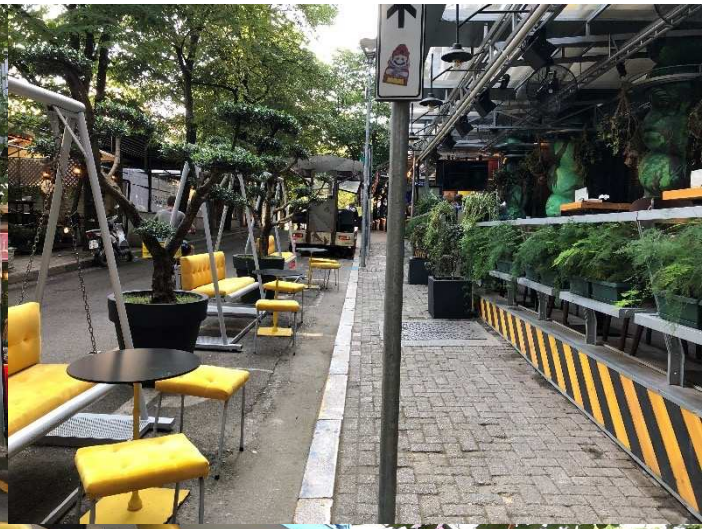
第10回 中東欧編

Inno Space

ティラナ／アルバニア

2019年8月12日





© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回 中東欧編

Impact Hub

ベオグラード／セルビア

2019年8月18日

- 世界６大陸、１００都市に20000人以上の会員がいる、世界最大規模のシェアオフィスのベオグラード拠点。
- 大きな吹抜けと大階段を中心に、２層に渡ってホットデスクが配置。どこにでも座っても良い。
- 屋外テラスも２階に併設しており、中間期は外で働く人も多い。
- コミュニティマネージャーが複数人常駐しており、場所の運営を丁寧に行っている。
- 本拠点に所属する人のスナップ写真とメッセージが階段の手すりに分野別に掲示されており、気になる会員に声掛けできる。
- アクセスのために２重のセキュリティーを通過しなければならず、１日利用者に対しては公式には開いていない。
- Impact Hubについて、世界のどの都市にもImpact Hubが必ず存在していると感じる。SDGsに取り組んでいることをHPに掲載。
- デザインが世界のどの都市でも一定のクオリティで保たれていて、どの拠点に行ってもImpact Hubに来たという安心感がある。
- 先進国のみだけではなく、アジアやアフリカにも拠点数が多いことを売りにしていて、東京（中目黒）と京都にもある。
- 会員になると世界の全拠点を利用したり、コミュニティマネージャーを介して現地の方とつないでもらうことも可能。
- 現時点でのWorking Travelとしては最も契約したいサービスと言える。（2019年8月）

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★★☆

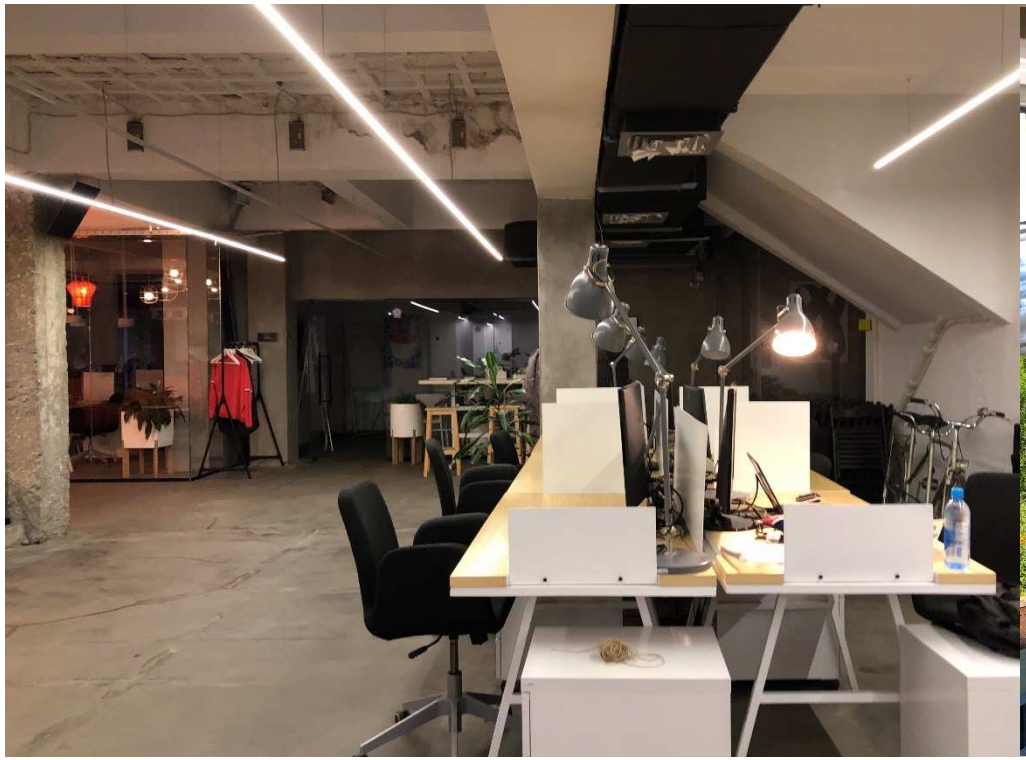
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

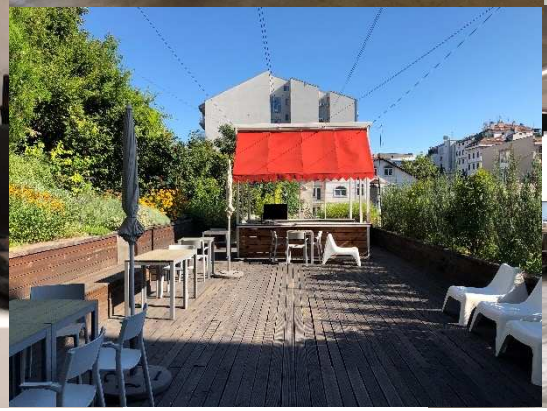
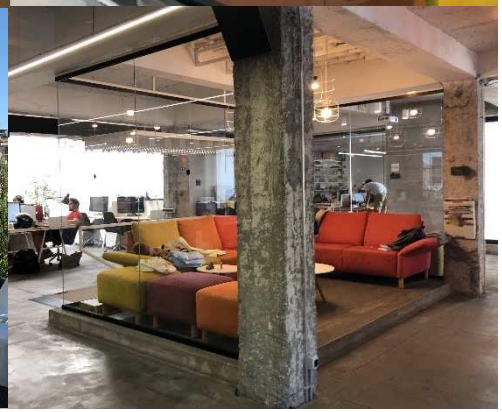
第10回 中東欧編

Nova Iskra creative hub

ベオグラード／セルビア

2019年8月19日



- セルビアの中心から南西に位置するシェアオフィス。
- イスタンブールのATOYEを初めとして50以上のコワーキングとネットワークが組まれており、IKEAグループとも提携している。
- 場の提供だけではなく、教育プログラムの開発に力を入れていて、その分野はメンタリングからバイオテクノロジーまで専門的かつ多岐にわたる。
- インテリアデザインにこだわっていることを表明していて、デジタルノマドからベンチャー、中小企業までを対象としており、バーチャルオフィスとしての利用も想定している。
- 本拠点自体は２フロア構成でプライベートオフィスのない小さい空間であるが、イベントやコミュニティ形成が醸成されている。
- モルタル仕上げの床にむき出しの天井及び柱でガラス張りが基本であるが、照明でそれぞれの場所を規定していて、居心地が良い。
- フリースペースは中央のソファ席のみで子ども連れの男性が１日中仕事をしていた。
- ほとんどがモニター付きの固定デスクで、利用時に空き席を案内し選ばせてもらえる。
- モニター、デスクライト、キャビネット、簡易パテーションがそれぞれの席についていて、ほとんど全員がモニターを利用していた。
- 例によって屋外は33℃と日差しの暑い日だったので利用者はいなかったが、中間期などはイベントなどにも使われている。

空間	★★★★☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★☆

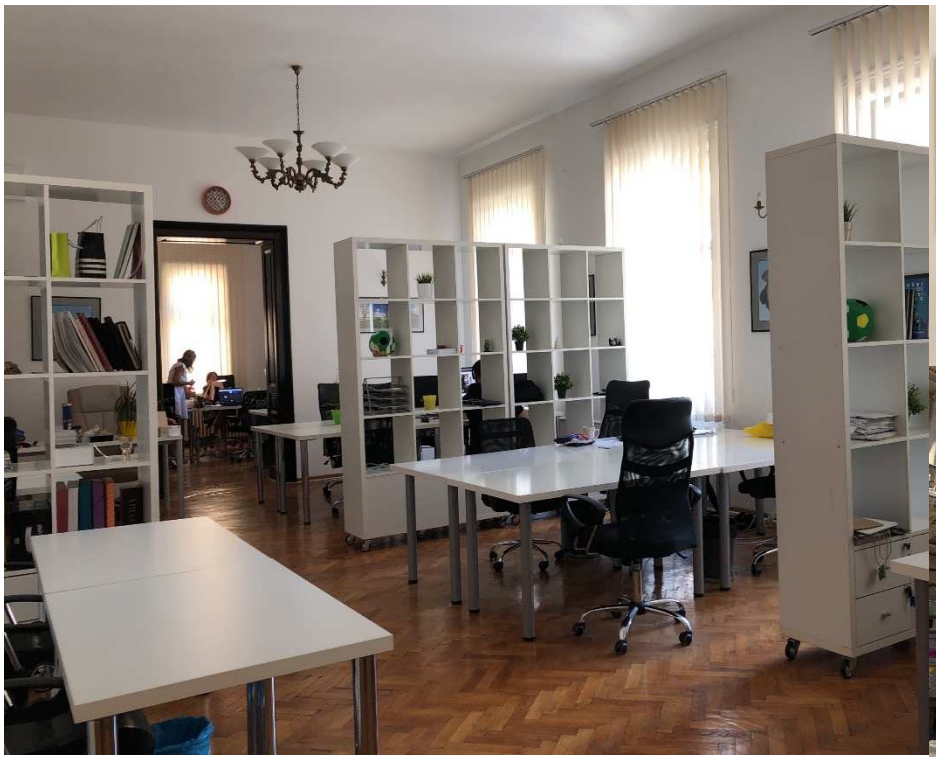
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

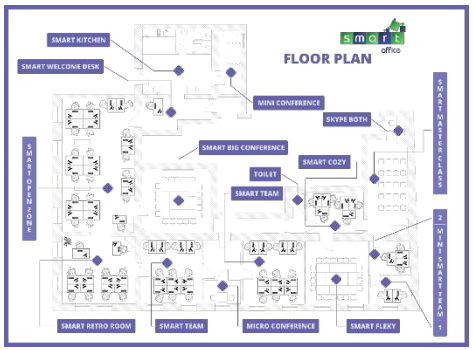
第10回 中東欧編

Smart Office

ベオグラード／セルビア

2019年8月19日





- ベオグラードの中心街にたたずむ建物の２～３階をリノベーションしたコワーキングスペース。これまでのコワーキングで最も繁華街にある。
- 2つの会議室と３０のホットデスクがあり、ほとんどの人が席を固定して利用している。
- キッチン、固定デスクの他に屋外テラスに面した半屋外のワークスペースがあるが、暑い日だったため誰も利用していなかった。
- オーナーが挨拶しに来てくれて、近くに住んでいる日本人を紹介して欲しければすぐに呼ぶと言ってくれた。
- ２時間の無料トライアル利用をさせてくれたので利用してみたが、人が通るたびに床が揺れるためにあまり集中しきれなかった。
- 場としてのクオリティはあまりよくないが、ほとんどはバーチャルオフィスとして機能していて、ここに住所を置くためのものである。
- 実際に利用している人は10名程度で会議も行われている様子はなかったが、HP上では100名程度のコミュニティが出来ている。
- バーチャルオフィスのパッケージは２種類で、①：住所の取得と郵便物及びメールの授受（45ユーロ）、②：①＋会議室または カンファレンスを月4時間利用できる。（4時間の場利用に対するニーズある。）
- HP上で無料トライアルの申し込みが出来るためにハードルが低いが、エントランスで誰かが鍵を開けるのを待っている必要あり。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★☆☆

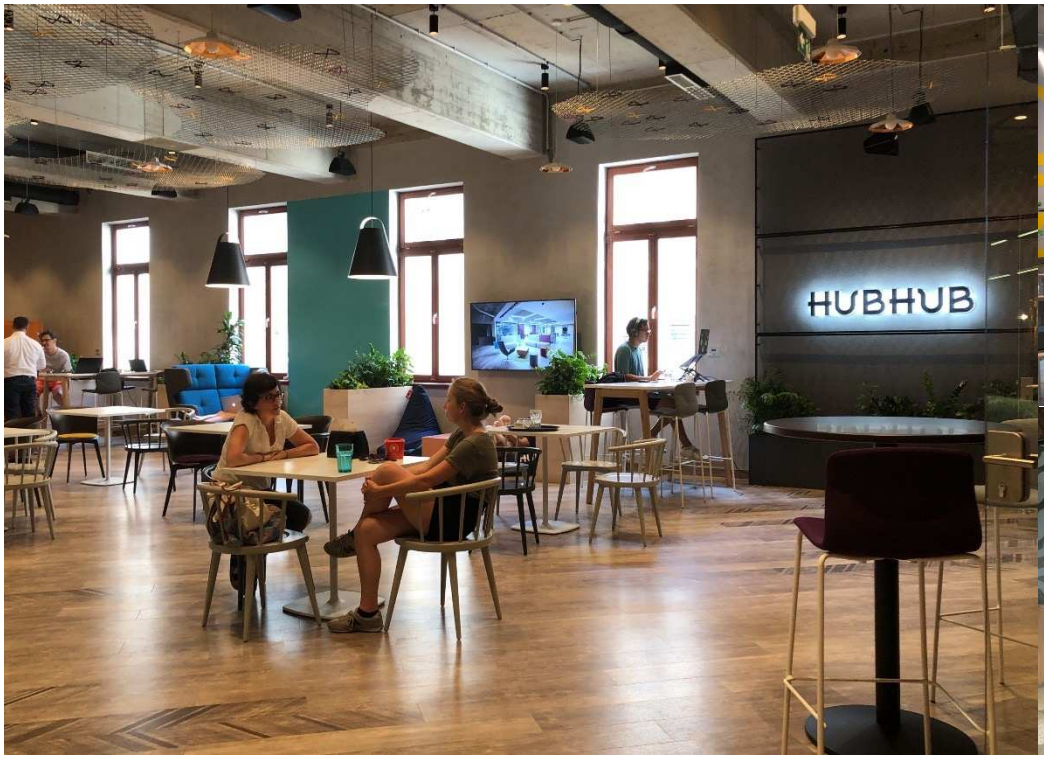
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

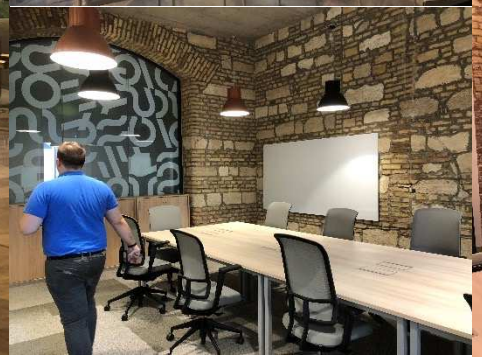
第10回 中東欧編

HUB HUB Kiraly utca

ブダペスト／ハンガリー

2019年8月22日





- ロンドン、プラスラバ、ワルシャワ、プラハとここブタペストに全７拠点展開するコワーキングスペース。現在ベルリンにも計画中。
- どこかの拠点のメンバーとなると、全拠点を利用することが出来る。建物の一部はホテル利用されている。
- ワークショップやミートアップやパネルディスカッションを定期的に行っていて、教育プログラムも充実している。
- 100名程度が収容できるカンファレンスがあり、会議室も各フロアに10室以上確保されていて、それぞれのデザインや機能が異なっていた。
- Madi rancos（マディラン・ソシャ）というデザイナーが空間デザインを監修していて、プロダクトからサインまで整っていた。
- 古い建物を上手く改修しており、建物としての見どころが多い。中央の大空間にはガラス屋根と直径10mほどのアート照明が設置。
- 長手方向にはプライベートオフィスが配置されていて電話不可。両端部分にオープンスペースがあり、キッチンや会議室が属している。
- プライベートオフィスは半分ほど埋まっていて、会議室の利用率も高く常に利用されていた。
- オープンスペースに子連れで利用できるブースがあり、19時過ぎると子供と食事をしている人もいた。
- 床仕上げやペイントを壁仕上げに張り上げるようなデザインが上手い。カンファレンスルームに段上の席を設けている。
- むき出し天井の吸音のために波上のフェルトパネルが利用されていた。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★★
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

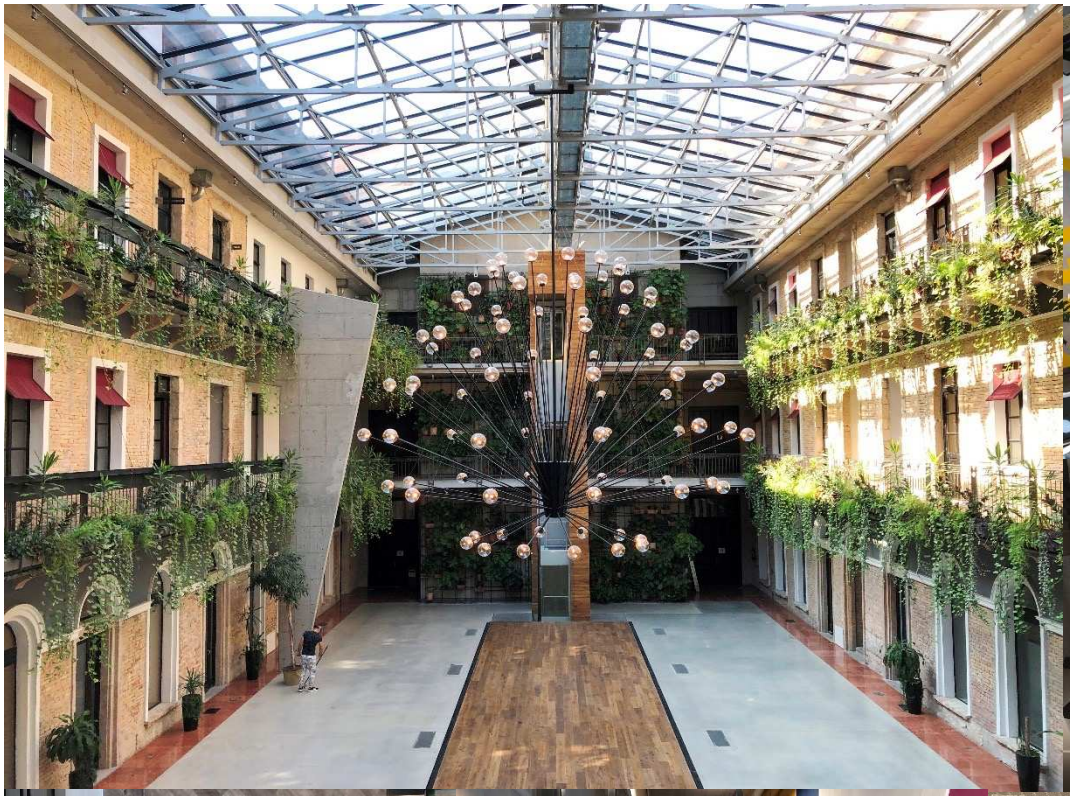
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

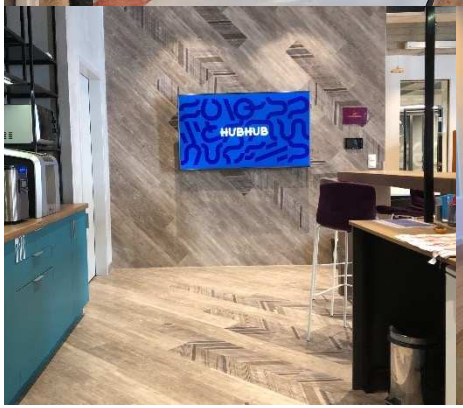
第10回 中東欧編

Inno Space

ティラナ／アルバニア

2019年8月22日





© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回 中東欧編

KAPTAR

ブダペスト／ハンガリー

2019年8月22日

- ブダペストの聖イシュバハーン大聖堂の目の前に位置する、中心街の路面店コワーキングスペース。
- ホットデスク、固定デスクのほかにイベントスペース貸しやバーチャルオフィスとしてのビジネスも行っている。
- 随時人が出入りしていて賑わいがある。１日利用も会員登録されて領収証やお知らせがWEB上で送られてくるのは東欧の中でもここだけだった。
- KAPTARとはハンガリー語で「蜂の巣」を意味している。プロダクトやサインが黄色の歪な六角形で統一されていて、意匠としても成立している。
- ガラス張りの会議室が３室あり、１室はソファ席４人掛け、その他は6人掛けが２室あるが中央の間仕切りが可動で常時つなげて使用。
- ハイカウンター、ローデスク、オープンデスク、ソファ席が高めの密度で配置されているが道路への大きい開口と段差で上手く構成されているために集中してかつ開放的に利用することが出来た。
- メンターの写真が黒バックに統一されたプロ撮影のポートレートで、各紹介パネルにQRコードが付随しているので簡単に情報が取れる。
- 会議室の箱の上部に仮眠できるスペースがあり、夕方以降は人気だという。（初めてその空間の存在を知った若者が目を輝かせていた）
- 他のコワーキングやシェアオフィスと比較してキッチンスペースがあまり充実していないが、場所柄全く問題なさそう。
- ヨーロッパはバーチャルオフィスとしての需要が高まっているようにこれまで10拠点を見て来て見受けられた。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★☆☆

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回 中東欧編

LOFFICE

ブダペスト／ハンガリー

2019年8月22日

- ブダペストのビジネス街に位置するシェアオフィス・コワーキングスペース。
- 部屋貸し、固定デスク、ホットデスク、イベントスペースがあるが、イベントスペースは確認が出来なかった。
- 受付カウンターが存在せず、フリースペースもすべてが大きい机に椅子をばらまいた固定席になっていて、いつも座る席が決まっている様子だった。
- ガラスブロック越しの屋外テラスにアクセスしやすく、明るい環境で仕事が出来る。
- コラボレーションをしている様子は見られず、皆が黙々と仕事をしている様子で、コミュニティマネージャーもほったらかし。
- ブダペスト市内に4拠点程点在している様子だが、正確な情報が取れなかったので未確認。
- ウィーンにも拠点展開しているので、再確認する。

空間	★★☆☆☆
スタッフ	★★★☆☆
Wi-Fi	★★★★☆
環境設備	★★★☆☆

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回 中東欧編

Berghaus Seeblick

シュピーツ／スイス

2019年8月26日

- スイスのトゥーン湖を見下ろすAirbnbによる民泊ホテル。
- 全30室ほどある規模のホテルだが、レセプションレスでチェックインが出来る。すべての部屋のキーボックスがあり、事前に送られてくる番号にてセルフチェックイン可能。
- キッチンやダイニングや屋外テラスが充実していてどこでもネットワークが快適につながるので、しばらく滞在してワーケーション利用も考えられる。
- スタッフは老夫婦が9〜15時の間のみ清掃等のために滞在しているが、それ以外は完全に客にゆだねられており、緊急時以外は連絡不要。
- 欧米人も見られるが中国人が多い。日中の間のみ観光のために訪れる団体もいたが、利用スペースは分離していた。
- レセプションコストを抑えるための工夫が随所にされていて、今後このような無人で管理する宿泊施設が増えていくと感じた。
- 例えばキッチンやコーヒーメーカーの使い方など、宿泊客が迷いそうなポイントはYoutubeにUPして事前にアドレスを配信。
- ホテルのエントランスと各部屋の鍵のキーナンバーやWi-Fi情報の位置なども事前に細かくメールで情報配信されている。
- キッチンも冷蔵庫のスペースが部屋番号ごとに区切られていて、管理がしやすく清潔に保たれている。
- 道中迷いそうなポイントでも「Airbnb」というサインが出ていたため、ホテルの名前を憶えていなくても到着することが出来た。

空間	★★★★★
スタッフ	？？？？？
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

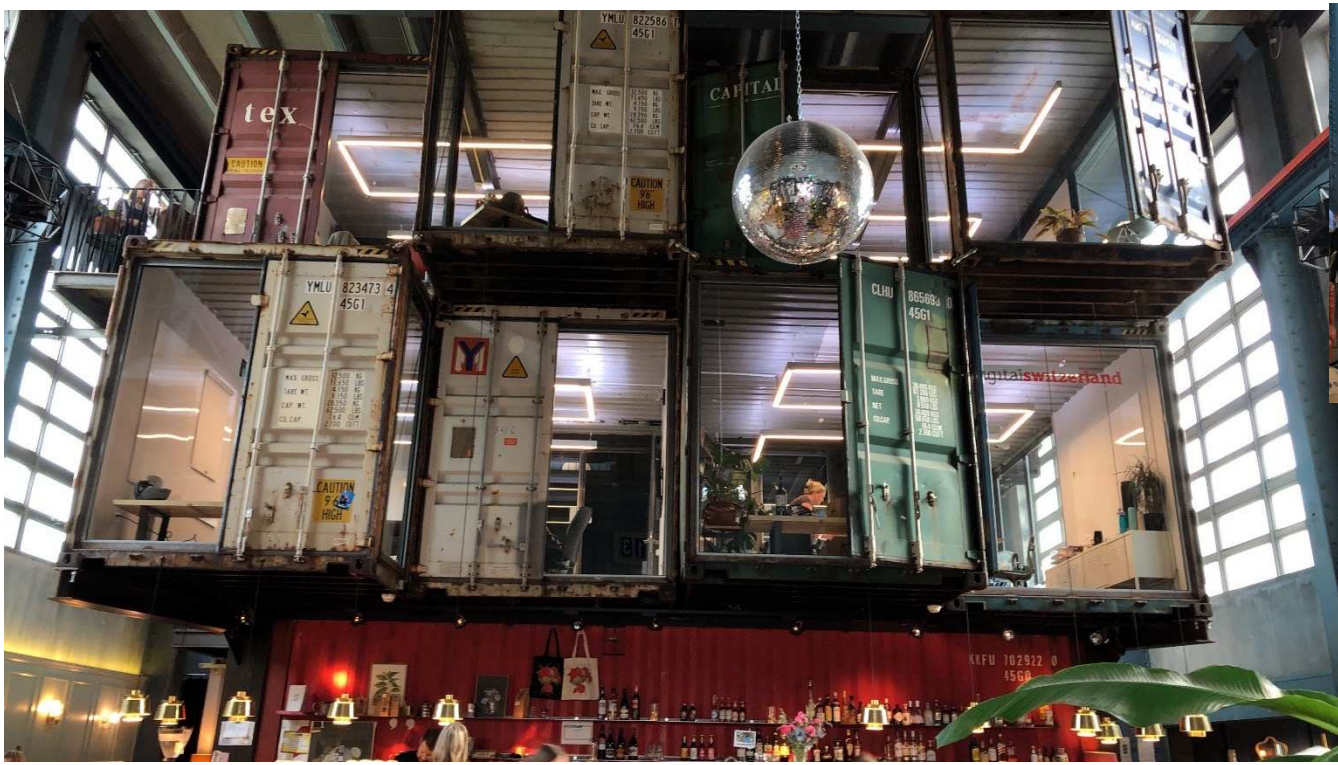
© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回 中東欧編

KraftWork

チューリッヒ／スイス

2019年8月29日



- チューリッヒ駅から南へ徒歩10分ほど歩いた川沿いに建つ、旧発電所をリノベーションしたコワーキングスペース。
- 175人収容の大きいイベントホール、会議室10室程度、フォンブースがあるが、エントランスはカフェ・バーとして機能しており、ホットデスクと共用になっている。
- 会議室は小さい部屋でも１時間7000円〜、大きい部屋だと１時間2万円程度、イベントホールになると１日50万円で貸し出しをしているがかなり埋まっていた。
- 平日の午前中に訪れたが、大きなイベントを行っていてその入れ替わりもありほとんどの席が座られている。
- 旧発電所の大空間を利用し、コンテナを３段に積み上げ、受付空間としての顔づくりと会議室としての機能を併用している。
- カフェやお酒の種類は豊富で上質だが、それのみを目的としている人はおらず、みなわき目も振らず集中して働いていたのが印象的。
- コミュニティマネージャーとしてのスタッフは見当たらず、カフェ定員が掃除をしていた。
- Impact Hub やENGAGEMENT、digital switslandといったビジネスと提携をしている。
- イベントホールとしての設備が充実しているため、ライブ会場としても利用されており、常にパーティが開催されている。
- コワーキング・シェアオフィス事業として見習うべきところはあまりないが、リノベカフェイベントスペースとしては最高の場である。

空間	★★★★★
スタッフ	★★★★☆
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回 中東欧編

KraftWork

チューリッヒ／スイス

2019年8月29日

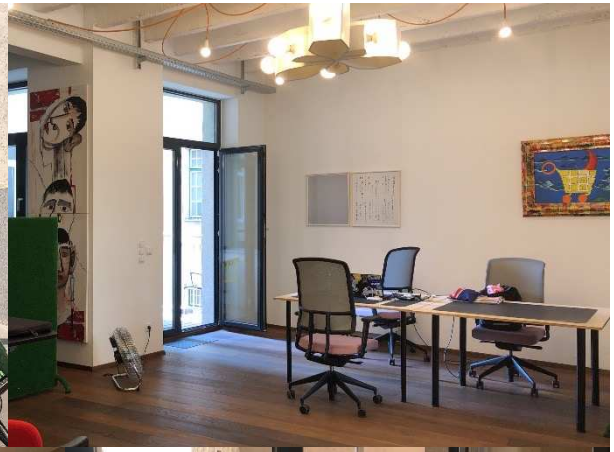
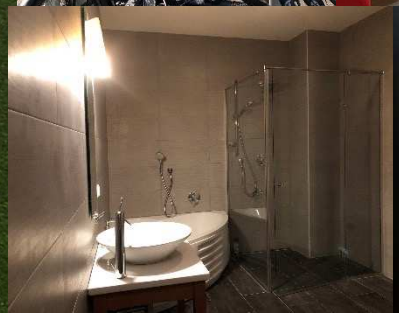
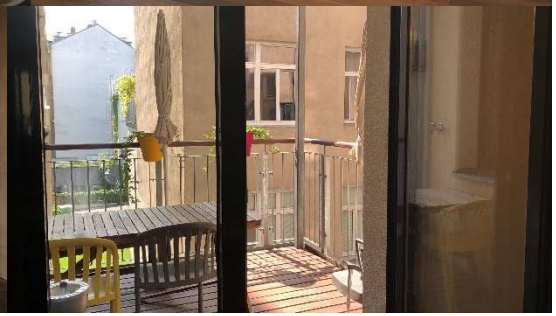
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

第10回 中東欧編

LOFFICE

ウィーン／オーストリア

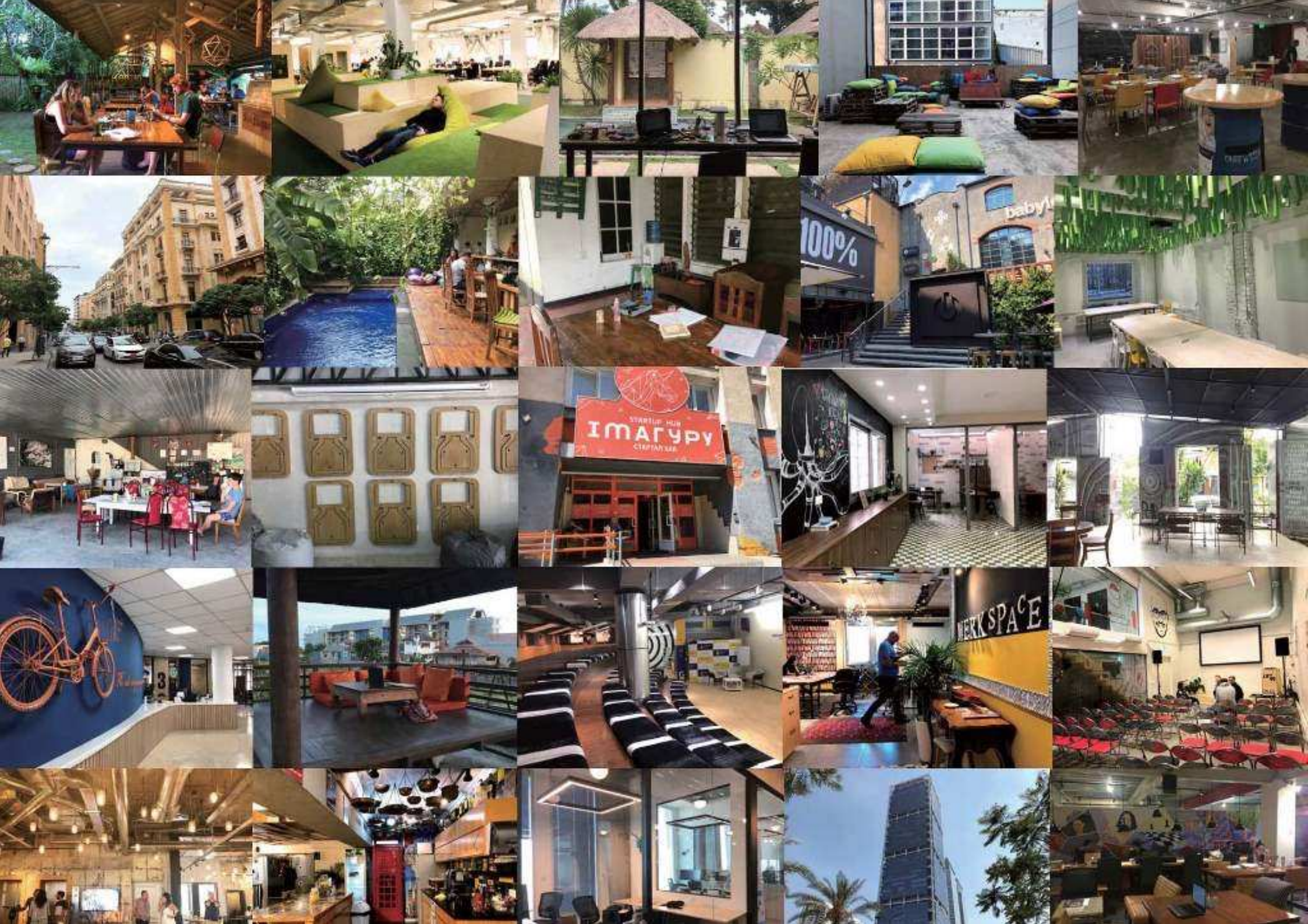
2019年8月30日

- ウィーンの中央部から東側の地区に位置するシェアオフィス。ブダペストの系列店にも訪問した。
- １階に大きいイベントスペースを保有し、２階に２室のシェアオフィスと10席程度のホットデスク、キッチン及びリッチなバスルーム、テラスがある。
- 使用しているのは4名程度でスタッフも在籍しておらず、昼食時には１人ぼっちになった。
- 利用者が丁寧に施設を案内してくれて、固定デスクで快適に仕事をすることが出来た。テラスも隣接しリラックスと集中が適度に行えたため、設備としては十分であった。
- コラボレーションをしている様子は伺えず、固定のメンバーが利用しているオフィスを間借りして頂いた感覚。
- 多くの人が出入りをして活発に仕事をしている雰囲気とは真逆であるが、家にいるような感覚の場所もありだと思えた。
- ウィーン自体が華やかで眠らない街の印象がある。民度が高く観光客にも慣れていて干渉しない雰囲気。
- 家具はヴィトラの昇降デスクや椅子、パーテーションがほど良く配置されており、アートも適度にあるため空間の雰囲気は良い。
- LOFFICE自体のビジネスが上手くいっているかはブダペストと合わせて不明。淘汰されていく可能性がある。

空間	★★★☆☆
スタッフ	★★★☆☆
Wi-Fi	★★★★★
環境設備	★★★★★

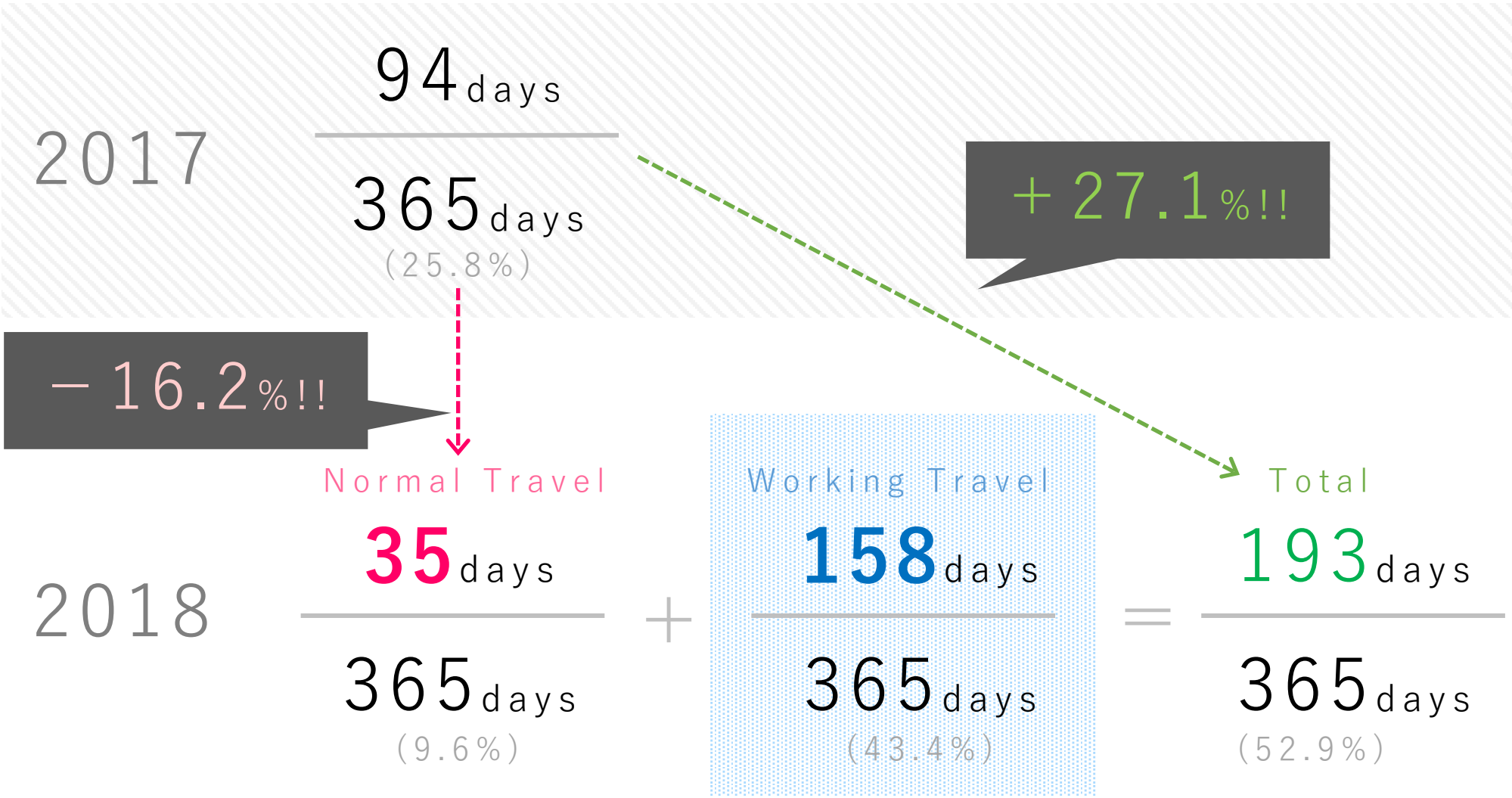
© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX


100%
IMAGYPY
WERK SPACE

Working Travel

「旅をしながら働く」実証実験

Travel 年間比率

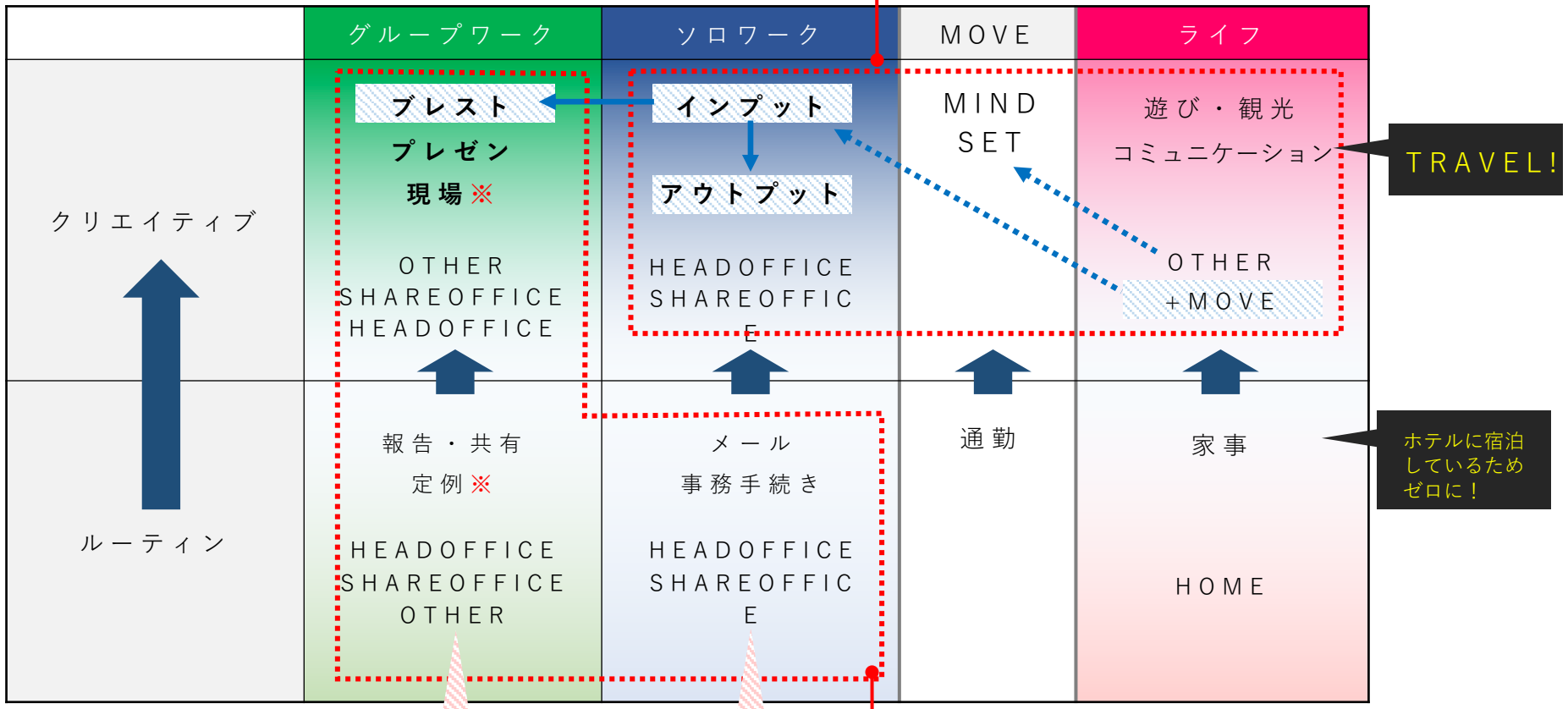


© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Working Travel とは

「旅をしながら働く」実証実験

仮説



プラグイン状態の待ち時間を常に意識して、最短の時間で行うために超効率化!!
SHAREOFFICE・コワワーキングへのアクセビリティが求められる。

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Working Travel とは

「旅をしながら働く」実証実験

仮説

従来型のTRAVEL

Sightseening, Diving…

TRAVEL＝休暇（一応INPUT）

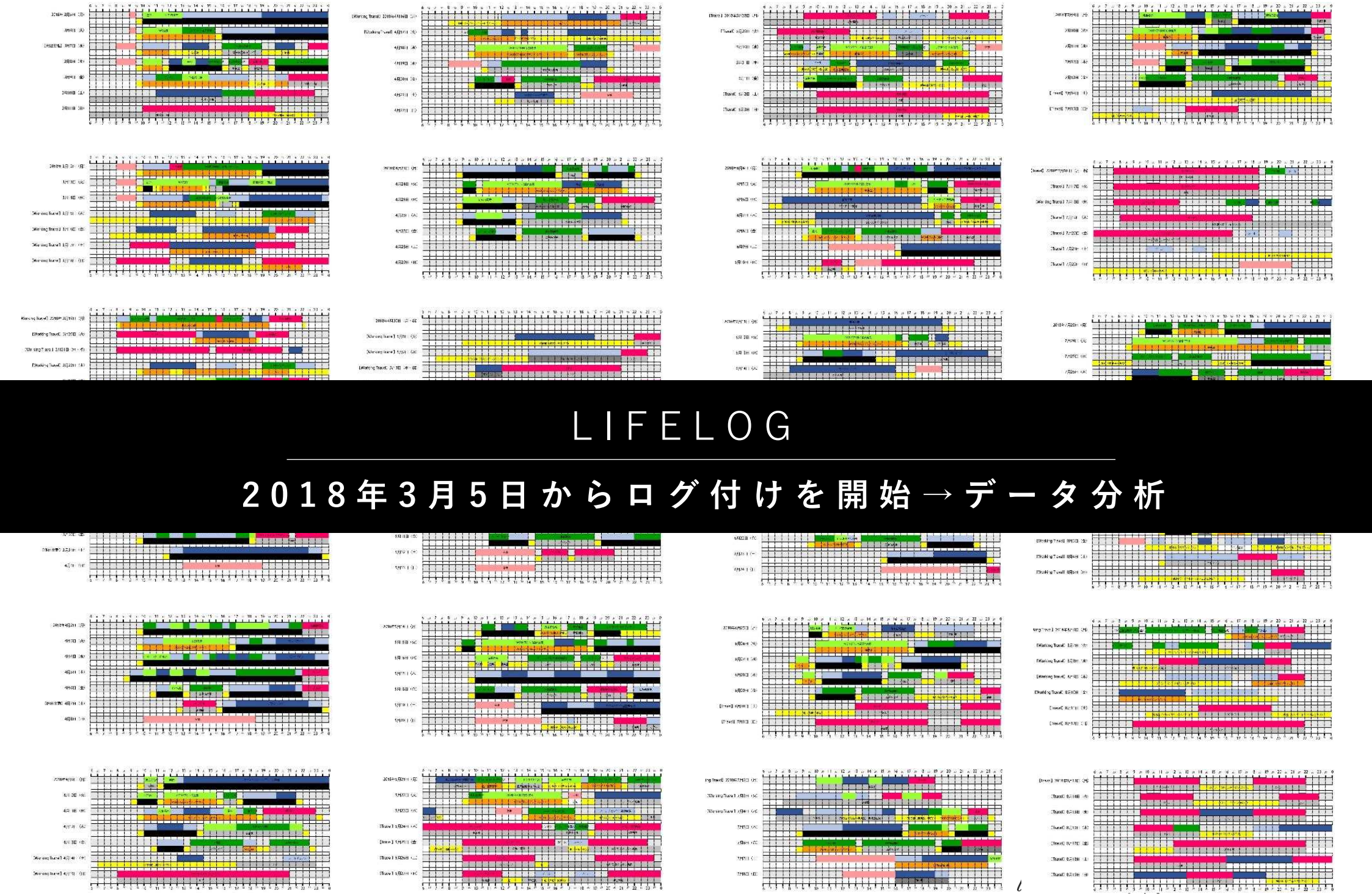
マインドセットされて
INPUTを忘れる…

WORKING TRAVEL

休暇

WORKING TRAVEL !!

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX



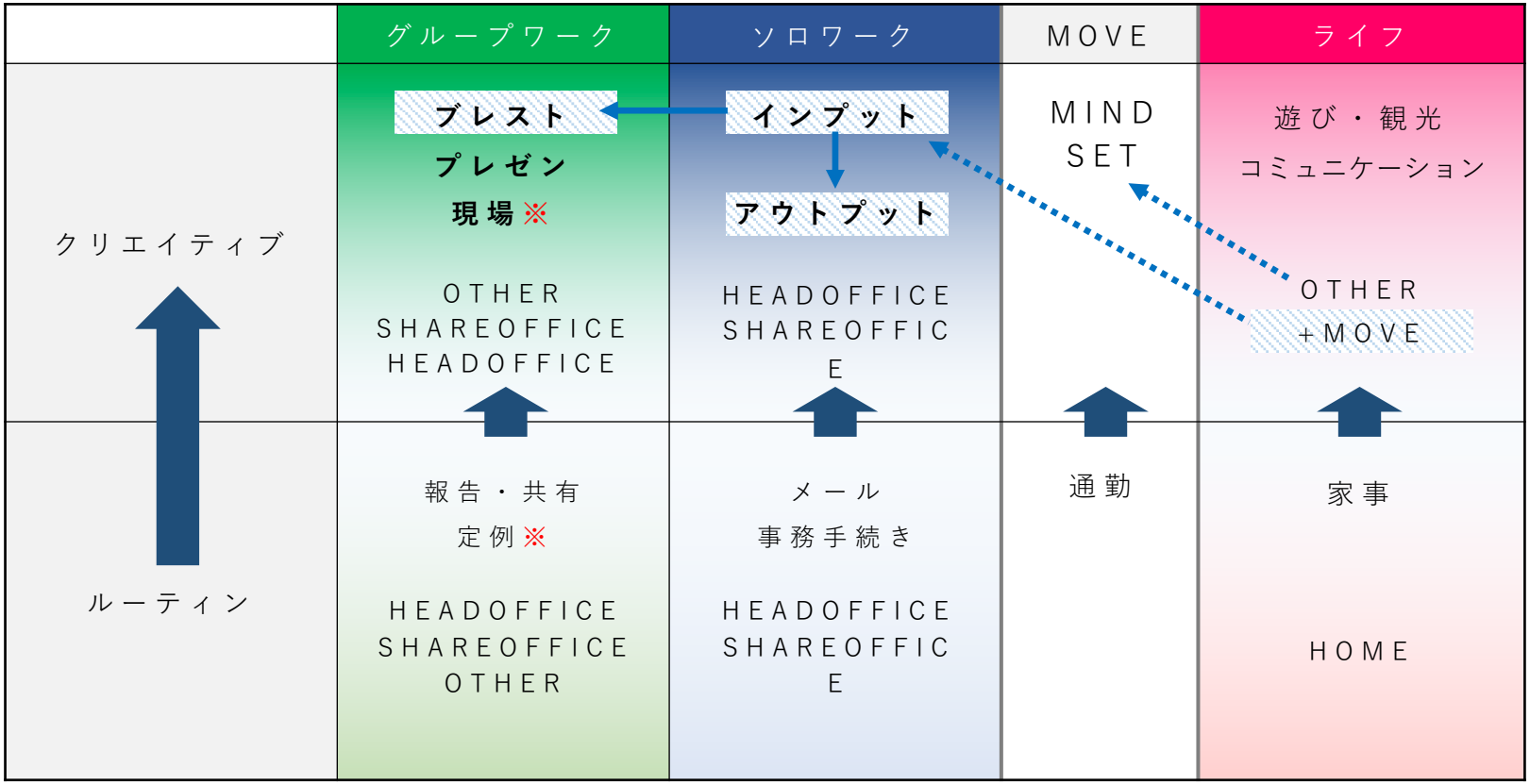
LIFELOG

2018年3月5日からログ付けを開始→データ分析

Working Travel とは

「旅をしながら働く」実証実験

仮説

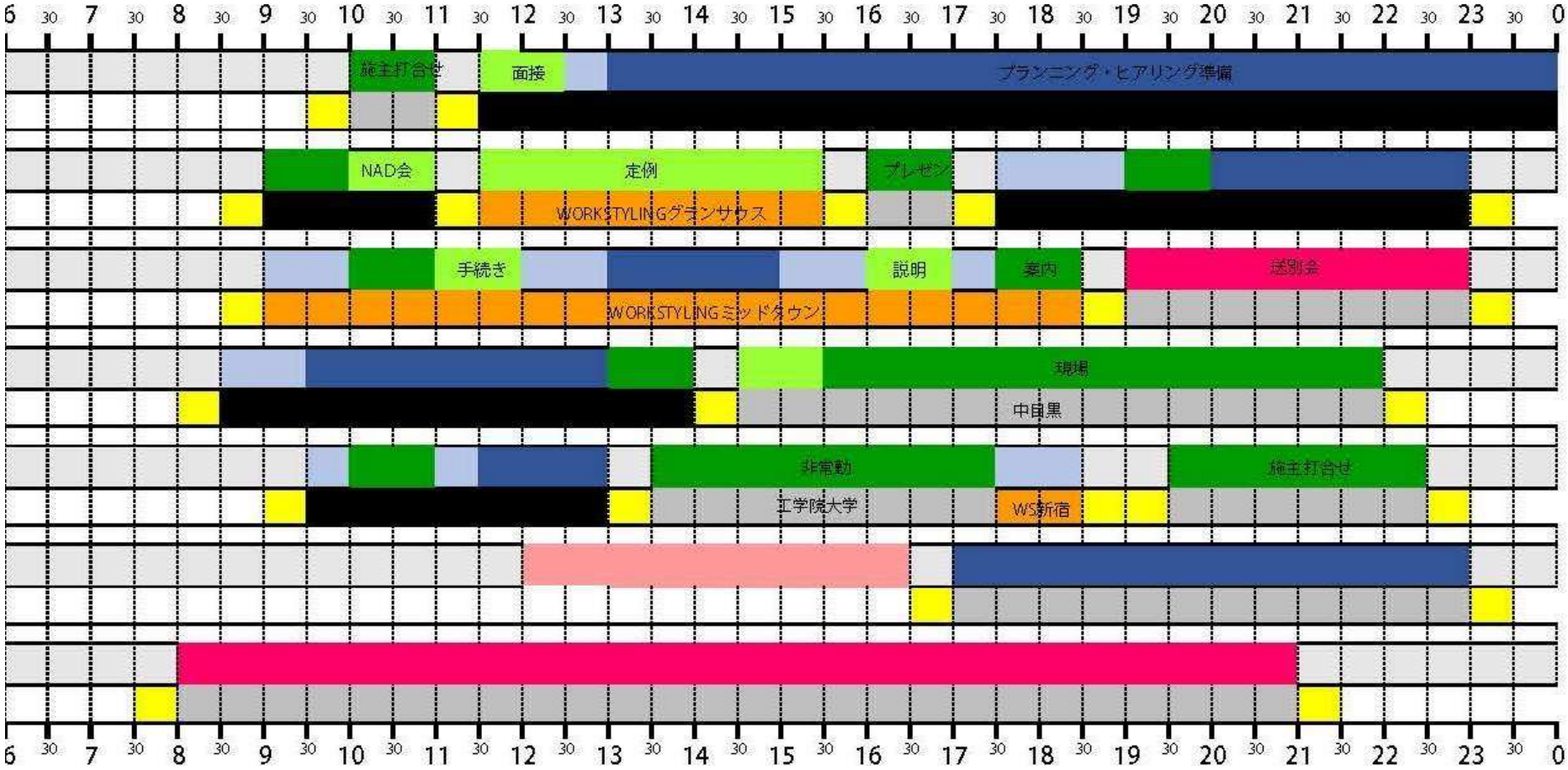


■ Head Office ■ Co-working space ■ Others(現場・Client's Office. etc.) ■ Move □ Home/Hotel

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

通常時

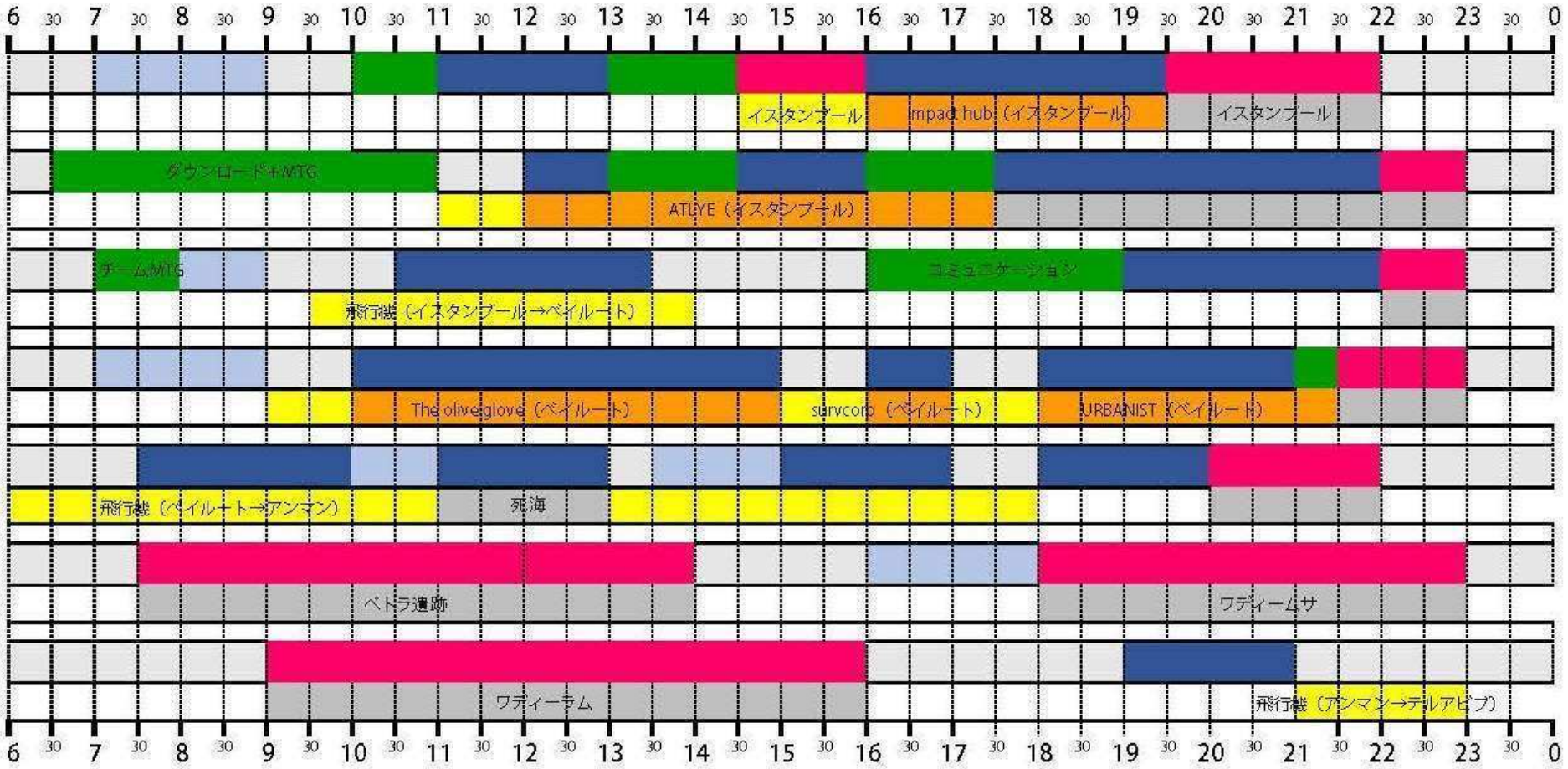


日本にいる間のスタンダードなLIFELOG

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

Working Travel時

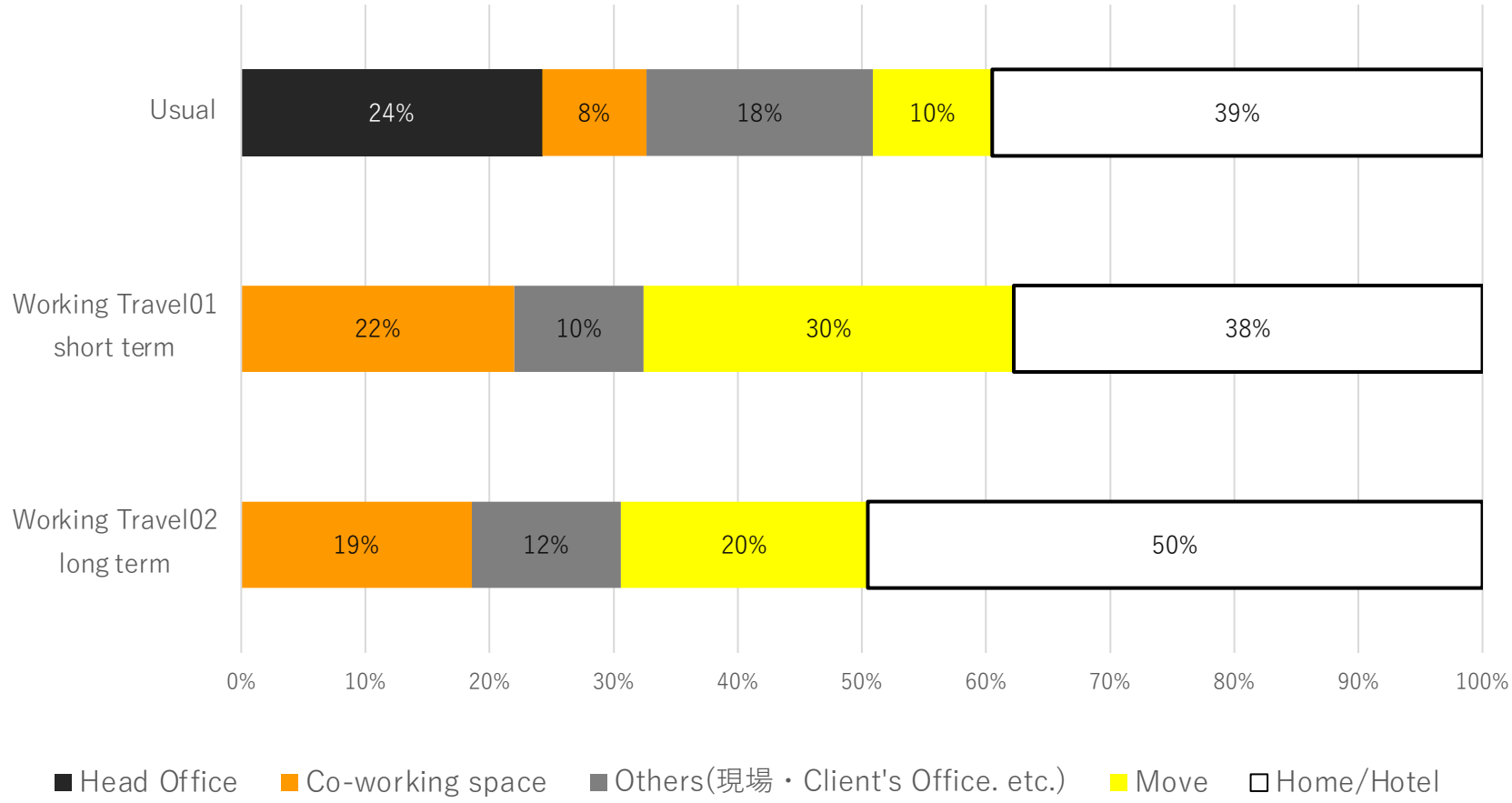


8月27日（月）～9月2日（日）のLIFELOG

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

場所の比較分析

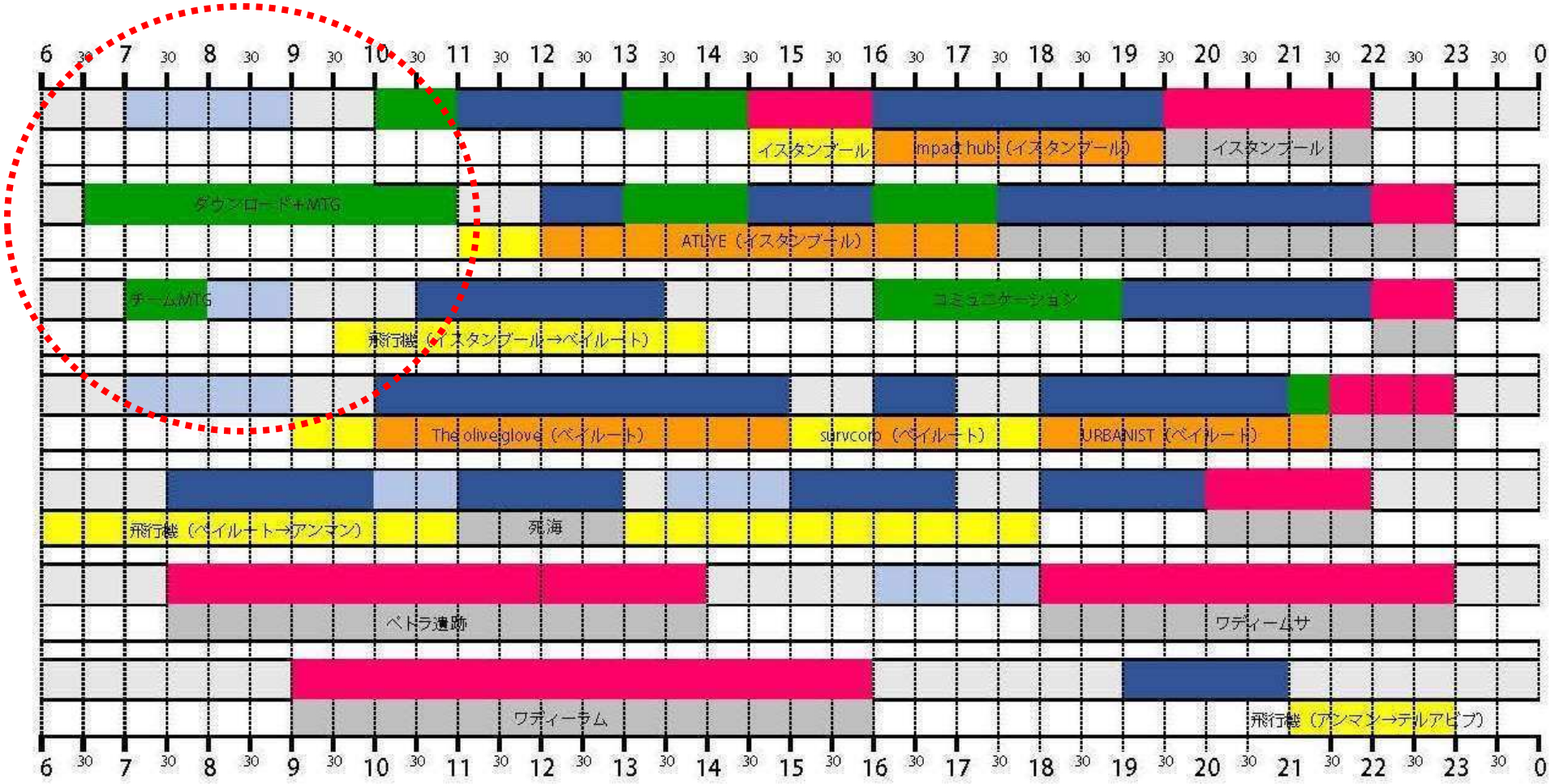


☑ 一見ワーク量が減っているように見えるが...

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

Working Travel時



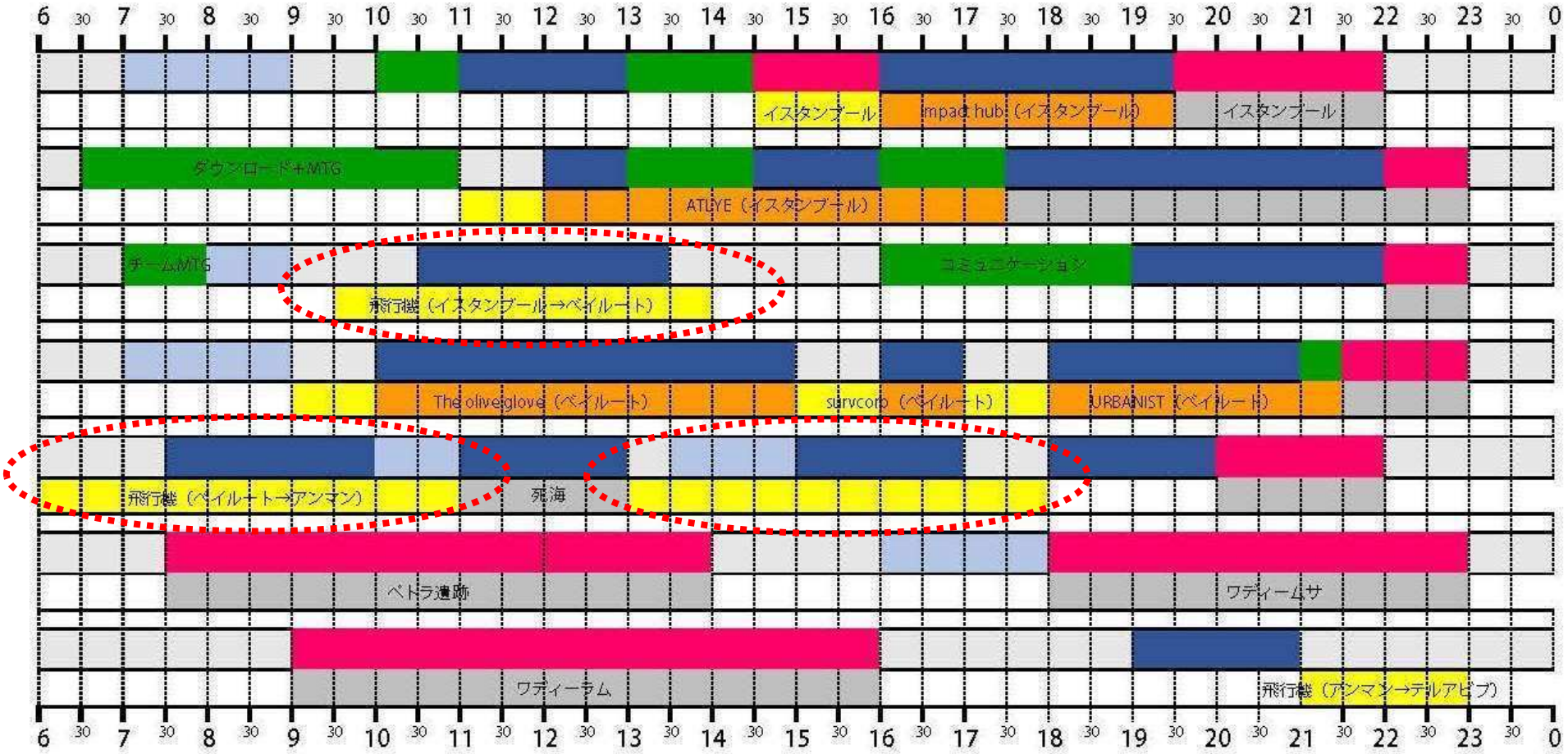
8月27日（月）～9月2日（日）のLIFELOG

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

Working Travel時



8月27日（月）～9月2日（日）のLIFELOG

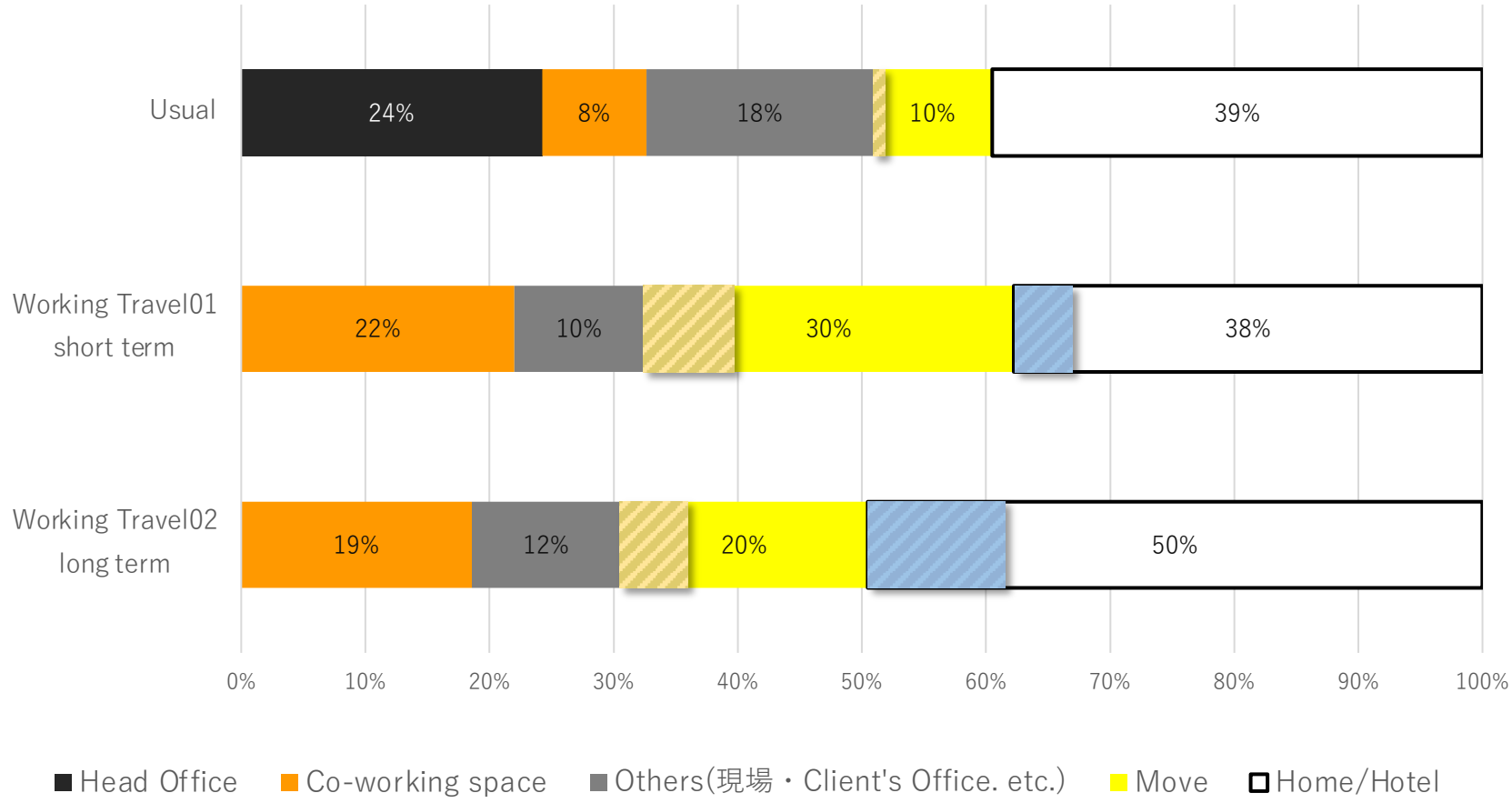
© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

 ALL RIGHTS RESERVED 20XX

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

移動中やホテルでの仕事時間

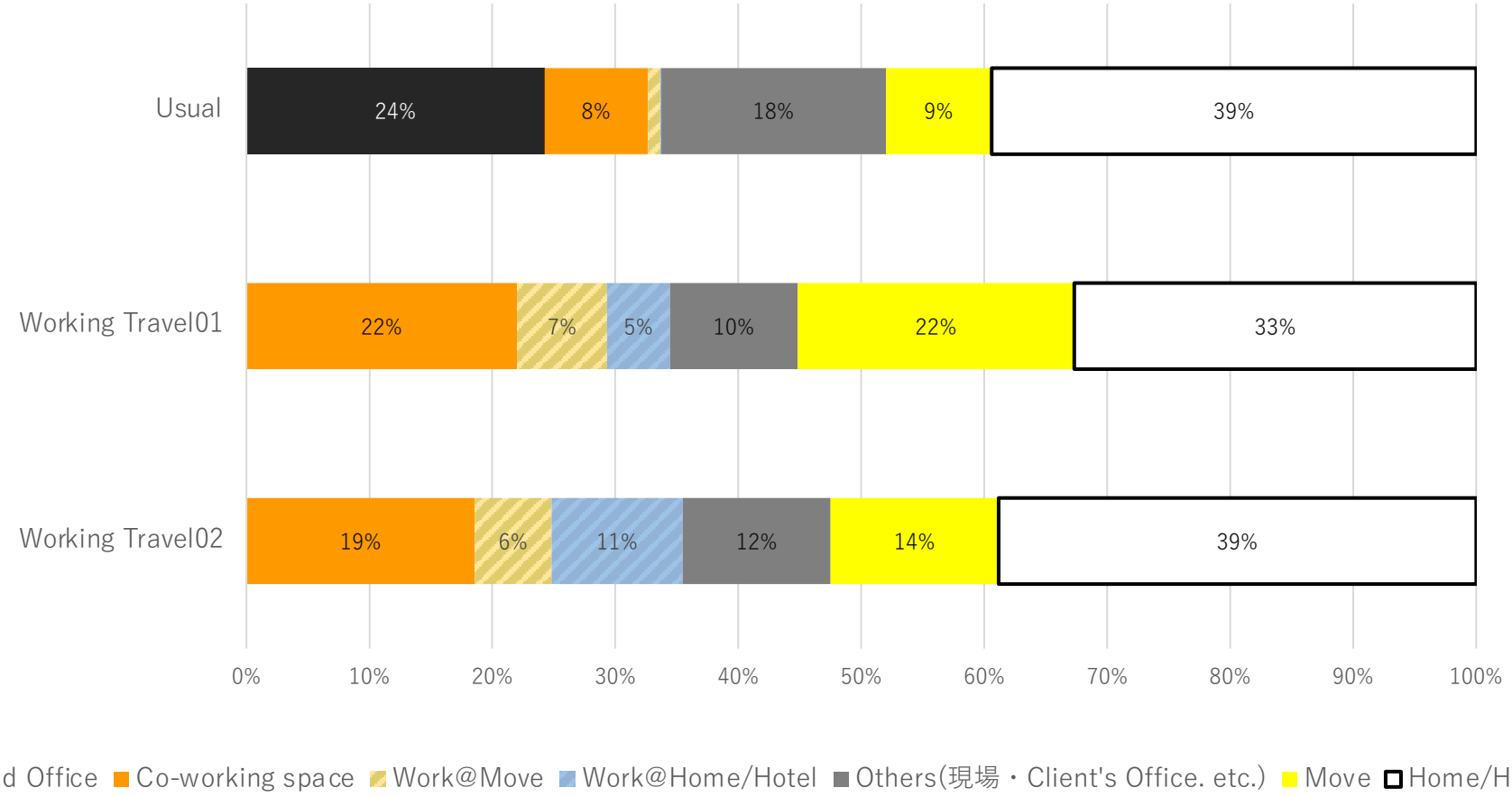


☑ 通常時の移動中や自宅ではほとんど仕事していなかったが、ワーキングトラベル時には発生している。

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

実際の仕事時間

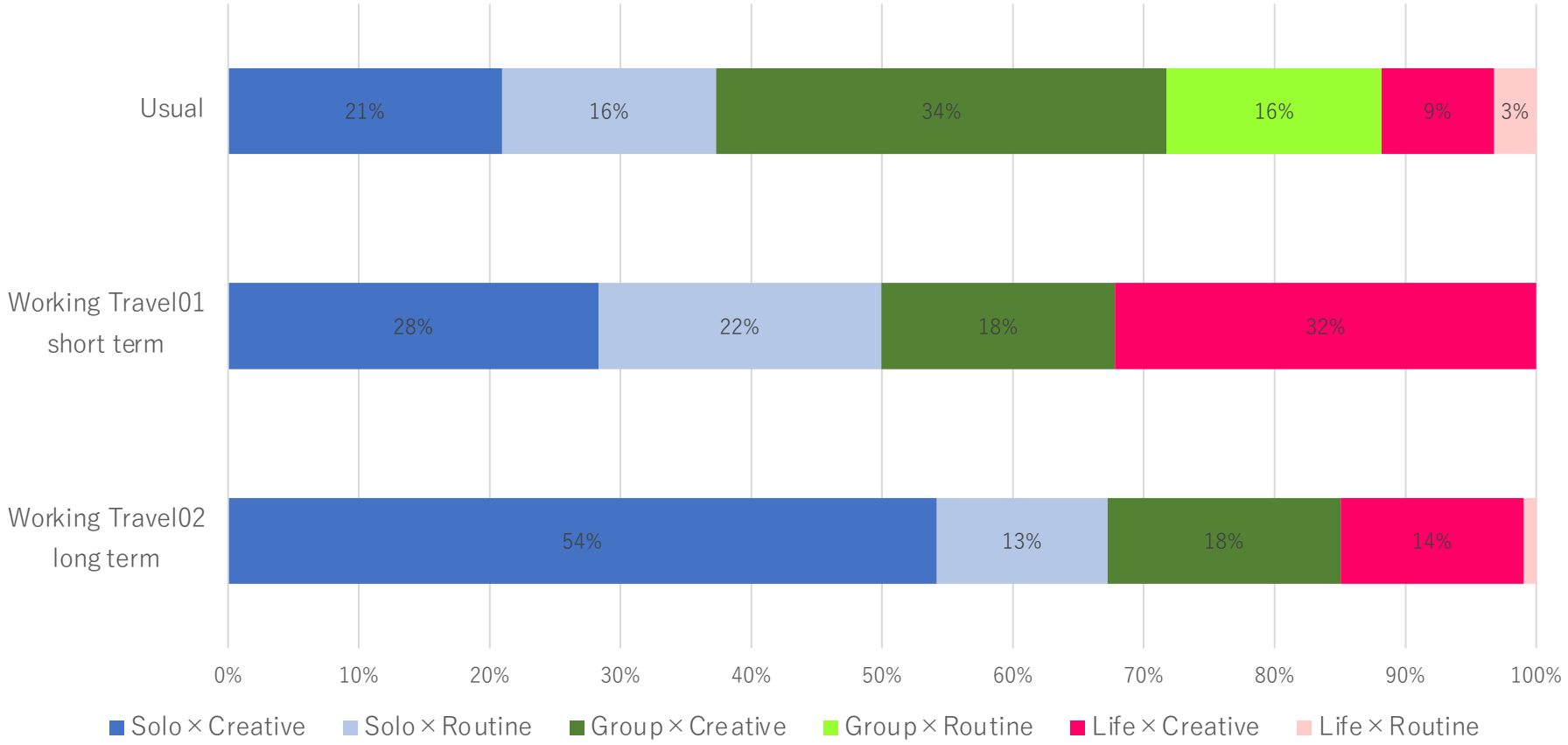


☑ むしろ仕事している時間が微増。

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

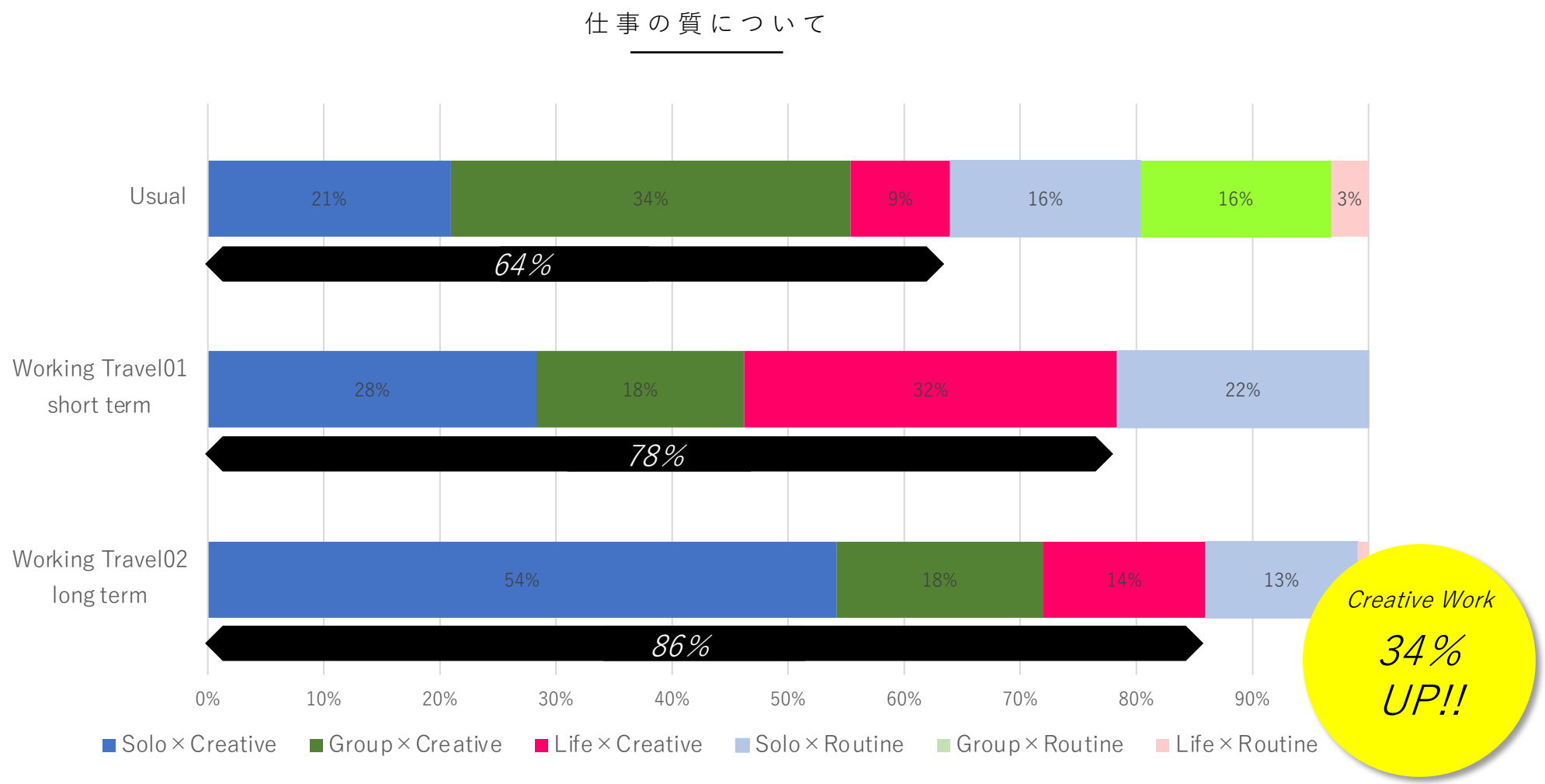
仕事の質について



☑ ソロワーク量が増加。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

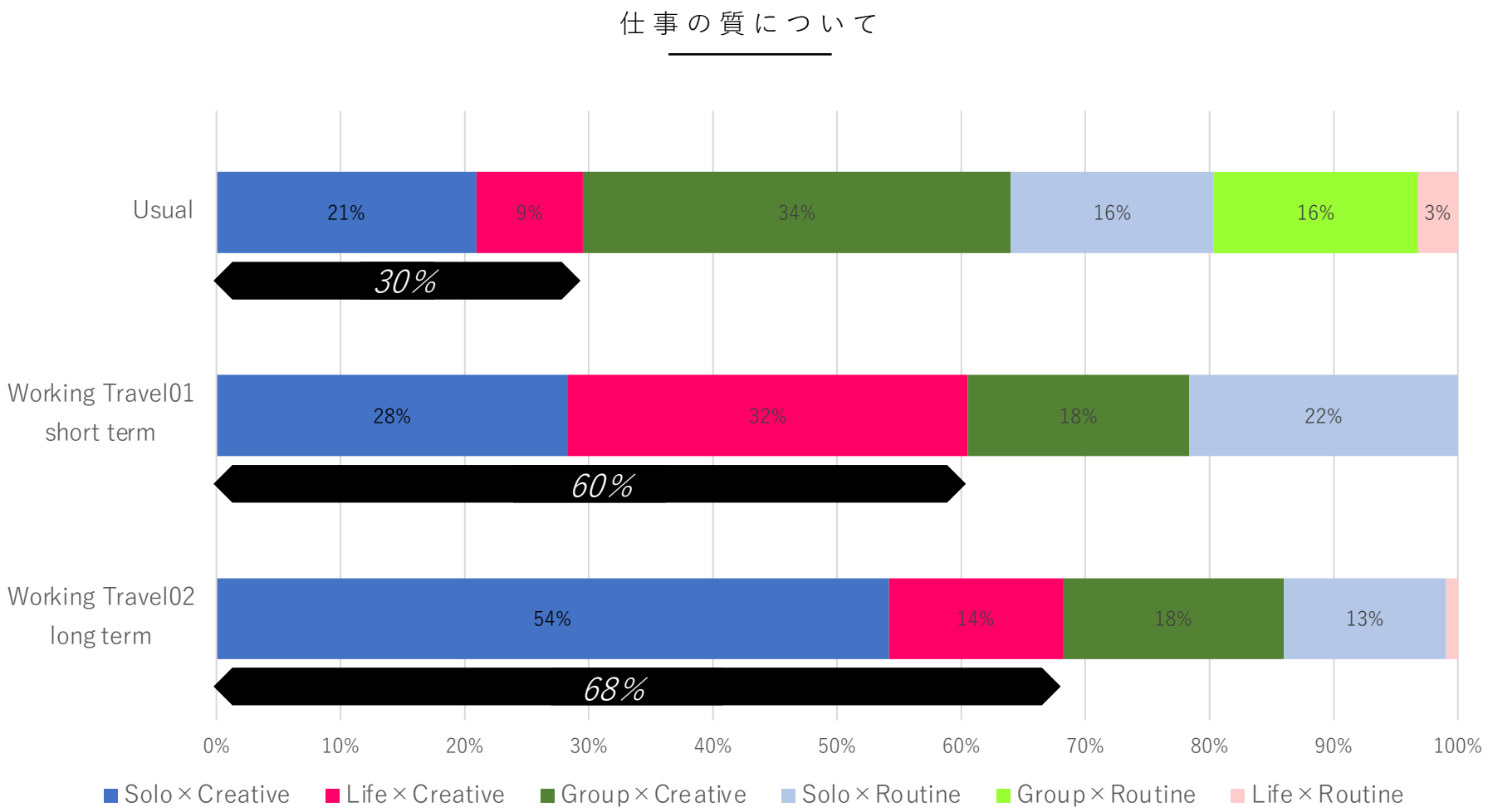
LIFELOG分析



☑ グループルーティンワークが減少すると同時に、
クリエイティブワークが増加している。

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

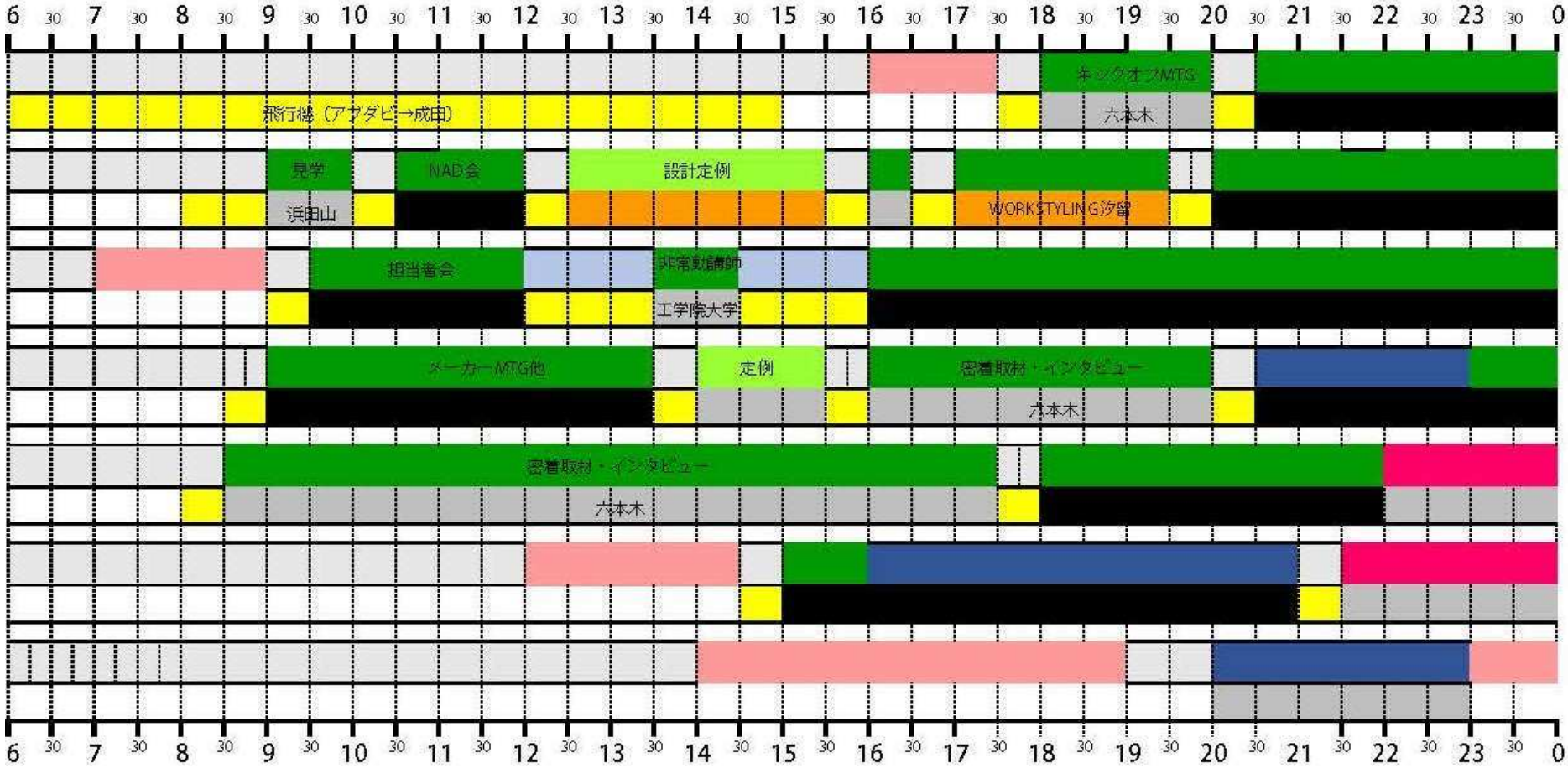


☑ コンペの有無や設計段階、プロジェクト量や質により
インプットとアウトプットのバランスが変化

© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

帰国週

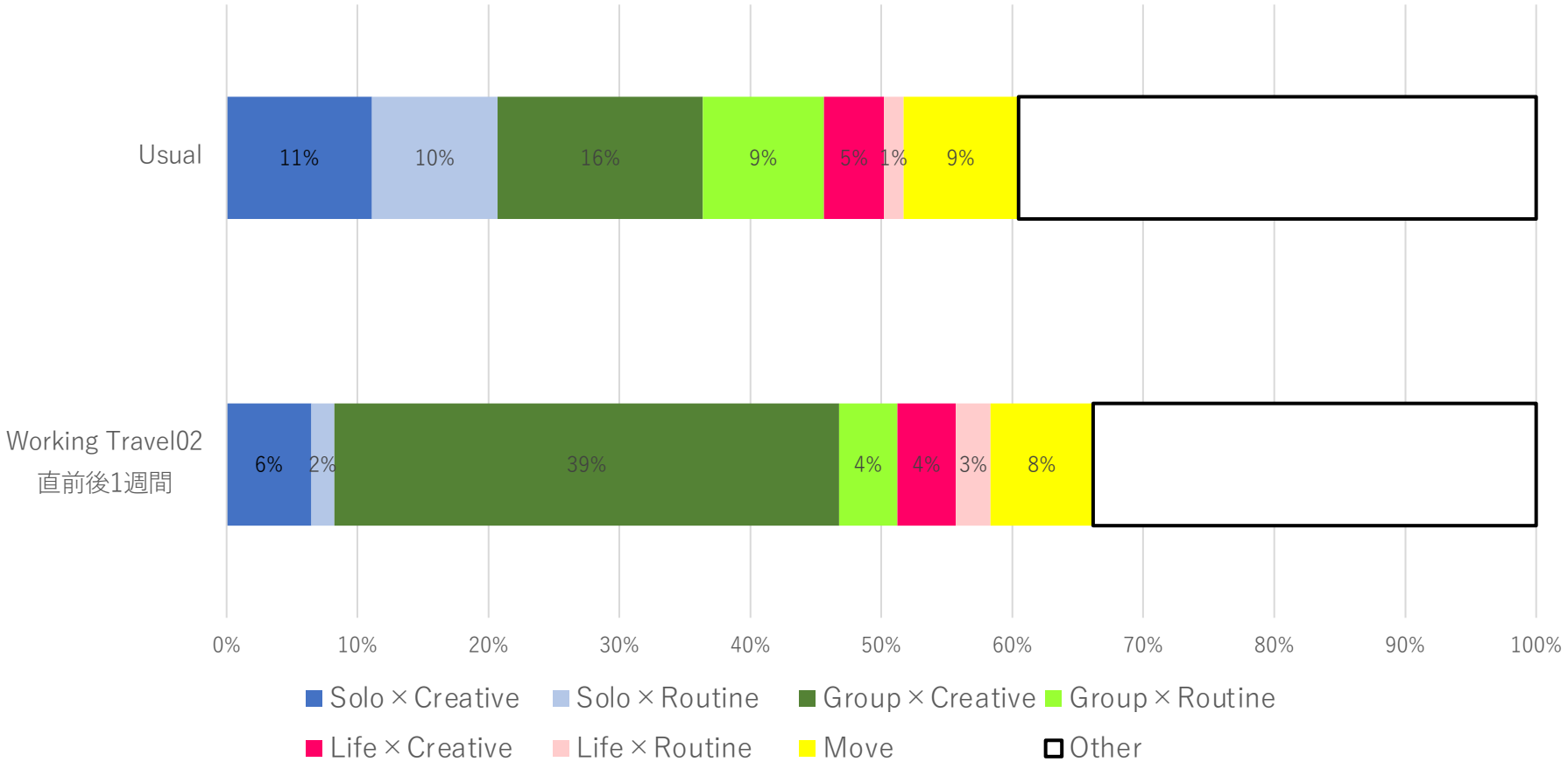


9月10日（月）～17日（日）のLIFELOG

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

LIFELOG分析

チームミーティング量の変化



© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

人体の活動量、会話量等を測定

測定項目：
会話時間、歩数、皮膚温度、
活動量、UV値等

TDK　Silmee

オムロン環境センサー

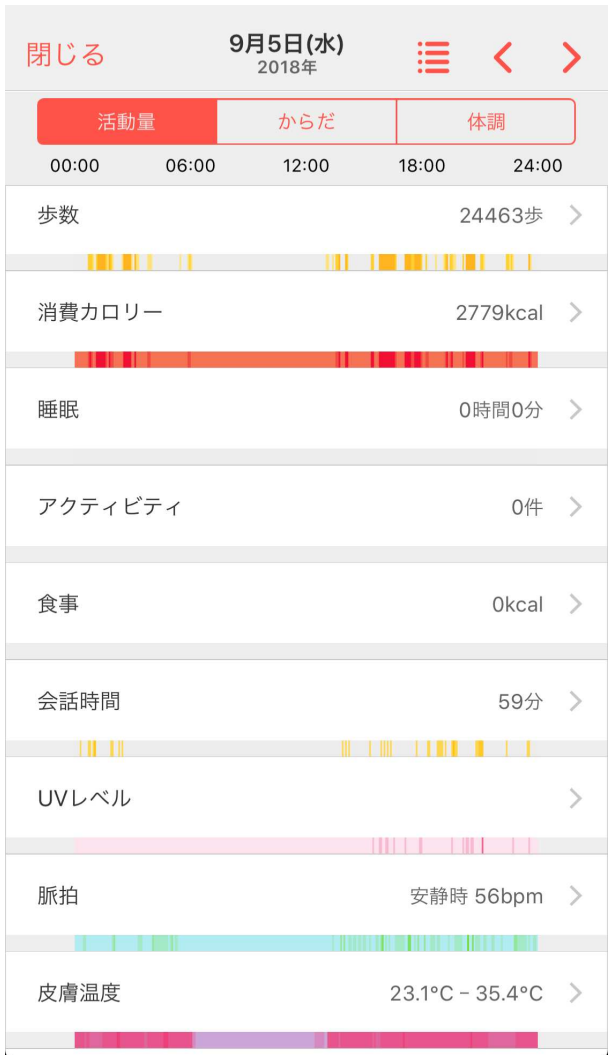
滞在している屋内・屋外環境を測定

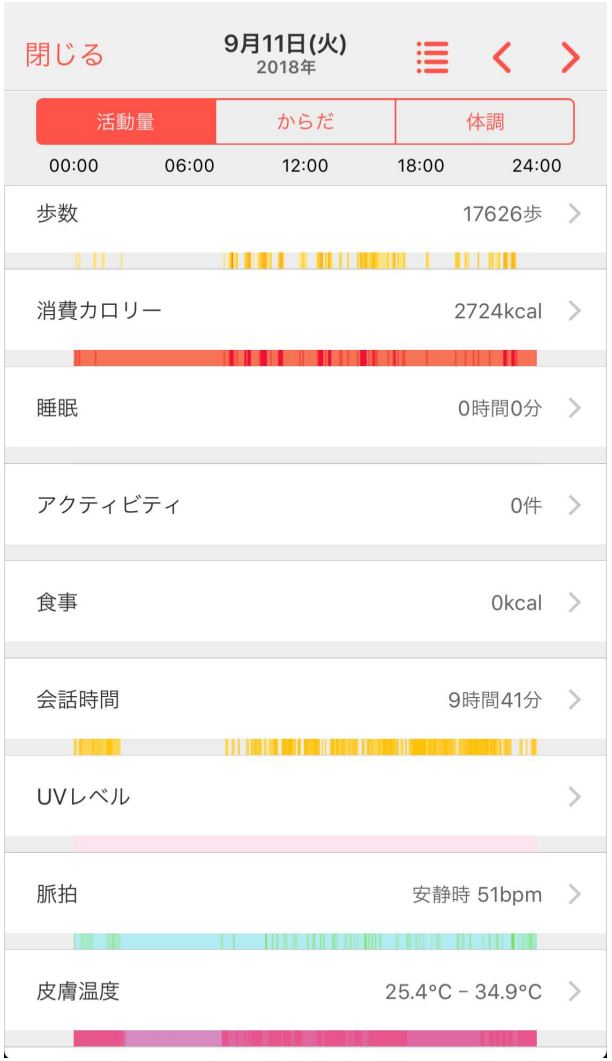
測定項目：
温度、湿度、騒音値、照度等

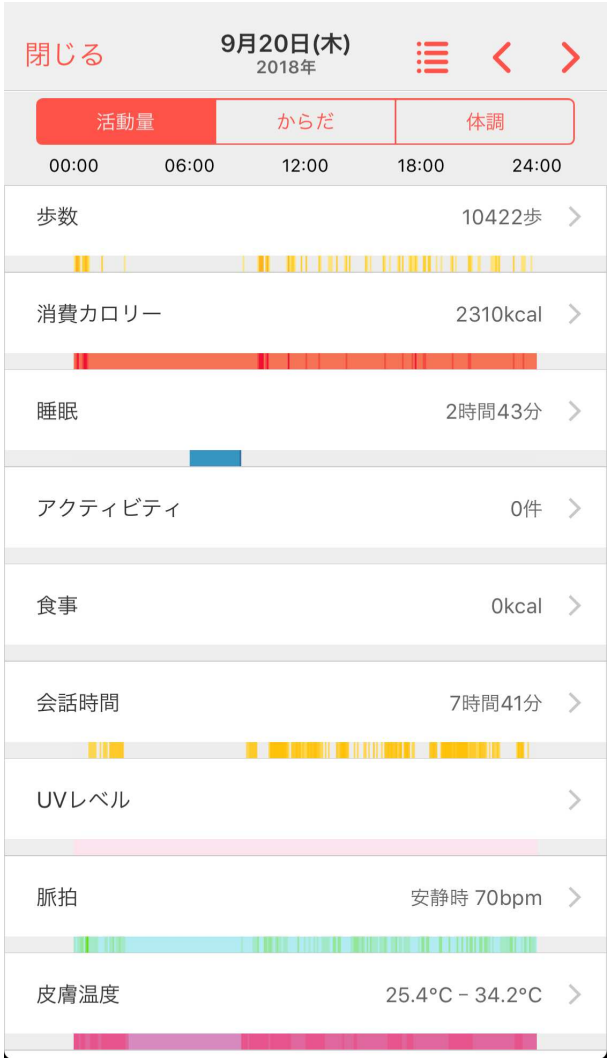
共同研究の依頼⇒モルモット化

環境・バイタルデータ分析

会話量の変化



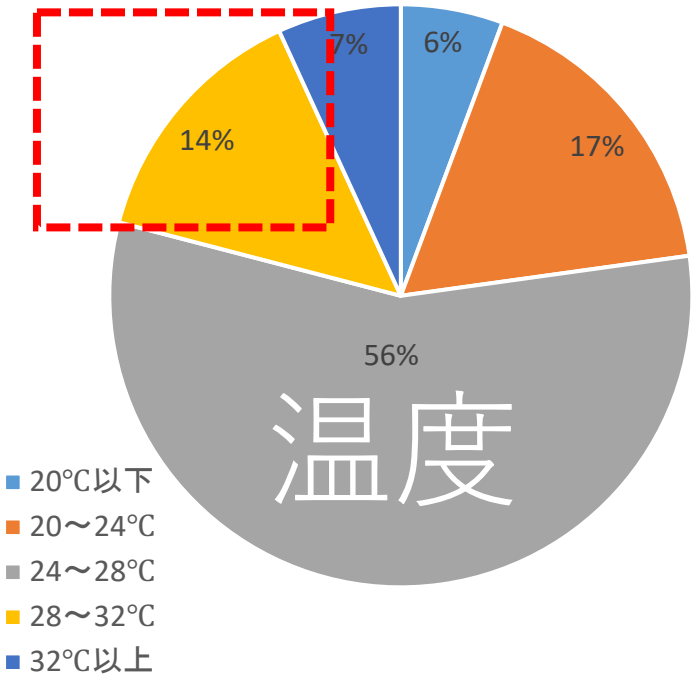




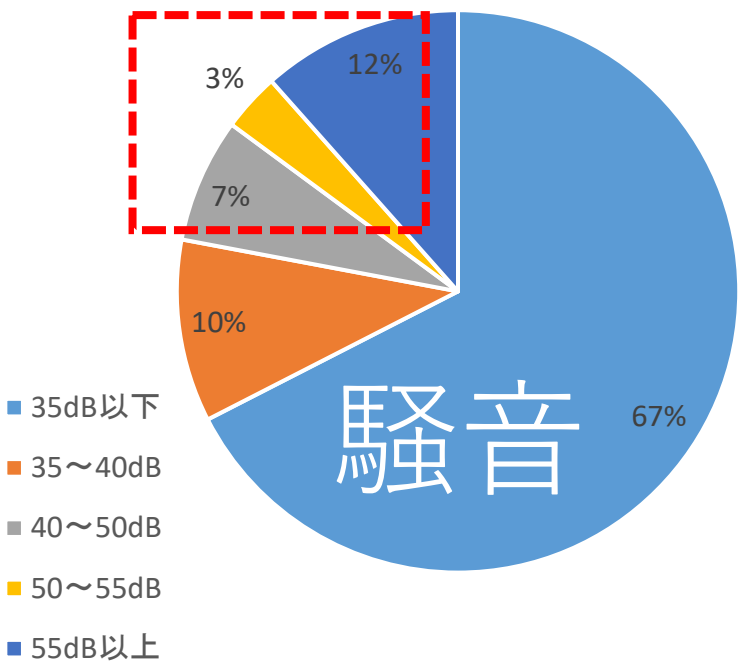
© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

環境・バイタルデータ分析

環境分析



28℃以上の暑い環境は以外と少ない。全体の21%



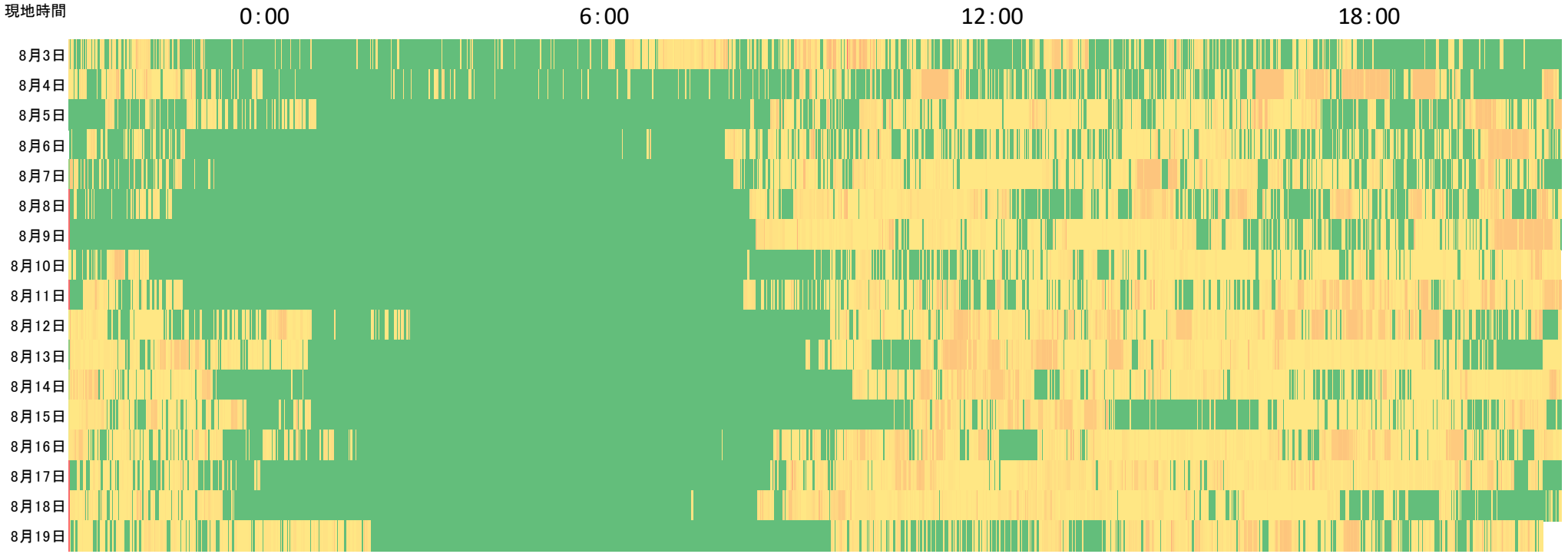
騒音が気になる40dB以上の割合は22%程度。

© Unknown Meets Ethnography ALL RIGHTS RESERVED 20XX

環境・バイタルデータ分析

活動量

低い　高い



© Unknown Meets Ethnography
ALL RIGHTS RESERVED 20XX

Working Travel

「旅をしながら働く」実証実験